但地手形ニ

ナル所持人ニ非サルコトヲ爭ヒ得ヘキハ當然ナリ

○手形ニ瑕疵アルモ既ニ其使用ヲ終リタルトキハ之カ無效ヲ主張スルコトヲ得ス　三九　一二四八

○手形上ノ債務ヲ負擔スル爲メ紙面ニ署名シ他人ニ手形ノ要件ヲ補充セシムル意思ヲ以テ之ヲ交付シタルトキハ署名者ノ行爲ハ其交付ノ當時既ニ完成シ手形行爲トシテ有效ナルモノトス從テ書面交付ノ後手形要件補充ノ當時ニ至ルマテノ間ニ於テ署名者死亡シ又ハ無能力ト爲ル等ノ事故生スルモ原則トシテ其署名ノ效力ニ影響ヲ及ホスコトナシ　四〇　二一三

○手形振出人又ハ裏書人ノ記名捺印ハ他人ヲシテ之ヲ爲サシムルモ法律上妨ナケレハ苟モ其記名捺印カ名義人ノ意思ニ出テタル以上ハ該名義人ハ手形上ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス　四一　一九八

○振出人カ爲シタル手形行爲ノ效力ノ有無ハ受取人ノ裏書行爲ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ホサス從テ其振出行爲カ當然無效ナルト將タ取消ニ因リテ無效ニ歸シタルトヲ問ハス裏書人ハ被裏書人ニ對シテ手形上ノ義務ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス　四〇　六〇八

○手形上ノ權利義務ハ其證券ト分離シテ效力ヲ生スルモノニ非サレトモ直接當事者間ニ在テハ合意上其效力ヲ變更シ若クハ他ノ債務ニ更改スルコトヲ妨ケス　四二　八四六

但地手形ニ

◎手形用紙ニ裏書ヲ爲シタル者カ振出人タルヘキ者ニ手形要件ノ記載ヲ一任スルニ當リ手形金額ニ付キ制限ヲ加ヘタル場合ニ於テ振出人カ其補充權ヲ濫用シテ制限ヲ超過スル手形金額ヲ記載シタルトキト雖モ裏書人ハ適法ニ手形ヲ取得シタル善意ノ第三者ニ對シテハ補充權ノ濫用ヲ主張シ以テ其責任ヲ免ルルコトヲ得ス　四三　八三五

○形式上ノ要件ヲ具備スル手形ノ占有者ハ反證ナキ限ハ適法ニ手形上ノ權利ヲ取得シ其手形ヲ所持スル者ト推定スルコトヲ要シ其手形ノ占有者ヲ以テ正當ノ所持人ニ非スト主張スル者ハ其事實ヲ立證スルノ責アルモノトス　四五　四〇六

（第四百三十五條）

『第四百三十五條』

○手形上ニ使用セラレタル文言カ地方ノ慣習上如何ナル意義ヲ有スルヤニ付テハ當事者ニ於テ鑑定又ハ其他ノ方法ニ依リ之ヲ釋明シ得ルモノトス　四五　四一四

○手形上ノ責任ハ一ニ其手形ノ文言ニ從ヒ之ヲ定ムヘキモノニシテ他ノ立證方法ニ依リ其文言ノ意義ヲ變更シ又ハ補充スルコトヲ許サス　三七　二七九

（同三百三十四）　三八　二五九

手形署名者ノ責任ハ手形ノ文言ニ從ヒ之ヲ定ムヘキモノニシテ他ノ立證方法ニ依リ其文言ノ意義ヲ變更シ又ハ補充スルコトヲ許サス

○手形振出人ハ手形ノ振出ニ依リ現實自己ヲ利シタルト否トニ拘ハラス手形ノ文言ニ因リ券面記載ノ金額ヲ支拂フヘキ義務ヲ負擔スルモ此債務ヲ免レタル振出人ハ常ニ手形面記載ノ金員ヲ利得シタルモノト速斷スルコトヲ得ス

三七　二七九

『第四百三十六條』（第四百三十六條）

○代理人トシテ手形ニ署名スル者カ本人トノ代理關係ヲ表示スルニハ一定ノ文字ヲ記載スヘキ特別ノ方式アルニ非サルヲ以テ本人ノ爲メニ手形行爲ヲ爲スコトヲ認識シ得ル程度ニ記載スレハ足ルモノトス

三八　一三九二

○如上ノ場合ニ於テ代理人カ手形面ニ本人ヲ表示スルニハ其氏名又ハ商號ヲ記載スヘキ旨ノ規定ナケレハ本人其人ヲ認識シ得ル程度ニ記載スルヲ以テ足レリトス

四〇　三五九

『第四百三十七條』（第四百三十七條）（刑）

○手形ヲ僞造シタル者ハ善意ノ取得者ニ對シ手形上ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス故ニ僞造手形ヲ受領シタリトテ未タ損害ヲ被ムリタルモノト云フヘカラス

四〇　三五九　六七一

○手形ノ變造ニシテ單ニ或文言ヲ添加シタルニ止マリ既存ノ文言ヲ變改シタルモノニ非サル場合ニハ變造ニ係ル部分ヲ除却セハ變造前ノ文言ハ依然存在スルヲ以テ手形上ノ權利關係ニ何等ノ影響ヲ及ホサス從テ其前ニ署名シタル者ハ以前ノ文言ニ從ヒ手形上ノ債務ヲ負擔スヘキハ當然ナリ

三八　七八九

○一覽拂ノ手形ニ裏書シタル者ハ爾後該手形カ滿期日アルモノニ變造セラレタル場合ト雖モ一覽拂手形ノ裏書人トシテ責任ヲ負フニ止マリ其變造シタル文言ニ從ヒテ責任ヲ負フヘキモノニ非ス

三九　一二〇三

『第四百三十八條』（第四百三十八條）

○商法第四百三十八條ノ規定ハ手形ニ署名シタル者ハ其文言ニ從ヒ責任ヲ負フヘキモノナルカ故ニ手形當事者中偶〻無能力ノ故ヲ以テ其債務ヲ取消スモノアルモ之カ爲メ他ノ署名者ノ債務ニ影響ヲ及ホササルコトヲ示シタルモノニシテ全然意思能力ヲ有セサル無能力者ノ手形行爲ヲ以テ有效ナリトスルノ法意ニ非ス

三八　七〇六

○商法第四百三十八條ハ手形振出ノ當時無能力者タリシ者カ其取消權ノ存續中手形ヨリ生シタル債務ヲ取消シタルトキト雖モ他ノ手形上ノ權利義務ニ何等ノ影響ヲ及ホササルコトヲ定メタルモノニシテ無能力者

自ラ手形ヲ振出シタル場合ニ未タ行爲能力ヲ得サリシ時ニ在ラサレハ其振出行爲ヲ取消シ得サル旨ヲ定メタルモノニ非ス

○商法第四百三十八條ニ所謂他ノ手形上ノ權利義務トハ手形行爲ヲ取消シタル無能力者以外ノ者ノ權利義務ヲ指稱セルモノトス從テ無能力者ニ對スル手形所持人ノ支拂請求權ノ如キハ之ニ包含セス

三九　七五八

（第四百三十九條）

『第四百三十九條』

○小切手ノ支拂保證ナルモノハ商法ノ規定セサル事項ナレハ縱令小切手ニ斯ノ如キ記載ヲ爲スモ手形法上何等ノ效力ヲ有セス

○當事者カ手形關係以外ニ於テ一ノ法律關係ヲ生セシムル意思ヲ以テ小切手ニ支拂保證ノ記載ヲ爲シタルトキハ法律上其效力ヲ生スヘキモノト爲スヲ當然トス

四四　一三九

（第四百四十條）

『第四百四十條』

○雇人カ約束手形ヲ振出シタル後受取人ヨリ其手形金額支拂ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ該手形ハ主人ノ代理トシテ振出シ受取人ハ其事實ヲ知悉シ乍ラ之ヲ受取リタルモノナリトノ抗辯ハ當事者間ニ生セシ直接ノ事由ナルヲ以テ商法第四百四十條但書ノ規定ニ從ヒ振出人ヨリ受取人ニ對シ直接ニ對抗シ得ヘキモノトス

四四　一三九

○手形ノ記載事項カ虛僞ニシテ眞正ナル事實ヲ立證スルトキハ之カ爲メ實質上當事者ノ權利義務ニ影響ヲ及ホスヘキ場合ニ在リテハ手形上ノ請求ニ對スル實質上ノ抗辯トシテ其無效ヲ主張シ得ルモノトス

○手形債務者カ裏書人ニ對シ相殺ニ適シタル債權ヲ有スル事實ハ裏書人ニ對抗シ得ヘキ事由ニシテ之ヲ被裏書人ニ對抗シ得ルニハ必スシモ裏書人ニ對シテ相殺ノ意思表示ヲ爲シタルコトヲ要セス

○振出人カ額面ノ金員ヲ受取ルコトヲ條件トシテ手形ヲ振出シタルトキハ手形金請求者ニ對シ未タ其金員ヲ受取ラサルコトヲ爭ヒ得ルモノトス

三七　一〇二三
三八　七二〇
三九　一四四八

（第四百四十一條）

『第四百四十一條』

○手形ヲ取得セシ原因カ消滅シタル場合ニ於テハ其取得者ハ手形取戻ノ請求ニ應セサルヘカラス

○商法第四百四十一條ハ形式上適法ナル手形所持人ハ其取得ノ際讓渡人カ手形ヲ讓渡スル權利ナキコトヲ知リタルカ又ハ之ヲ知ラサルニ付キ重大ナル過失アル場合ノ外有效ニ手形ヲ取得スヘキコトヲ規定シ以テ善意ノ手形取得者ノ權利ヲ確保シタルモノトス

○商法第四百四十一條ノ規定ニ依リ手形ノ返還ヲ請求シ得ルニハ手形所

三三　一一三
四三　二二五

持人カ手形ノ規定ニ依ラサル事由ニ因リ手形ヲ失ヒタル場合ニ於テ其取得者ニ惡意又ハ重過失アリタルコトヲ要ス

（第四百四十二條）

『第四百四十二條』

○手形ノ支拂地ニ支拂人カ營業所住所及ヒ居所ヲ有セサル場合ニ於テ商法第四百四十二條ノ手續ヲ爲サスシテ當然支拂請求ノ手續ヲ爲シタルモノト看做シタルハ違法ナリ

○拒絶證書カ拒絶者ノ營業所又ハ住所以外ニ於テ作成セラレタルモノナルヤ否ヤヲ爭フトキハ被拒絶者ニ於テ其場所ハ拒絶者ノ營業所又ハ住所ナルコトヲ證明スルノ責任アルモノトス

○執達吏カ當該官署若クハ公署ニ問合ヲ爲サスシテ振出人ノ住所ナリト判斷シタル事項ハ裁判所ヲ羈束スル效力ナシ

○支拂ノ場所ヲ記載シタル手形ニ付テハ該場所ニ於テ其呈示及ヒ拒絶證書ノ作成ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

（第四百四十三條）

『第四百四十三條』

（參照）

舊商法ノ施行中滿期日ノ到來シタル約束手形ニ關スル時效期間ノ計算ニ付テハ民法第百四十條ノ規定ヲ適用スヘキモノナレハ滿期日ヲ算入スヘキモノニ非ス

四三		二五	
三三	八	四	
三四	一	六三	
三四	一	六三	
三四	五	七七	
三四	一〇	一三五	

（第四百四十四條）

『第四百四十四條』

○商法第四百四十四條ニ所謂振出人ノ受ケタル利益トハ其現實ニ受ケタル利益ヲ指稱シ手形債務者カ支拂ニ代ヘテ更ニ手形ヲ振出シタル事實ノ如キハ之ニ包含セス

○商法第四百四十四條ノ請求權ハ手形行爲ニ因リテ生スルモノニ非サルハ勿論其他何等ノ商行爲ニ因リテ生スルモノニモ非サルヲ以テ普通債權ニ對スル時效ヲ適用シ其權利ヲ行使シ得ヘキ時ヨリ十年ヲ經過スルニ因リテ消滅スルモノトス

○手形ヨリ生シタル債權カ時效ニ因リ消滅シタル場合ニ於テ商法第四百四十四條ニ依リ振出人又ハ引受人ニ對シ償還請求權ヲ有スルニハ其當時ニ於テ手形上ノ正當債權者タルヲ以テ足リ最後ノ裏書ニ因リテ手形ヲ取得シタル所持人タルト被裏書人ニ對シ償還義務ヲ履行シタル裏書人タルトヲ問フノ要ナシ

○商法第四百四十四條ノ請求權ハ純然タル民法上ノ不當利得返還ノ請求權ニ非スシテ手形法ニ規定セル非手形上ノ償還請求權ニ過キサレハ同條ノ請求權ヲ行使スルニハ振出人カ手續ノ欠缺等ニ因リ手形上ノ債務ヲ免レ利益ヲ受ケタルヲ以テ足レリトシ所持人ニ於テ手形取得ニ付キ

四〇		二〇	
四五		三九七	
二		九〇	

對價ヲ供シ及ヒ損失ヲ蒙リタルコトヲ必要トセス　二　二三六

（同上旨）

商法第四百四十四條ノ償還請求權ハ純然タル民法上ノ返還請求權ニ非スシテ手形法ノ認ムル非手形上ノ償還請求權ナリトス　四五　三九七

○商法第四百四十四條ノ請求權ハ手續ノ欠缺等ニ因リテ手形上ノ權利ヲ喪失シタル所持人ノ爲メ利益ヲ受ケタル振出人等ニ對シテ特別ニ付與セル權利ニシテ所持人カ前主ノ權利ヲ承繼スルモノニ非ス從テ振出人ハ前主トノ間ニ相殺スヘキモノアルモ所持人ニ對シ相殺ヲ主張スルヲ得ス　二　二三六

第二章　爲替手形

○荷爲替契約ハ荷送人ト銀行トノ間ニ於テ一種ノ消費貸借關係ヲ生スルモノニシテ商法施行以前ヨリ存在シタル行爲ナリトス從テ荷爲替手形ハ必スシモ商法所定ノ爲替手形タルコトヲ要セス　三七

○商法施行以後當事者カ爲替手形ノ名稱ヲ以テ發行シタル證券ハ縱令荷爲替ノ方法ニ供セラレタル場合ト雖モ其手形關係ニ付テハ同法ニ規定セル手形ノ法則ヲ適用スルコトヲ要ス　四〇　九一一

第一節　振出

○商法ハ二人以上共同シテ手形行爲ヲ爲スコトヲ禁止セス故ニ數人カ一ノ手形ヲ振出スモ其效力ノ妨ト爲ルコトナシ　三七　一五九七

（同上旨）

手形ニ振出人數名アルモ其效力ノ妨ト爲ラス

（第四百四十五條）

『第四百四十五條』

○商法ハ手形ノ裏書又ハ手形債務ノ保證ヲ爲ス場合ニ補箋ヲ使用スルコトヲ認許シタルモ支拂地又ハ支拂場所ヲ記載スル爲メニハ之ヲ使用スルコトヲ認許セス　三四　一　一三

○商法カ補箋ヲ使用スルコトヲ認許セサル場合ニ補箋ニ記載シタル事項ハ手形上ノ效力ヲ生セス　三五　九　一〇二

○株式會社ノ取締役カ會社ノ爲メニ手形振出ノ意思ヲ表示スルニ當リテハ會社ノ爲メニスルノ意ヲ明カニシ其手形ニ取締役自身ノ名ヲ署セサルヘカラス　三五　九　一〇二

（第四百五十一條）

『第四百五十一條』

○手形中滿期日ヲ表示スヘキ場所ニ年號ノミヲ記載シ月日ノ記載ナキトキハ一覽拂ノモノト認ムルヲ相當トス　三八　一三五

（第四百五十三條）

『第四百五十三條』

（參照）

支拂擔當者ナルモノハ支拂地カ支拂人ノ住所地ト異ナル場合ニ於テノミ定ムヘキモノトス

（第四百五十四條）

『第四百五十四條』

○支拂場所ノ指定ハ支拂行爲ヲ爲スヘキ一定ノ場所ヲ表示セサルヘカラスト雖モ爲替手形ニ於ケル支拂地又ハ約束手形ニ於ケル振出地ノ記載ノ如ク之ヲ手形ニ表示スヘキ文字ニ付キ法律上一定シタル標準ナシ

（同主旨）

支拂場所ノ記載ハ手形ノ必要事項ニ非サルヲ以テ爲替手形ニ於ケル支拂地又ハ約束手形ニ於ケル振出地ノ記載ノ如ク之ヲ表示スヘキ文言ニ付キ法律上一定シタル標準ナシ

○手形ノ支拂場所ノ表示方法ニ付テハ商法中別段ノ規定ナケレハ苟モ普通ノ方法タル以上ハ如何ナル名稱ヲ以テ之ヲ表示スルモ妨ナシ

○株式會社某銀行ト云フカ如キ名稱ハ一定ノ法人ヲ表示スル爲メニ用キラレ又其營業所ノ表示トシテ用キラルルヲ通常トス故ニ振出人ハ斯ル名稱ヲ以テ手形ノ支拂場所ヲ表示スルコトヲ得ヘシ

第二節　裏書

○手形ノ所持人ニ於テ擅ニ裏書讓渡ヲ抹消シタル上之ヲ償還義務者ニ返還スルモ法律上償還ノ義務ヲ盡シタル效力ヲ生セス隨テ償還義務者カ其手形ヲ握手スルモ爲替法上所持人ノ地位ヲ有セサルモノトス

○差押債權者カ轉付命令ノ效力ニ因リ取得シタル手形ニ基キ振出人ニ對シテ支拂ヲ請求スル場合ニ在リテハ裏書ヲ要スルモノニ非ス

（刑）○裏書ハ獨立ナル手形行爲ニシテ他ノ手形行爲ト分離シ有效ニ成立スルコトヲ得從テ一旦有效ニ成立セル裏書ハ原手形ノ振出人ノ署名僞造ナルカ爲メニ其效力ヲ失フヘキモノニ非ス

○銀行取締役カ其權限內ニ於テ銀行ノ爲メニスルコトヲ表示シ署名ノ上手形ノ裏書ヲ爲シタルトキハ該手形行爲ハ直接ニ銀行ニ對シテ其效力ヲ生スルモノトス而シテ取締役ノ眞意カ果シテ銀行ノ利益ヲ計ルニ在リシヤ將タ其地位ヲ濫用シテ不正ニ自己ノ利益ヲ圖ラントスルニ在リシヤハ之ヲ問フノ要ナシ

○銀行取締役カ其地位ヲ濫用シ不正ニ利益ヲ獲得セントスルニ在リシタル所爲ニ付キ文書僞造罪トシテ處罰ヲ受ケ其裏書ノ部分ヲ沒收セラレタル場合ト雖モ該處分ハ手形所持人ノ權利ニ何等ノ消長ヲ來スコトナシ

（第四百五十五條）

『第四百五十五條』

三四	二	一二三	商法　手形　爲替手形　裏書
三七		二七九	
三六		一〇八一	
三八		八六	
三八		八六	
三三	一	三八	
三八		五九八	
三八		八五二	
三九		四七五	
三九		四七五	

○手形ハ裏書禁止ノ記載アル場合ヲ除ク外當然裏書ニ依リテ讓渡シ得ヘキモノナレハ手形金請求訴訟ノ提起ハ毫モ裏書ノ妨ト爲ルモノニ非ス　三七

○手形上ノ權利ハ證券ト離レテ成立スルコトヲ得サルモノナルヲ以テ手形ノ裏書讓渡ヲ爲スニハ裏書人カ讓渡ノ意思ヲ以テ裏書記載ヲ爲スコトヲ要スルハ勿論尚ホ讓渡ノ意思ヲ以テ手形ヲ他人ニ交付スルコトヲ要スルモノトス　四四　九〇四

（同主旨）

裏書ニ因ル手形債權ノ讓渡ハ當事者カ裏書ノ記載ヲ爲スノミヲ以テ足レリトセス其手形ヲ被裏書人ニ交付シテ始メテ完成スルモノトス　三六　七五四

（第四百五十七條）

『第四百五十七條』

○手形ニ裏書人又ハ被裏書人トシテ商事會社ノ支店ヲ記載シタルモノハ該支店ニ於テ商行爲ヲ爲ス所ノ法人ヲ指示シタルニ外ナラサルモノトス　三四　七　二五

（同主旨）

商事會社ハ其本店若クハ支店ニ於ケル商行爲ノ人格ナルヲ以テ手形ノ裏書ヲ會社支店宛ト爲シタル場合ニ於テ其裏書讓受人ハ法人タル會社ナリトス　三四　四　五三

手形ノ裏書ニ某株式會社支店ヲ裏書讓受人ト爲シタル場合ニハ某株式會社ヲ以テ裏書讓受人ト爲シタルモノト看做スヘキモノトス　三四　五　七七

○本店ト支店トノ間ニ於ケル手形ノ裏書ハ同一人間ニ爲シタル裏書ニシテ手形上何等ノ效力ナク其裏書ハ始メヨリ記載ナキモノト同一ナリトス　三四　七　二五

○手形ノ裏書ヲ爲スニ付キ之ニ附箋シテ裏書人カ署名シタルハ商法第四百五十七條ニ所謂補箋ニ外ナラサレハ裏書ノ方式ニ背反スル所ナシ　三四　八　一四

○商法第四百五十七條ニ規定セル二種ノ裏書ハ孰レモ指圖式手形ニ付キ之ヲ爲スコトヲ得ヘキハ勿論記名式ノ手形ニ付キテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘキハ商法ノ解釋上毫モ疑ヲ容レス　三四　一一　一〇八

○手形券面ヲ補フ紙片即チ補箋ヲ使用スルコトヲ得ヘキ場合ハ商法カ手形券面ニ記載セシムルコトノ事實上困難ナル場合ヲ豫想シ特ニ之ヲ使用スルコトヲ認許シタル場合ニ限ルモノトス　三五　九　一〇二

○商法ハ手形ノ裏書又ハ手形債務ノ保證ヲ爲ス場合ニ補箋ヲ使用スルコトヲ認許シタルモ支拂地又ハ支拂場所ヲ記載スル爲メニハ之ヲ使用スルコトヲ認許セス　三五　九　一〇二

○手形行爲ヲ爲ス者カ其手形ニ記載スル氏名又ハ商號ハ必ス公簿上ノモノニ限ルヘキ理由ナケレハ氏名若クハ商號ノ形體ヲ具フルモノニシテ本人ノ慣用ニ依リ知人又ハ隣佑間其稱呼ナルコトヲ知了セル場合ニハ

所謂通稱ハ勿論雅號ト雖モ亦手形方式上ノ氏名若クハ商號タルニ妨ナキモノトス　三九　一二〇三

○手形裏書人カ裏書ノ日附ヲ遡記シタル場合ト雖モ仍ホ其日附ノ存在タルコトヲ失ハサルカ故ニ此一事ヲ以テ裏書ノ形式不適法ナリト云フヲ得ス（第五百二十九條三六年一四四頁參照）　四一　八二六

○手形要件ノ記載ナキ手形用紙ニ豫メ裏書ヲ爲シタル者カ振出人タルヘキ者ニ之ヲ交付シ手形要件ノ記載ヲ一任シタル場合ト雖モ後日其振出人タルヘキ者カ手形要件ヲ記載シ振出行爲ノ形式ヲ完備シテ之ヲ他人ニ交付シタルトキハ茲ニ其振出行爲完成シ之ト同時ニ右裏書行爲モ完全ニ其效力ヲ發生スルモノトス　四五　四〇六

（同主旨）

手形ノ成立前其受取人タルヘキ者カ豫メ手形用紙ニ裏書ヲ爲シタル場合ト雖モ爾後振出人ニ於テ該手形成立ニ必要ナル事項ノ記入及ヒ手形ノ交付ヲ爲シ振出行爲完成スルトキハ其裏書ハ之ト同時ニ效力ヲ發生スルモノトス

○署名ノミヲ以テ裏書ヲ爲シタル手形ノ所持人カ之ヲ他人ニ交付シタルトキハ即チ讓渡ノ效力ヲ發生セシムルノ意思ヲ表示シタルモノナレハ其實取立委任ノ目的ニ出テタリトスルモ唯當事者間ニ或種ノ關係ヲ生スルニ止マリ法律上有效ナル讓渡ノ成立ヲ妨クヘキモノニ非ス從テ第三者ハ其讓渡ヲ否認シ得サルモノトス　四一　一一五四

○手形ノ裏書ヲ爲スニ當リ被裏書人ヲ指定セサル以上ハ偶〻其裏書ノ年月日ヲ記入スルモ白地裏書トシテ有效ナリトス　四三　九五

（同主旨）

手形ノ裏書ニシテ被裏書人ノ指定ナキ場合ニ於テハ苟モ裏書人ノ署名アルトキハ年月日ノ記載アルト否トニ拘ハラス適法ノ裏書ナリトス　三六　一〇七一

『第四百六十一條』（第四百六十一條）

○無記名裏書アル手形ノ所持人カ商法第四百六十一條ニ從ヒ自己ヲ被裏書人ト爲スニ付テハ年月日ヲ記載スルコトヲ要セス　四〇　一〇九六

『第四百六十二條』（第四百六十二條）

○手形ノ所持人カ支拂拒絶證書作成期間經過ノ後裏書ヲ爲シタルトキハ手形債務者ハ手形ニ記載ナキ事項ト雖モ裏書人ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由ハ總テ之ヲ被裏書人ニ對抗シ得ルモノトス　三八　七二〇

○商法第四百六十二條ハ支拂拒絶證書作成期間經過ノ後手形ノ裏書讓渡ヲ受ケタル者ハ手形債務者カ裏書人ニ對抗シ得ヘキ事由ノ隨伴シタル權利ニ非サレハ之ヲ取得スルコト能ハサル趣意ヲ明カニシタルモノニ

シテ即チ如上ノ被裏書人ニ對シテハ同第四百四十條ノ適用アラサルコトヲ示シタルニ外ナラス

○商法第四百六十二條ハ民法第九十四條第二項ノ適用ヲ除外シタル規定ナリトス

（第四百六十三條）

『第四百六十三條』

（參照）

荷爲替ニ於ケル爲替手形ハ流通證券トシテ發行スルモノニ非ス從テ受取人ナル銀行カ他ノ銀行ニ裏書ヲ爲スコトアルモ其旨趣タル手形記載ノ金額取立ヲ委任スルヲ以テ通例トシ權利ノ移轉ヲ目的トスルモノニ非ス

手形債權ノ讓渡ノ爲メニスル裏書ト取立ノ爲メニスル裏書トハ其目的ヲ同ウセス從テ取立ノ爲メニスル裏書ヲ表面上讓渡ノ爲メニスルカ如ク假裝スルコトハ事實上必スシモ之ヲ爲シ得サルモノニ非ス

取立委任ノ裏書ハ手形ノ讓渡ニ非サレハ被裏書人ハ取立委任ノ裏書ヲ除ク外他ノ裏書ヲ爲スコトヲ得ス故ニ其裏書人ハ依然手形債權者ニシテ毫モ權利ヲ減損セラレサルヲ以テ何時ニテモ其手形ヲ回收シ裏書讓渡ヲ爲シ得ヘキ地位ニ在ルモノトス

（第四百六十四條）

『第四百六十四條』

○署名ノミヲ以テ裏書ヲ爲シタル手形ノ所持人甲者カ同シク署名ノミニ依ル裏書ヲ以テ之ヲ乙者ニ讓渡シ乙者ハ更ニ之ヲ丙者ニ裏書シタルモ

四一　六〇七
四二　五六〇
三六　七二八
三九　一二四八
三九　一六一三

其不適式ニシテ無效ナルトキハ空白ト異ナラス故ニ丙者カ自己ヲ被裏書人ト爲シタル場合ニ在テハ甲者ハ直接ノ前者タルヘキコト當然ニシテ其間裏書連續ノ問題ヲ生スヘキモノニ非ス

第三節　引受

○爲替手形ノ支拂人ハ單ニ資金ノ送付ヲ受ケタルカ爲メ手形ノ引受ヲ爲ササルヘカラサルノ義務ヲ負擔スルモノニ非スシテ引受ノ諾否ハ一ニ其意思如何ニ因リ定マルモノトス

○荷爲替契約ニ於テ荷受人タル支拂人カ手形ノ引受ヲ爲シタルニ止マリ未タ手形金ノ支拂ヲ了セサル間ハ支拂人ハ所持人ニ對シ手形金支拂ノ債務ヲ負擔スルニ過キサルヲ以テ縱令荷主カ手形ノ割引金ヲ受取人ヨリ受領シタレハトテ支拂人カ荷主ニ對スル賣買代金支拂ノ債務ヲ免ルルモノト云フヲ得ス

（第四百六十八條）

『第四百六十八條』

○手形ノ引受行爲ヲ目的トスル契約上ノ債務ハ商法第四百六十八條ノ手續ヲ履踐セサレハ發生シ得サルモノニ非ス

○爲替手形ノ振出以前ニ引受人トシテ紙面ニ署名シタル者カ將來他人ノ之ニ振出要件ヲ記載スル所ニ從ヒ手形上ノ債務ヲ負擔スヘキ意思ヲ以

三五　一一八
九
二　四二一
三六　一四八五

テ其書面ヲ他人ニ交付シタルトキハ手形行爲トシテ有效ナルモノトス

四〇　六〇五

第五節　支拂

○支拂人ニ於テ爲替手形金ヲ支拂ヒタル事實ヲ證明セシニ拘ハラス振出人ニ於テ資金送付ノ事實ヲ證明セサル場合ニハ未タ其送付ナキモノト推定スヘキハ當然ナリ

三五　九　一一八

『第四百八十二條』

（第四百八十二條）

○手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求ムルニハ必ス家屋内ニ於テ爲ササルヘカラストノ法則ナキカ故ニ手形ニ特記セラレタル支拂場所カ庭園堀又ハ池ニ變シタルトキト雖モ其場所ニ於テ手形ノ呈示及ヒ拒絶證書作成ノ手續ヲ行フヘキモノトス

三六　一一〇七

『第四百八十三條』

（第四百八十三條）

○商法第四百八十三條支拂ハ手形ト引換ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ要セストノ規定ハ手形債務者ニ付與セラレタル權利ニシテ强制執行ノ場合ト雖モ債務者ハ依然此權利ヲ保持スルモノトス從テ手形權利者ハ手形債權ノ請求ヲ爲スニ當リ特ニ手形引換ニ支拂フヘシトノ申立ヲ爲スノ要ナシ

三七　二二八八

○手形債務者カ滿期日前所持人ニ對シ手形ノ交付ヲ受ケスシテ手形金ヲ支拂ヒタル場合ト雖モ其直接ノ當事者間ニ在テハ支拂ノ效力ヲ生シ債務ノ消滅スヘキハ當然ナリ

三九　七五〇

第六節　償還ノ請求

○手形ノ所持人ニ於テ擅ニ裏書讓渡ヲ抹消シタル上之ヲ償還義務者ニ返還スルモ法律上償還ノ義務ヲ盡シタル效力ヲ生セス從テ償還義務者カ其手形ヲ握手スルモ爲替法上所持人ノ地位ヲ有セサルモノトス

三三　一　三八

○手形上權利ヲ失ヒタル者ハ其債務者ニ對シ法律上請求權ヲ有セサルモノニシテ債務者ヨリ進テ債務ノ辨濟ヲ爲スカ如キハ所謂自然義務ヲ盡スモノニ外ナラス從テ債權者ハ斯ノ如キ者ニ對シテ請求ヲ爲スヘキ責アルコトナシ

三九　一三七七

『第四百八十七條』

（第四百八十七條）

（參照）支拂ノ請求ハ滿期日ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ルノミナラス其後二日内即チ支拂拒絶證書作成期間内ニ之ヲ爲スコトヲ得ルモノナレハ執達吏カ支拂拒絶證書作成ノ委任ヲ受ケ滿期日後二日内ニ支拂人ニ對シ手形ヲ呈示シテ爲シタル支拂ノ請求ハ有效ニシテ償還請求ノ一要件ニ當ルニ足ルモノトス

手形所持人ハ滿期日以後ニ於テモ拒絶證書作成ノ期間内ハ適法ニ手形ノ呈示ヲ爲スコトヲ得ヘシ

三六　一三九

商法　手形　爲替手形　償還ノ請求

三六　九一三

商法第四百八十七條ノ法意ハ償還請求ノ爲メニ必要ナル手形ノ呈示ハ必スシモ滿期日ニ爲スコトヲ要セス滿期日ノ後二日内ニ於テモ亦之ヲ爲シ得ヘキ旨趣ナリト解釋セサルヘカラス

手形所持人カ前者ニ對シテ償還請求ヲ爲サントスルトキハ必スヤ支拂ヲ求ムル爲メ手形ヲ呈示スルコトヲ要ス故ニ振出人ノ住所其他呈示ヲ爲スヘキ場所ノ知レサル手形ニ付テハ其呈示ナキコトヲ理由トシテ償還ノ請求ヲ拒ムコトヲ得スト判示シタルハ失當ナリ

手形所持人カ支拂ヲ求ムル爲メ支拂場所若クハ支拂ヲ求ムルニ適當ナル場所ニ至ルモ支拂義務者ニ面會スルコト能ハサルトキハ手形ノ呈示ハ茲ニ完了セルモノトス

拒絶證書ハ所持人カ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求メタルニ拘ハラス振出人ニ於テ支拂ヲ拒ミタル場合ニ作成スル文書ナレハ裁判所ハ之ニ依リ手形呈示ノ事實ヲ認メ得ルモノトス

手形所持人カ支拂ヲ求ムヘキ時期ニ於テ手形ヲ携帶シ支拂場所ニ臨ミタルモ支拂人不在等ノ爲メ支拂ヲ求ムルコト能ハサリシ場合ハ法律上手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求メタルト同一ナリ

『第四百八十七條ノ二』

（參照）

償還請求ノ通知ハ拒絶證書作成ノ翌日マテニ發スレハ足ル其期間内ニ到達スルヲ要セス

執達吏カ償還請求ノ通知ヲ送達スル場合ニ於テ其手續ハ民事訴訟法ノ規定ニ依ルヲ要セス

商法第四百八十七條ニハ償還請求通知ノ發送ヲ以テ償還請求ヲ爲ス要件中ニ置キタルノミニヲ其方法ヲ定メサルニ因リ通知カ通常到達シ得ヘキ手續ヲ執了スルヲ以テ其發送アリトスルニ足リ必スシモ意思傳達ノ機關ト定マリタルモノニ依ルコトヲ要セス

商法第四百八十七條ニ所謂通知ヲ發スルトハ郵便ニ依ルト執達吏ニ依囑シ若クハ雇人其他ノ人ヲ介スルトヲ問ハス償還義務者ニ達シ得ヘキ方法ヲ執レハ足ルモノニシテ文書ニ依リテ通

（第四百八十七條ノ二）

三六		一一五一
三七		九六六
三七		一〇九一
三九		一五五一
三九		一五五一
三四	一〇	七
三四	一〇	七七
三五	八	一

知ヲ爲スコトノミニ限リタルモノニ非ス

商法第四百八十七條ニ謂フ償還請求ノ通知ヲ發ストハ償還請求ヲ爲サントスル手形ノ所持人カ其通知ノ發送ニ關シ自ラ爲スヘキ行爲ヲ完了シ其通知ヲシテ當然被通知人ニ到達スヘキ狀態ニ在ラシムルノ義ニ外ナラス

償還請求ヲ爲サントスル手形ノ所持人カ其通知ノ傳達ヲ執達吏ニ依囑シタル場合ニ於テハ執達吏ノ承諾ヲ得タル時期ニ至リ始メテ請求ノ通知ヲ發シタルモノト云フヲ得從テ執達吏ニ對シ其傳達依囑ノ信書ヲ發シタル行爲ハ未タ以テ償還請求ノ通知ヲ發シタル行爲ト云フヲ得ス

商法第四百八十七條ニ所謂償還請求ノ通知ハ拒絶證書作成ノ翌日マテニ之ヲ發送スレハ足ルト雖モ其發送タルヤ必ス通常先方ニ到達スヘキ相當ノ方法ヲ採ラサルヘカラス

拒絶證書作成ノ免除ヲ受ケタル者カ其免除ヲ利用シテ該證書ヲ作成セサル場合ニ於ケル償還請求ノ通知ハ拒絶證書作成時期終了ノ翌日マテニ之ヲ爲スヘキモノトス

手形所持人カ執達吏ニ對シテ爲シタル償還請求通知送達ノ委託ニシテ不法ナル以上ハ全ク其委託ヲ爲ササルト同一ナリ從テ所持人ハ償還請求ノ通知ニ付キ償還義務者ニ通常到達スヘキ方法ヲ採リタルモノト云フヲ得ス

償還請求ヲ爲サントスル手形所持人カ滿期日又ハ其翌日拒絶證書ヲ作成セシメタルトキハ該請求ノ通知ハ滿期日ノ翌日又ハ滿期日後二日目マテニ之ヲ發送セサルヘカラス

償還請求通知ノ方法ハ法律ニ之ヲ規定セサルヲ以テ通常被通知者ニ到達スヘキ方法ヲ採レハ足ルモノトス而シテ其通知書ヲ郵送スル場合ハ何人ヲシテ之ヲ郵便ニ付セシムルモ法律上妨ナキカ故ニ通知者ノ依囑ヲ受ケ郵便ニ付シタル者カ執達吏タルト否トニ因リ發送ノ效力ニ何等ノ消長アルコトナシ

三五	八	二四
三七		一二六四
三七		一二六四
三七		一三三九
三七		一五五七
三八		一五四八
三九		一七三六
四〇		八六三

（第四百八十八條）

『第四百八十八條』

（參照）

手形債權者ノ償還請求ニ應シ辨濟ヲ爲シタル償還義務者カ其前者ニ對シテ償還請求ヲ爲スニハ商法第四百八十八條ニ依ルノ外他ニ履行スヘキ手續アルコトナシ故ニ償還ヲ爲シタル事實ヲ主張シ該規定ニ從ヒ求償ヲ爲ス者アル場合ニ於テハ其義務ヲ履行シタル證據トシテ提出セル手形ニ被裏書人トシテ記載セラレタルト否トハ其請求ノ當否ヲ決スル準據ト爲ラス

（第四百八十九條）

『第四百八十九條』

○手形ノ所持人ハ拒絶證書作成ノ義務ヲ免除セラレタル場合ト雖モ之ヲ作成セシムル權能ヲ有ス

○拒絶證書作成免除ノ行爲ハ之ヲ手形ニ記載セサレハ手形上ノ效力ヲ生スルコト能ハスト雖モ直接當事者間ニ在リテハ縱令之ヲ手形ニ記載セサルモ意思表示ノ效力ヲ有スルモノトス

（第四百八十九條ノ二）

『第四百八十九條ノ二』

（參照）

拒絶證書作成ノ義務ノ免除ハ單ニ拒絶證書ノミニ依ル立證方法ノ制限ヲ解キタルニ過キスシテ立證責任ヲ免除スルモノニ非サレハ手形所持人ハ呈示ノ事實ヲ立證スル責任アルモノトス支拂拒絶證書作成義務ノ免除ハ償還請求權ノ保存ニ付キ手形所持人ヲシテ單ニ支拂拒絶證書ヲ作成スルノ義務ヲ免レシムルニ止マリ支拂ノ爲メニ手形ヲ呈示スルノ義務ハ勿論其呈示ノ事實ヲ證明スルノ責任ヲ免レシムルモノニ非ス

三六	三六	二八七	
三五	一	三八	
三七		一五八五	
三五	六	四二	
三六		八五三	

（第四百九十二條）

『第四百九十二條』

○償還ノ請求ヲ受ケタル手形裏書人ハ其支拂ヒタル金額及ヒ支拂ノ日以後ノ法定利息ニ付キ前者ニ對シテ更ニ償還ヲ請求シ得ルモ其支出セサリシ金額ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第七節　保證

（第四百九十七條）

『第四百九十七條』

○商法第四百九十七條ハ手形ヨリ生スル債務ハ其手形、謄本又ハ補箋ニ署名スルニ非サレハ手形法上之ヲ保證シ得サル旨ヲ規定シタルニ過キスシテ別箇ノ書面ニ依リテ民事上ノ保證ヲ爲スコトヲ禁シタルモノニ非ス

○手形上ノ債務ヲ保證スル者ハ主タル債務者ト同一ノ責任ヲ負フモノナルヲ以テ手形ノ所持人カ右保證人ニ對シ其債務ノ履行ヲ求ムルニハ豫メ主タル債務者ニ對シテ支拂ヲ求ムル爲メ手形ヲ呈示スルノ要ナキモノトス

（第五百十四條）

『第五百十四條』

○執達吏カ手形所持人ヨリ支拂拒絶證書作成ノ委任ヲ受ケタル以上ハ委

四一	三六	八三四	
四五	三六	三二四	
		四九	

任者ノ爲メニ支拂人ニ對シ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ請求スルノ權能ヲ有ス

（第五百十五條）

『第五百十五條』

○商法第五百十五條第二號所定ノ請求ニ關シ執達吏カ干與シタル以上ハ請求者カ委任ヲ受ケタル執達吏自身ナルト所持人又ハ其代理人ナルトヲ問フヲ要セサルモノトス

（參　照）

商法第五百十五條ノ規定ハ唯手形其謄本及ヒ補箋ニ記載シタル事項ヲ拒絶證書ニ記載スヘキコトヲ命シタルニ止マリ手形ヲ原狀ノ如クニ謄寫スヘキコトヲ命シタル規定ニ非ス

商法第五百十五條第四號ハ前號ノ請求ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スコト能ハサリシ地ノ記載方ニ付キ一定ノ方式ヲ規定シタルモノニ非サルヲ以テ拒絶證書ハ之ニ記載セル他ノ事項ト對照シテ前號ノ請求ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スコト能ハサリシ地タルコトヲ知リ得ヘキ記載アレハ足レリトス

拒絶者ニ面會スルコト能ハサル場合ニ於テハ拒絶證書ニ拒絶者ニ面會スルコト能ハサリシ理由ヲ記載スレハ足ルモノニシテ請求ノ旨趣ノ如キハ之ヲ記載スルノ要ナシ

拒絶證書ニ法定ノ要件ヲ記載スルニハ必スシモ一定ノ方式ニ從フコトヲ要セス唯證書ノ全體ヲ通覽シテ其要件ヲ具備スルヲ以テ足ル

執達吏カ委任ヲ受ケテ拒絶證書ヲ作成スル場合ニ在テハ商法第五百十五條第三號ノ事項ハ執達吏自ラ干與シタル事項ヲ記載スヘキモノニシテ委任者ト拒絶者トノ間ニ於ケル過去ノ行爲ニ付キ單ニ委任者ノ陳述ニ因リテ之カ記載ヲ爲スヘキモノニ非ス

三六			一三九
二			三一〇
三五	六		一四六
三六			一〇九七
三七			一〇九一
三八			一二五八
三八			一二五八

拒絶證書ヲ作成スル場合ニ於テ拒絶者ニ面會スルコト能ハサルトキハ之ニ對シテ請求ノ旨趣ヲ告クルニ由ナケレハ單ニ其面會スルコト能ハサリシ理由ヲ記載スルヲ以テ足レリトス

手形ニ記載シアル事項ヲ拒絶證書ニ記載スルニハ拒絶セラレタル手形ノ如何ナルモノナルヤヲ明カニ知了シ得ヘキ程度ニ於テスルヲ以テ足リ必スシモ手形面ノ文字ヲ悉ク其儘ニ記載スルコトヲ要セス

第三章　約束手形

○受取人ト爲ル行爲ト被裏書人ト爲ル行爲トハ互ニ獨立シテ成立スル事實ナルヲ以テ受取人トシテ手形ヲ所持スル事實ヲ請求ノ原因トスルト被裏書人トシテ之ヲ所持スル事實ヲ請求ノ原因トスルトハ之ヲ同一視スヘキモノニ非ス

○合資會社ノ業務擔當社員カ其資格ヲ冒シテ約束手形ニ署名シ自己ニ宛テ之ヲ振出シタル場合ト雖モ善意且過失ナキ被裏書人ニ對シテハ其手形振出行爲ノ無效ナル事由ヲ以テ對抗シ得サルモノトス故ニ裁判所カ其無效ナル事由ヲ以テ被裏書人ノ請求ヲ排斥センニハ被裏書人カ惡意又ハ重過失ニ因リ其手形ヲ讓受ケタルコトヲ判示セサルヘカラス

○甲者カ乙者ノ爲メ金融ヲ得セシムル方法トシテ丙者ニ宛テ約束手形ヲ振出シ丙者ハ之ヲ裏書讓渡シ若干ノ金員ヲ得テ乙者ノ使用ニ供シタル

三八			一六四五
三九			六
三五	二		八九
三七			三三

場合ニ丙者ヨリ甲者ニ對シ一定ノ期間内ニ相當ノ擔保ヲ供スヘク若シ之ヲ供セサレハ手形面ノ金額ヲ直ニ辨償スヘキ旨ヲ契約シタルトキハ縱令甲者ニ於テ後日其手形ヲ書替ヘ更ニ新手形ヲ振出スモ此一事ニ因リ該契約ハ當然消滅ニ歸スルモノト云フヲ得ス

○甲者カ乙者ニ對シ手形ヲ振出スニ當リ單ニ其手形ニ記載スヘキ振出ノ年月日若クハ受取人ノ氏名商號ノ記入ヲ乙者ニ依賴シ又ハ乙者カ其手形ノ交付ヲ受クル行爲ヲ甲者ニ依賴スルカ如キハ民法第百八條ニ所謂法律行爲ニ付キ其相手方ヲシテ代理セシメタルモノト云フヲ得ス

○約束手形ハ時效ニ因リ其債權消滅シタル後ト雖モ約束手形タルノ性質ハ依然之ヲ保有スルカ故ニ振出人ニ於テ手形カ時效ニ因リ其效力ヲ失ヒタルコトヲ條件トシテ之ニ他ノ指圖債權證券タル性質及ヒ效力ヲ有セシムルノ意思ヲ手形面ニ表示スルモ其意思表示ハ約束手形ヲシテ他ノ債權證券タラシムルノ效ナシ

（第五百二十五條）

『第五百二十五條』

○株式會社ノ取締役カ會社ノ爲メニ手形振出ノ意思ヲ表示スルニ當リテハ會社ノ爲メニスルノ意ヲ明カニシ其手形ニ取締役自身ノ名ヲ署セサルヘカラス

三八	二六四	
三八	一二四	
四三	二〇八	
三八	一三五	

○約束手形ニシテ僞造若クハ變造ノ點ナク且形式上商法第五百二十五條ノ成立要件ヲ具備スル以上ハ單ニ振出ノ日附ト振出地ノ記載カ眞ノ事實ニ適セサルノ一事ヲ以テ當然無效ト爲ルモノニ非ス從テ重大ナル過失ナキ善意ノ取得者ハ其手形上ノ權利ヲ取得保有シ得ルモノトス

○約束手形ニシテ商法第五百二十五條ニ列記シタル形式上ノ要件ヲ具備スル以上ハ縱令其記載事項中事實ニ適合セサルモノアルモ手形ノ成立ニ何等ノ瑕疵ヲ生スルコトナシ而シテ此法理ハ手形ヲ授受セシ直接ノ當事者ナルト否ト將タ手形取得者ノ善意又ハ惡意ナルトニ依リテ其適用ヲ異ニスヘキモノニ非ス

○約束手形ハ法律ノ特定セル形式的要件ヲ具備スルニ因リテ成立シ證券ニシテ右ノ要件ヲ具備スルモノハ約束手形タルノ性質及ヒ效力ヲ有シ其證券ニ指圖文句ノ記載アルモ之ニ他ノ指圖證券タルノ性質及ヒ效力ヲ付與スルヲ得ス

○手形受取人ノ氏名ヲ手形ニ記入スルカ如キハ振出人ヨリ受取人ニ依賴シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

○振出人カ受取人ノ氏名ノ記載ヲ欠キタル手形ヲ受取人ニ交付シ受取人ヲシテ其氏名ヲ記入セシメタルトキハ手形ハ其記入ノ時ヨリ效力ヲ生

三七	四四七	
三七	一〇三二	
四三	二〇八	
三八	五七	

ス

○約束手形ノ受取人トシテ之ニ記載スヘキ會社ノ商號ハ必スシモ公簿ニ登錄セラレタル文字ヲ完備スルコトヲ要セス縱シヤ多少之ト異ナル所アルモ其商號ノ實質ヲ具備シ取引上會社ノ慣用ニ依リテ其稱呼タルコトヲ廣ク世人ニ知ラレタルモノハ通稱ノ如キモノト雖モ尙ホ手形方式上ノ商號タルニ妨ナキモノトス　三八

○手形ニ振出日附タルヲ得ヘキ年月日ノ記載アルトキハ縱令該振出日附カ實際振出ノ年月日ニ適合セサルモ手形ノ形式ニ缺クル所ナキノミナラス單ニ振出日附カ事實ニ適合セサル一事ノミニテハ未タ手形ノ實質ニモ何等ノ瑕疵ヲ生スルコトナシ　四二　五七

○約束手形振出人ノ肩書ノ地ハ之ヲ手形ノ要件ナラサル住所地ナリト解釋センヨリハ寧ロ其要件タル振出地ナリト解釋シテ手形ヲ有效ナラシムルハ當然ナリ　三七

○手形ノ振出地ハ特ニ其旨ヲ手形ニ明記スルヲ要ストノ規定存セサルヲ以テ振出地タルコトヲ得ヘキ地域ノ記載アルトキハ特ニ振出地ナル旨ノ明記ナキモ其成立ニ必要ナル振出地ヲ掲ケタルモノト解釋シ其證書ヲ有效ナラシムルヲ穩當トス　三四　九　一〇　一三　一四八

○手形ノ振出地トハ其振出行爲ヲ爲ス地ヲ指稱シ而シテ手形ノ振出行爲トハ手形ヲ受取人ニ交付スル行爲ノミヲ謂フニ非スシテ手形作成ノ行爲ヲモ指稱スルモノトス　三五　九　六七

（同主旨）

手形ノ振出行爲ハ振出人カ受取人ニ手形ヲ交付スル行爲ノミヲ指示スルニ非スシテ手形ニ其要件ヲ記載シ之ニ署名スル行爲ヲモ包含スルモノトス　三五　六　七二

○手形ノ交付地ハ勿論其作成ノ地ヲモ振出地ト爲スコトヲ得ヘキモ手形ノ振出行爲ニ全ク關係ナキ地ヲ以テ振出地ト爲スコトヲ得サルモノトス　三五　九　六七

○約束手形ノ振出人カ其手形ニ住所地ヲ振出地トシテ記載シ而シテ別ニ住所ヲ記載セサルモ敢テ法律ニ違背スル所ナシ　三六　五三一

○商法第五百二十五條第七號ニ所謂振出地ハ市町村ノ如キ獨立シタル最小ノ行政區畫ヲ指スニ外ナラサレハ市內ニ於ケル區ノ如キハ之ヲ振出地ト爲スコトヲ得ス　三六　一二〇一

（同主旨）

法律ニ於テ振出地ト稱スル地域ハ市町村若クハ北海道（沖繩）ノ區ノ如キ行政區畫中獨立シタル最小地域ノ謂ナリトス

手形ノ振出地トハ市町村ノ如キ獨立シタル最小ノ行政區畫ヲ謂フモノナレハ手形ニ振出地タ

ル市町村ヲ記載スレハ足ルモノニシテ郡縣ノ如キハ之ヲ記載スルコトヲ要スルモノニ非ス

○手形カ振出地ノ記載ヲ缺キタル爲メ無效ト爲ルトキハ振出人ハ善意ノ被裏書人ニ對シテモ亦之ヲ以テ防禦方法ト爲スコトヲ得ヘシ　三七

○約束手形ノ振出地トシテ最小獨立ノ行政區畫タル地域ヲ記載シタルトキハ偶〻其地域ト同一ノ名稱ヲ有スル行政區畫二箇以上アリテ其指定ノ精確ナラサルカ如キ場合ニ於テモ形式ノ瑕疵ト爲ルヘキモノニ非ス　三七　一四九九

（同主旨）

二三ノ縣下ニ同一名稱ノ市町村アル場合ニ於テ其市町村ヲ振出地トシテ記載スルトキハ果シテ何レノ縣下ノ市町村ヲ指示スルヤ手形面ニ於テハ知ルコト能ハサルモ之ヲ以テ手形ノ要件タル振出地ノ記載ナキモノト爲スコトヲ得ス

○手形ノ成立要件タル振出地ニ付キテハ相當ノ文言ヲ以テ振出地ナルコトヲ認識スルニ足ルヘキ一定ノ場所ヲ手形面ニ記載スルヲ以テ足リ必スシモ振出地タルコトヲ表示シテ之カ記載ヲ爲スコトヲ必要トセサルノミナラス手形面ノ孰レノ部分ニ於テ之ヲ爲スモ妨ナシ　三五　六　一〇一

○商法第五百二十五條ニ所謂振出地ノ記載トハ振出地ヲ推知セシムルニ足ル文字ノ記載アレハ可ナリトノ趣旨ニ非スシテ必ス振出地ヲ表示スル文字ノ記載アルコトヲ要スル意義ナリトス　二　四四六　二　八三三

（同主旨）

振出地ハ約束手形ニ記載スヘキ要件ナレハ縱令之ヲ推測シ得ヘキ事項ヲ記載スルモ振出地ヲ記載シタルモノト爲スヲ得ス　三六　二〇一

『第五百二十六條ノ二』

（第五百二十六條ノ二）

○商法第五百二十六條ノ二ニ於ケル振出地ハ之ヲ振出人ノ營業所又ハ住所ノ所在地ト看做ストノ規定ハ手形ノ他地拂ナルト否トノ區別ノ標準ニ關スル規定タルニ止マリ之ヲ顚倒シテ振出人ノ營業所又ハ住所ハ之ヲ振出地ト看做スト解釋スルヲ得ス　二　三四〇

『第五百二十九條』

（第五百二十九條）

（刑）

○手形債務ノ支拂ヲ保證スル爲メ振出シタル約束手形ハ從タル手形債務ナルヲ以テ債權者ニ於テ主タル手形債務ノ支拂ヲ受ケタルトキハ右保證手形ハ無效ニ歸スヘキモノトス　四四　二〇四一

○約束手形ノ振出人カ破產ノ宣告ヲ受ケタル後ト雖モ其以前ヨリ存スル手形債權ハ裏書讓渡スルコトヲ禁スルモノニ非サルヲ以テ宣告後ノ裏書讓渡ハ破產財團ニ對シテ當然其效ヲ有セサルモノニ非ス　四五　五三〇

○一覽拂ノ約束手形ハ原則トシテ所持人カ支拂要求ノ呈示ヲ爲シタル日ヲ以テ滿期日ト爲スヘシト雖モ破產手續ニ於テ其手形ニ基キ債權ノ届

出ヲ爲シタルトキハ屆出ノ日ヲ以テ滿期日ト爲スヘキモノトス　四五

○手形ノ所持人カ滿期日ニ於テ支拂ノ呈示ヲ爲シ其翌日受取人ニ對シテ償還請求ノ通知ヲ爲シタルトキハ該手形ノ讓受ハ拒絶證書作成ノ期間經過後ニ在リト雖モ讓受人ハ受取人ニ對シテ償還請求權ヲ有スルコト論ヲ竢タス　元　元

○滿期日ニ於ケル所持人カ手形受取人ニ對スル償還請求權ノ保全ヲ履踐シタル事實アル以上ハ其所持人ノ甲ナルヲ乙ナリト主張スルモ之カ爲メ償還請求ヲ是認スルコトヲ妨ケス　元　元

○手形上現ニ裏書ノ存スル以上ハ縱令僞造ニ係ルモノナレハトテ裏書ナキモノト謂フヲ得ス　二　二

（參照）

約束手形ニ被裏書人トシテ某銀行何何出張所殿ト記載シアルハ某銀行カ被裏書人ナルコトヲ示スモノニシテ何何出張所ナル記載ハ無用ノ文字ナルコト文面上自ラ明カナリトス　三四　九

約束手形ノ裏書讓渡ニ關シテハ商法第五百二十九條第四百五十五條及ヒ第四百六十四條ノ特別規定アルヲ以テ民法第四百六十九條ハ之ニ適用スヘキモノニ非ス　三五　八

有效ノ裏書ニ因リテ約束手形ヲ讓受ケタル者ハ有效ノ裏書ニ因リタルニ非スシテ其占有ヲ失フモ其後更ニ無效ノ裏書ニ因リテ其手形ヲ所持スルニ至リタルトキハ一旦喪失シタル手形ノ占有ヲ回復シタルニ外ナラサレハ手形上ノ權利ヲ行フコトヲ得ヘシ　三五　一〇

約束手形ヲ騙取シタル者カ支拂拒絶證書作成ノ期間經過後ニ於テ裏書シタルトキハ被裏書人ハ商法第四百六十二條ノ規定ニ依リ前者ノ有セシ權利ノミヲ取得スルニ過キサルモノトス　三五　一二　九八

約束手形ノ裏書人カ裏書ノ年月日ヲ遡記シタルトキハ其記載ハ無效ニシテ裏書行爲モ亦無效ニ屬スルモノトス從テ裏書人カ裏書ニ因リテ得タル利益ハ法律上ノ原因ナクシテ享受シタルモノナリ（第四百五十七條四一年八二六頁參照）　三六　一四四

約束手形ノ振出人ハ自己ヲ受取人ト爲スコトヲ得サルモ其振出シタル手形ヲ更ニ他人ヨリ讓受ケ又ハ之ヲ他人ニ讓渡スコトハ約束手形ノ性質上毫モ妨ナシ　三六　一〇九七

約束手形ノ振出人カ他人ヨリ自己ノ振出シタル手形ヲ讓受クルモ民法上混同ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス　三六　一〇九七

拒絶證書作成ノ期間經過後ニ於ケル約束手形ノ被裏書人ハ第一ノ被裏書人タルト否トヲ問ハス其裏書人ノ有セシヨリ以上ノ權利ヲ取得スルヲ得サルカ故ニ手形債務者ハ滿期後ノ裏書人ニ對抗シ得ヘキ抗辯ヲ以テ其被裏書人ニ對抗スルコトヲ得　四二　五六〇

約束手形ノ所持人カ償還請求ノ爲メニ必要ナル手形ノ呈示ヲ爲サンニハ振出地ヲ以テ其支拂地トスヘキ場合ニ於テハ振出人ニ之ヲ爲シ又振出地以外ノ支拂地ナル場合ニ於テハ支拂擔當者アルトキハ支拂擔當者ニ之ヲ爲シ若シ支拂擔當者アラサルトキハ振出人ニ之ヲ爲スヲ要ス　三五　五　四六

商法第四百九十條ハ他所拂ノ手形ニ付テハ拒絶證書作成ノ免除アリタル場合ト雖モ所持人カ償還請求ヲ爲スニハ之ヲ作成スルヲ要スヘキコトヲ規定シタルニ非スシテ唯該手形ノ呈示及ヒ拒絶證書ノ作成ハ支拂地ニ於テスルコトヲ要スル旨即チ同法第四百四十二條ノ除外例ヲ示シタルニ外ナラス　三五　九　一一

約束手形ノ支拂地カ支拂義務者ノ住所地ト異ナル場合ニ於テハ手形ノ所持人カ前者ニ對シテ

償還請求ヲ爲サントスルトキハ手形ノ呈示及ヒ拒絶證書ノ作成ハ指定ノ支拂地ニ於テ支拂義務者ニ出會スルコトヲ得タルト否トニ拘ハラス必ヤ支拂地ニ於テ爲スコトヲ要スルモノニシテ此行爲ヲ爲スヘキ地域ニ關シテハ商法第四百四十二條ト第四百九十條トノ間ニ原則ト例外規定トノ關係アルコトナシ　三六

約束手形ノ振出人カ破產宣告ヲ受ケタルトキハ其手形ニ關シ破產財團ニ影響ヲ及ホスヘキ法律行爲ヲ爲シ得サルハ勿論ナレトモ其財團ニ何等ノ影響ヲ及ホササル法律行爲ハ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ隨テ手形所持人カ償還請求權ヲ保存スルニ必要ナル手形ノ呈示ハ破產者タル振出人ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノトス　四二三

約束手形ノ振出人カ支拂ヲ爲ササル爲メ所持人ニ於テ其前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲サントスルニハ滿期日後三日即チ支拂拒絶證書作成期間ノ翌日迄ニ償還請求ノ通知ヲ發スルヲ以テ足ルヘク拒絶證書作成義務ヲ免除セラレタル場合ナルト否トニ依リ該期間ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ　三七

約束手形ノ所持人カ前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲サントスルニ當リ其手形ニ支拂場所ノ指定アルトキハ先ツ支拂ヲ求ムル爲メ該場所ニ至リ振出人ニ對シテ呈示及ヒ拒絶證書作成ノ手續ヲ爲スヘク若シ振出人不在ノ爲メ面會スルコト能ハサレハ其理由ヲ拒絶證書ニ記載スルヲ以テ足ルモノニシテ支拂場所ニ振出人カ出會スルト否トハ毫モ呈示ノ效力ニ影響ヲ及ホスコトナシ　五七二

約束手形ノ讓渡人カ所持人其他ノ後者ヨリ償還ノ請求ヲ受ケタル場合ニハ必スシモ金錢ヲ以テ支拂フコトヲ要スルカ如キ制限ナケレハ汎ク民法ニ規定セル債權消滅ノ方法ニ從ヒ其償還義務ヲ盡シ得ルモノトス　七五七　一二三

償還ヲ爲シタル約束手形ノ裏書人カ振出人ニ對シテ償還ヲ請求スルニハ商法第四百八十八條第二項ノ手續ヲ爲スノ要ナシ　四一　八二六

約束手形ノ振出人カ其支拂地以外ニ在ル場所ヲ支拂場所トシテ手形ニ記載スルモ何等ノ效力ヲ有セス故ニ該手形ノ支拂ノ爲メニスル呈示ハ支拂地ニ在ル振出人ノ營業所住所若クハ其居所ニ於テ之ヲ爲ササルヘカラス　三六　六二九

約束手形ノ振出人カ其手形ニ支拂地ニ於ケル支拂場所ヲ記載シタルトキハ支拂ノ爲メニスル手形ノ呈示及ヒ拒絶證書ノ作成ハ支拂人ノ承諾アルニ非サレハ必ス其記載ノ場所ニ於テ之ヲ爲ササルヘカラス　三六　六九九

手形ニ支拂場所トシテ記載シタル文言ニシテ支拂地域內ノ或場所ヲ記載シタルモノト判斷スルニ足ルトキハ其用語ノ適切明瞭ナルト否トヲ問ハス事實承審官ニ於テ支拂場所ノ記載ナリト判斷スルヲ妨ケス　三六　一〇八一

約束手形ノ振出人カ其營業所住所若クハ居所以外ニ支拂ノ場所ヲ特定シタルトキハ支拂ニ關スル事項ニ付キ振出人ニ對シテ爲スヘキ行爲ハ必ス其特定ノ場所ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトス　三六　一一七七

手形ニ記載スヘキ支拂場所ハ其當時支拂地內ニ實在セル場所ヲ記載スレハ足ルモノトス　三九　一一四

約束手形ノ支拂場所ニ付テハ法律上何等ノ制限ナキカ故ニ其振出人ハ銀行若クハ他人ノ店舗ノ如キ自己ノ營業所ニ非サル場所ヲ支拂ノ場所ト定ムルコトヲ得　四一　八九〇

約束手形ノ振出人カ其營業所以外ニ支拂ノ場所ヲ定メタルトキハ支拂ノ爲メニスル呈示及ヒ拒絶證書ノ作成等支拂ニ關スル行爲ハ其場所ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトス故ニ同所ニ於テ拒絶證書ヲ作成スルニハ振出人ノ承諾ヲ得ルコトヲ要セス　四一　八九〇

商法第四百八十四條ハ爲替手形ノ所持人ト支拂人トノ間ニ於ケル支拂ニ付テノ規定ナルヲ以テ同第五百二十九條ニ依リ之ヲ約束手形ニ準用スヘキ場合モ亦其所持人ト振出人トノ間ニ於ケル支拂ノ場合ナラサルヘカラス　三六　一〇九三

約束手形ノ所持人ト其振出人トノ間ノ關係ニ於テハ所持人カ支拂ヲ求ムル爲メ手形ヲ呈示シタルモ振出人カ支拂ヲ爲ササリシ事實ヲ證明スル方法ハ拒絶證書ヲ以テスルコトヲ要セサルノミナラス縱令商法第五百十五條ニ列記シタル事項ノ一二ヲ欠缺シテ適法ノ拒絶證書ト爲ラサルモノト雖モ裁判所ハ之ヲ採リテ其裁判ノ資料ニ供スルコトヲ妨ケス　三六　一一一三

約束手形ノ所持人カ支拂保證人ニ對シテ支拂ヲ請求スルニハ主債務者タル振出人ニ對シ支拂ヲ求ムル爲メ手形ヲ呈示スルノ要ナキモノトス　三七　三〇一

約束手形ノ振出人カ破産宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ手形所持人ハ破産宣告ノ日ヲ以テ滿期日ト爲シ支拂ノ爲メ手形ヲ呈示スルノ權利ヲ取得スルモ之カ爲メニ手形面ノ滿期日ニ至リ其請求ヲ爲スノ權利ヲ失フモノニ非ス　三七　三〇九

約束手形ノ所持人カ滿期日ニ支拂場所ナル銀行ニ至リ行員ニ對シ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求メタルモ之ヲ拒絶セラレシニ因リ拒絶證書ヲ作成セル場合ニ於テハ振出人ニ對シ呈示ヲ爲シタルモノニ非サレハ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フモノトス　三七　七五七

約束手形ノ振出人ハ所持人カ正當ノ手形債權者ナルヤ否ヤヲ調査スルノ權利ヲ有ス從テ振出人カ裏書讓渡ノ事實ヲ否認スル以上ハ所持人ニ於テ其裏書ノ眞正ナルコトヲ立證スルニ非サレハ手形金ノ支拂ヲ請求シ得サルモノトス　三七　一〇八四

約束手形ノ振出人ハ所持人カ手形面ニ記載セラレタル支拂場所ニ於テ手形ヲ呈示セサルモ之カ爲メニ手形金支拂ノ義務ヲ免ルルモノニ非ス　三八　二九八

甲者カ乙者ヲ欺罔シテ約束手形ヲ騙取シ之ヲ丙者ニ讓渡シタル場合ニ於テ乙者カ丙者ノ請求ニ因リ示談ノ上手形金額ノ支拂ヲ爲シタルトキハ其辨濟ハ有效ニシテ手形上ノ債務ヲ消滅セシムルモノトス而シテ乙者ハ丙者ヲ以テ正當ノ所持人ナリト誤信シ之ニ對シテ支拂ヲ爲シタリトスルモ此事實ハ辨濟ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ　三八　四四一

振出人ニ對シ支拂ヲ請求スル場合ニ於テ手形呈示ノ事實ヲ證明スルニハ必スシモ拒絶證書ヲ以テスルノ要ナキハ勿論拒絶證書ト同樣ノ方法ニ從ヒテ作成シタル文書ヲ以テスルコトヲモ要セサルモノトス　三八　四七一

手形ノ所持人カ支拂ノ催告ヲ執達吏ニ委託シ其代理人ヲシテ之ト同行セシメタル場合ニハ縱令執達吏躬親ラ手形ノ呈示ヲ爲ササルモ右ノ代理人カ呈示ヲ爲ストキハ其催告ハ適法ナルモノトス　三九　一一四

約束手形ノ振出人ハ常ニ手形ノ所持人又ハ償還ヲ爲シタル裏書人ニ對シテ仕拂ノ義務ヲ負フモノトス而シテ此ハ是償還義務者トシテ負フニ非スシテ振出人トシテ之ヲ負フニ外ナラス　四一　八二六

約束手形ノ所持人カ滿期日ニ支拂要求ノ爲メ支拂場所ニ到ルモ支拂義務者タル振出人死亡シテ之ニ面會スルコトヲ得サルカ如キ場合ニ所持人其死亡ノ事實ヲ知ラサル以上ハ振出人ヲ拒絶者トシテ拒絶證書ニ其氏名ヲ記載スヘキハ當然ナリ　三八　一三一八

第四章　小切手

○振出人ト支拂人トノ間ニ交互計算ノ約アリテ小切手ヲ振出シタル場合ニ於テハ振出ノ當時振出人カ現實ニ資金ヲ有シタルト否トニ拘ハラス

法律上振出人ハ資金アリテ小切手ヲ振出シタルモノト看做スヘキモノトス　三五　七　三四

○振出人カ受取人ノ爲メ送金行爲ヲ爲ス目的ニテ小切手ヲ振出シタル場合ニ於テハ兩者ノ關係ハ單純ナル小切手取引ノ關係ヲ以テ率スヘキモノニ非ス縱令振出人ト支拂人トノ間ニ交互計算ノ約アルモ受取人ノ相關セサル所ナレハ支拂人カ支拂ヲ爲ササルトキハ振出人カ當初受取人ヨリ受取リタル金額ハ即チ之ヲ不當ニ利得シタルモノト云ハサルヘカラス　三五　七　三四

○當座貸越契約ニ基ク貸借ハ小切手ニ依ラサレハ成立セシムルヲ得サルモノニ非ス從テ小切手ニ依ルニ非サレハ該契約ニ於ケル貸借成立セストノ事實ハ顯著ナル事實ニ非ス　三七　一九二

『第五百三十條』（第五百三十條）（刑）

○小切手ノ振出日附ハ必スシモ眞ノ振出年月日ニ適合スルコトヲ要セス苟モ手形ノ形式ニ缺クル所ナキ以上ハ實質上瑕疵ヲ生スルモノニ非サルヲ以テ小切手交付後ノ年月日ヲ以テ振出日附ト爲シタルトキハ其小切手ハ振出日附到來ノ時ヨリ振出人トシテ手形ノ文言ニ從ヒ義務ヲ負擔スヘキモノトス　二　五一一

『第五百三十四條』（第五百三十四條）

（參照）小切手ノ所持人カ支拂人ヲシテ支拂拒絕ノ旨趣等ヲ小切手ニ記載セシメスシテ之ヲ補箋ニ記載セシメタルトキハ支拂拒絕證書ニ代ルヘキ支拂拒絕ノ記載トシテハ其效ナキモノトス　三七　一四七七

○商法中所謂大修繕ナル語ハ修繕中ノ大ナルモノヲ謂フモ所謂修繕ナル語ハ大修繕以外ノ修繕ヲ指稱スルモノニ非ス　四五　二〇一

第五編　海商

第一章　船舶及ヒ船舶所有者

○普通ノ航路タラサル場所ヲ航行スル船舶ハ他船ノ碇泊シ居ラサル場所ヲ選擇シテ航行スヘキモノニシテ航海者ハ此點ニ付キ十分ニ注意セサルヘカラス故ニ若シ其過失ニ因リテ航路ノ選擇ヲ誤リ之カ爲メ他ニ損害ヲ加ヘタルトキハ之ヲ賠償スヘキハ當然ナリ　三七　一三四

『第五百四十四條、第五百四十五條』（第五百四十四條、第五百四十五條）

○商法第五百四十四條ハ船舶所有者カ自ラ其船舶ヲ利用スル場合ニ限リ適用セラルヘキモノニシテ所有者自ラ利用セス之ヲ他ニ賃貸シタル場

合ニハ同法第五百五十七條ノ規定ニ依リ賃借人ニ於テ船舶所有者ト同一ノ權利義務ヲ有スルモノトス　三六

○商法第五百四十四條第一項ニ航海ノ終ニ於テ云云トアルハ航海ノ終ニ於ケル狀態ヲ以テ委付スルコトヲ得ルノ謂ニシテ專ラ委付スヘキ海産ノ範圍ヲ定メタルモノトス　四〇　二三三

○船舶所有者カ債權者ニ對シ委付ヲ爲スヘキ時期ニ付テハ商法第五百四十五條ノ外他ニ規定スル所ナケレハ必スシモ航海ノ終ニ於テ直ニ又ハ遲滯ナク之ヲ爲スコトヲ要セス航海ヲ了リタル後ト雖モ苟モ同條又ハ前條第一項但書ノ規定ニ反セサル限ハ委付ヲ爲シ得ルモノトス　四〇　二三三

○船舶所有者カ商法第五百四十四條第一項ノ規定ニ依リ爲スヘキ委付ハ其規定ニ揭ケタル海産ニシテ航海ノ終ニ於テ現存スルモノノ全部ニ付キ之ヲ爲スコトヲ要シ單ニ其一部ノミニ付テ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス　四〇　二三三

○商法第五百四十四條ハ船長其他ノ船員カ其職務ヲ行フニ當リ他人ニ加ヘタル損害ニ付テハ船舶所有者ハ航海ノ終ニ於ケル狀態ヲ限度ト爲シ海産ヲ債權者ニ委付シテ其責ヲ免ルルコトヲ得ルモノトシ以テ所有者ノ責任ノ範圍ヲ限定シタルニ過キスシテ航海ノ終ニ於ケル海産ノ狀態ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テハ常ニ船舶所有者ヲシテ委付權ヲ行フコトヲ得サラシムルノ旨趣ニ非ス　四一　七六六

○船舶所有者カ商法第五百四十四條ノ規定ニ依リ委付ヲ爲ス場合ニ於テ其委付スヘキ損害賠償權ノ有無ハ所有者カ自ラ其權利ヲ實行スル意思アルト否トニ因リ之ヲ決スヘキモノニ非スシテ其船舶ニ付キ生シタル損害ノ事實關係如何ニ因リテ定マルヘキモノトス　四二　五九六

○委付ヲ許シタル債權ニ付キ支拂ノ猶豫ヲ求メタルコトハ委付ヲ爲スヲ妨ケサルヲ以テ縱令支拂猶豫ヲ求メタレハトテ委付ノ權利ヲ拋棄シタルモノト云フヲ得ス　四五　二〇一

○商法第五百四十四條第一項ハ船舶所有者ニ過失ナカリシトキト雖モ其責任ヲ免ルルコトヲ得サル旨ヲ規定セルモノナルヲ以テ民法第七百十五條ニ規定セル使用者ノ責任ニ比シ一層重キ責任ヲ船舶所有者ニ負ハシメタルモノニシテ即チ其例外規定ナリトス　二　五六〇

第二章　船員

第一節　船長

（第五百五十九條）

『第五百五十九條』

商法　海商　船員　船長

○船長ハ平常海員ノ職務執行ニ注意シテ相當ノ監督ヲ怠ラサリシ場合ニ非サレハ休養時間中ニ生シタル海員ノ過失ニ基ク損害ニ付テモ亦其責ニ任セサルヲ得ス

四二　五九六

（第五百六十六條）

『第五百六十六條』

○船舶ノ堪航能力ハ固ヨリ航海ニ必須ノ要件ナレハ船舶カ破損シテ堪航能力ノ缺損シタル場合ニ之ヲ補充スルカ爲メニ修繕ヲ施スコトハ商法第五百六十六條ニ所謂航海ニ必要ナル行爲ナリト云ハサルヘカラス

四五　二〇一

○商法第五百六十六條第一項ニ所謂航海トハ船舶カ船籍港ヲ發シテ船籍港ニ復歸スル迄ノ航海ヲ謂ヘルモノニ非ス從テ船長ハ船籍港ニ或港ヨリ或港ニ至ル特定ノ運送航海ヲ謂ヘルモノニシテ或港ヨリ或港ニ至ル特定ノ爲メニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スルモノトス

四五　二〇一

（第五百六十八條）

○船長カ法定權限內ニ於テ爲シタル船舶ノ修繕契約ハ後日船主ニ於テ其修繕費ノ支拂猶豫ヲ求メタル爲メ船長ノ契約タルヲ失フヘキモノニ非ス

四五　二〇一

『第五百六十八條』

（參照）

航海ノ繼續ニ必要ナル費用ヲ生シタルトキト雖モ其費用支辨ノ爲メニ借財ヲ爲スコトハ航海ノ繼續ニ之ヲ必要トスル場合ニ在ラサレハ船長ノ權限ニ屬セス

船長カ航海ノ繼續ニ必要ナル費用ノ立替ヲ受ケタル場合ニ於テ更ニ其立替金ヲ以テ消費貸借ノ目的トスルコトヲ約スルコトモ亦同シ

四一　四六一

第三章　運送

第一節　物品運送

第一款　總則

○運送契約ニ於テ荷送人カ一身上ノ事故ニ依リ船積ヲ爲ササルトキト雖モ運送賃支拂ノ責ニ任スヘキ旨ノ特約ヲ爲シタル場合ニハ船主ハ其特約ニ因リ運送ノ履行ナキニ拘ハラス運送賃ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

四一　四六一

（第六百十二條）

『第六百十二條』

○同一ナル物品運送ノ目的ヲ以テ第一ニ船主ト傭船者トノ間第二ニ其傭船者ト第三者トノ間ニ運送契約成立シタル場合ニ於テ船主カ第一ノ契約ニ從ヒ運送ヲ丁シタルモ運送賃ノ支拂ヲ受ケサルニ因リ運送品ノ上ニ留置權ヲ有スルトキハ第三者カ傭船者ニ對シ第二ノ契約ニ從ヒテ既ニ運送賃ヲ支拂ヒタルトキト雖モ船主ハ運送賃ノ支拂ヲ受クルマテ其第三者ニ對シテモ留置權ヲ主張シテ運送品ノ引渡ヲ拒ムコトヲ得

三九　一四二五

四二　八五八

○商法第六百十二條ノ規定ハ傭船者カ更ニ第三者ト運送契約ヲ爲シタルトキハ其契約ノ履行カ船長ノ職務ニ屬スル範圍内ニ於テ船主ヲシテ其第三者ニ對シ履行ノ責ニ任セシメタルニ止マリ船主カ傭船者ト契約シタル運送賃ノ支拂ヲ受ケサル爲メ運送品ノ上ニ有スル留置權ノ行使ニ制限ヲ加ヘタルモノニ非ス

四二　八五八

（第六百十三條）

『第六百十三條』

○船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ積荷カ其船舶ト共ニ不可抗力ニ因リテ沈没シタルトキニ於テ商法第六百十三條第二項ニ所謂運送品ノ價格ヲ超エサル限度トハ滅失シタル積荷ノ價格ヲ控除シタルモノナラサルヘカラス

三四　四八

○船舶所有者ノ割合運送賃請求權ハ運送契約ニ因リ當然生スル權利ニ非ス立法者カ公平ヲ維持スル見地ヨリ特ニ付與シタル權利ニ外ナラサルヲ以テ船舶所有者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ船舶カ沈没シタル場合ハ商法第六百十三條ノ規定中ニ包含セサルモノトス

二　五八三

○船舶所有者カ商法第六百十三條ニ依リ割合運送賃ノ請求權ヲ有スルハ船舶所有者ヲ保護スルカ爲メ法律ノ規定ニ依リ付與セラレタルモノナルヲ以テ船舶ノ沈没カ其責ニ歸スヘキ事由ニ基因セサル事實ハ割合運送賃ノ請求ニ因リ利益ヲ享受スヘキ船舶所有者ニ於テ立證ノ責任アルモノトス

二　五八三

（第六百十四條）

『第六百十四條』

○傭船契約ニ基キ貨物運送ノ途中傭船者ノ都合ニ依リ積荷ノ一部ヲ他船ニ積換ヘタル爲メ運送スヘキ貨物カ殘存スル部分ニ減少シタル場合ニ於テ第三者ノ判決執行ニ因リ其殘存部分ノ占有ヲ喪失シタルトキト雖モ商法第六百十四條ヲ適用スヘキモノトス

四五　三六

（第六百十九條）

『第六百十九條』

○船舶所有者カ自己ノ便宜ノ爲メ其選擇ヲ以テ任意ニ曳船ヲ雇入レ運送行爲ノ補助ヲ爲サシメタルトキハ該曳船ノ船長ハ獨立ノ營業ヲ爲ス者ナレトモ船舶所有者カ其運送ノ爲メニ使用シタル者タルコトヲ妨ケス從テ曳船船長ノ過失ニ因リ荷送人ニ損害ヲ生セシメタルトキハ船舶所有者ハ商法第六百十九條第三百三十七條ノ規定ニ從ヒ之カ賠償ノ責ニ任セサルヘカラス

四一　二三

第二款　船荷證券

○船荷證券トシテ無效ナルモノハ他ノ指圖證券トシテ有效ナルヤ否ヤハ當事者ノ意思ノ解釋ニ因テ定マルヘキモノトス

三六　一一

（第六百二十條）

『第六百二十條』

○船荷證書ハ荷積前ニ於テ作成授受スルモ違法ニ非ス然レトモ其作成授受ヲ荷積後ニ於テシ其效力モ亦荷積後ニ發生スルヲ以テ通例トス

○運送契約ニ付テハ船長ハ船舶所有者ノ代理人ニシテ船荷證券ヲ發行スルコトモ亦其代理權限內ニ在ルモノトス

（第六百二十九條）

『第六百二十九條』

（參照）

荷物送狀カ指圖式ナル場合ニ於テ流通證券タル性質ヲ有スルトキハ記名式ナル場合ニ於テモ亦裏書ニ依リ轉轉スヘキハ勿論ナリトス

運送人カ船荷證券ヲ受取ラスシテ荷爲替附ノ貨物ヲ荷受人ニ交付シタル爲メ該爲替金ヲ償還セル荷送人ハ契約ノ違背者タル運送人ニ對シ其違背ニ因テ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルト代金ヲ支拂ハスシテ物品ヲ受取リタル荷受人ニ對シ其代金ヲ請求スルトヲ自由ニ選擇シ得ルモノトス

第四章　海損

（第六百五十條）

『第六百五十條』

○商法第六百五十條ハ船舶カ雙方ノ船員ノ過失ニ因リテ衝突シタル場合ニ於ケル損害ノ負擔ニ付キ各船主間ノ關係ヲ規定シタルモノニシテ被害荷主ニ對スル關係ヲ規定シタルモノニ非ス

（第六百五十一條）

『第六百五十一條』

○商法第六百五十一條ニハ廣ク船舶ノ衝突ニ因リテ生シタル債權トアルヲ以テ其前條ノ場合ノ外船舶カ一方ノ船員ノ過失ニ因リテ衝突シタル場合ノ債權モ亦之ニ包含スルモノトス

○商法第六百五十一條ノ規定ハ同第五百三十八條ニ依ル船舶ノミニ適用スヘキモノニシテ櫓櫂ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セサル法意ナリトス

第五章　海難救助

（第六百五十二條ノ二）

『第六百五十二條ノ二』

（參照）

海上ニ於テ遭難船舶ヲ救助シタル者ハ船舶所有主ニ對シテ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第六章　保險

（第六百五十三條、第六百五十四條）

『第六百五十三條、第六百五十四條』

○積荷ノミヲ保險ニ付シタル場合ト雖モ其損害ノ塡補ハ積荷其物ノ流失

三三	一	七一	
三四	五	一四九	
三五	二	八四	
三六		八四七	
四四		六二七	
四〇		一六	
四〇		一三九	
四〇		七五九	

滅損等ニノミ制限シタルモノニ非スシテ天災若クハ衝突等ノ爲メ船體損傷シ指定港ニ運漕スル能ハサル如キ不可抗力ニ因リ途中ニ於テ積荷ヲ賣却シ損害ヲ生シタルトキハ保險者ハ其損害ヲ負擔スヘキモノトス

○積荷ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ船積方法ニ關スル船長ノ過失ニ因リ航海中損害ヲ生シタルトキハ保險者ハ之ヲ塡補スヘキ責任ヲ負フモノトス

○積荷ニ關スル海上保險契約ニ於テ保險者カ總テノ海上危險ニ付キ責任ヲ負擔シタル場合ニ於ケル所謂海上危險トハ商法ニ所謂航海ニ關スル事故ト同一ナル包括的意義ヲ有シ啻ニ風波ノ如キ絶對的自然力ニ出ツル危險ノミナラス相對的人爲ニ出ツル不慮ノ危險ヲモ總テ包含スルヲ普通ノ事例ナリトス

○海上保險契約ニ於テ不可抗力ニ基因セサル損害ヲ除外スル場合ニ所謂不可抗力トハ通常其損害ヲ受クヘキ人ノ方面ヨリ取引ノ通念ヲ以テ觀察シ危險發生ノ場合ニ於ケル事物ノ狀況ニ應シ相當ト認ムヘキ人力ヲ以テ其發生及ヒ有害ナル結果ヲ回避防止スルコト能ハサルモノヲ指稱シ其自然力ニ出ツルト將タ人爲ニ出ツルトヲ問ハサルヲ普通ノ事例ナリトス

三六　一八五
四〇　九八一
二　一〇三六
二　一〇三六

（第六百六十四條）

『第六百六十四條』

○保險者カ保險契約締結當時ノ船長ニ信用ヲ置キ該契約ノ效力ヲ其變更ニ繫ラシメ保險者ノ承諾ナクシテ船長ヲ變更シタルトキハ損害塡補ノ責ニ任セサルヘキ旨ヲ要約スルカ如キハ毫モ公益ニ反スル所ナケレハ法律上之ヲ無效ト爲スヘキモノニ非ス

○商法第六百六十四條ハ單ニ普通ノ場合ヲ規定シタルモノニシテ保險者カ保險契約ノ效力ヲ船長ノ更替ニ繫ラシムルコトヲ禁止セルモノニ非ス

三八　五七〇

（第六百六十七條）

『第六百六十七條』

○重大ナル過失トハ相當ノ注意ヲ爲スニ及ハスシテ容易ニ違法有害ノ結果ヲ豫見シ回避スルコトヲ得ヘカリシ場合ニ於テ漫然意ハス之ヲ看過シテ回避防止セサリシカ如キ殆ト故意ニ近似スル注意缺如ノ狀態ヲ謂フモノトス

三八　五七〇

（第六百七十條）

『第六百七十條』

○商法第六百七十條ニ所謂航海ノ途中ニ於テ不可抗力ニ因リ保險ノ目的タル積荷ヲ賣却シタルトキハ單ニ被保險事故ニ因リ絶對ニ其運送ノ目的ヲ達スルコト能ハサルニ至レルカ爲メニ賣却ヲ遂ケタルカ如キ場合

二　一〇三六

ノミヲ指シタルニ非スシテ衝突事故ノ爲メ航海ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リ他ノ方法ヲ以テ運送ノ目的ヲ達スルニハ莫大ナル費用ヲ要シ途中ニ於テ賣却シタル場合ニ比スレハ一層多額ノ損失ヲ受ケサルヘカラサルカ如キ場合モ亦之ニ包含セルモノトス

（第六百七十一條）

『第六百七十一條』

○船舶ノ保險契約ニ關シ其價額ハ之カ標準タルヘキモノナレハ修繕不能ヲ原因トセル委付ニ付テハ格外ニ高ク不實ナル價額ノ協定ハ法律上其效力ヲ生セサルモノトス

第七章　船舶債權者

（第六百八十條）

『第六百八十條』

○商法第六百八十條第二號ノ保存費ニ屬セサル船舶ノ修繕費ト雖モ其修繕ヲ爲スコトカ船長ノ法定權限內ニ屬シ而モ船長ニ於テ之ヲ爲シタル以上其修繕費ノ債權者ハ同條第九號ニ從ヒ先取特權ヲ有スルモノトス

（參照）

商法第六百八十條第五號ニハ救助ノ費用トアリテ其救助カ義務ナクシテ爲サレタルト契約ニ因ルトヲ區別セサレハ契約ニ因ル救助ノ費用ヲモ包含スルモノト解セサルヘカラス

三七	八九〇	
元	九八九	
四五	二〇一	
四五	二〇一	

商法　明治二十三年法律第三十二號

注意（本法中第一編第六章第十二章及ヒ第二章第四章（商事會社ニノミ）ハ明治二十六年七月一日ヨリ同三十二年六月十五日マテ第三編ハ同二十六年七月一日ヨリ現時ニ至ル上掲ノ部分ヲ除ク殘部ハ同三十一年七月一日ヨリ同三十二年六月十五日マテ施行セラル

總則

（第一條）

『第一條』

（參照）

商習慣ハ當事者ヲシテ證明セシムルカ又ハ裁判所ノ職權ニ依リ調査ヲ爲シタル上ニ非サレハ漫然其存在ヲ認ムルヲ得ス

二八	三	一〇二

第一編　商ノ通則

第一章　商事及ヒ商人

（參照）

商法　總則　商ノ通則　商事及ヒ商人

店判ハ商業以外ノ權利關係ニ付キ之ヲ使用スヘキモノニ非サルモ商業ニ附隨スル事項ニ付キ義務ヲ負フ場合ニ之ヲ使用シタレハトテ通常一般ノ慣行ニ違背シタルモノト云フヲ得ス

（第四條）

『第四條』

（參照）

一ノ取引ニシテ其大體ノ目的商事上ノ取引ヲ爲スニ在ルトキハ縱令其取引ニ係ル物件ノ一部分ヲ他ノ目的ニ使用スルモ相手方ニ對シ商取引タル性質ヲ失ハス

商取引ナルト否ハ其取引ノ目的如何ニ依リ定ムヘク賣買上得ヘキ利益ヲ標準ト爲スヘキモノニ非ス

手形法ハ商法ノ一部ナリ故ニ之ニ基ク手形ノ發行及ヒ流通ニ係ル作業及ヒ取引ハ商法上ノ行爲ニシテ商取引ニ屬スルモノトス

（第六條）

『第六條』

○明治二十六年舊商法ノ一部施行以來商事ノ行爲ト民事ノ行爲トヲ區別シ商人カ其商業資金融通ノ爲メニ爲ス所ノ契約ハ之ヲ商事ノ行爲ト看做シタルノミナラス明治三十一年舊商法施行後ハ同法第六條ニ該當スルヲ以テ其契約ニ因リテ生シタル債權ハ同法第三百四十九條ニ依リ同法施行ノ日ヨリ時效ノ適用ヲ受ケ尙ホ現行商法及ヒ同商法施行法第百三十七條ノ適用ニ依リ時效ニ罹ルモノトス

第三章　商號

三〇	六	六四	
二八	三	五五	
二九	二	一三九	
三一	七	一三	
四一		四〇一	

（第二十九條）

『第二十九條』

○當事者間ニ於テ同一ノ商業ヲ營マストノ契約ハ適當ナル期間又ハ區域ニ制限シアル場合ニ於テハ有效ナリトス

第四章　商業帳簿

（第三十九條）

『第三十九條』

（參照）

商人カ商業上ノ取引ヲ記入セル簿册ハ單純ナル手控ノ如キモノト異ナリ其商業取引ニ付テハ一應ノ證據力ヲ有スルヲ以テ之カ論爭ヲ爲スモノハ相當ノ立證ヲ爲ササルヘカラス

第五章　代務人及ヒ商業使用人

（第四十五條）

『第四十五條』

（參照）

商家ニ於ケル支配人ノ權限ハ商業主人カ常ニ營ム所ノ業務ノ廣狹ニ伴隨スヘキモノニシテ法律上一定不動ノ限界アルコトナシ

（第五十一條）

『第五十一條』

○番頭ト稱スル雇人ハ常ニ主人ノ爲メ商行爲ヲ爲スヲ通例トスルカ故ニ其行爲ハ主人ノ代理資格ヲ以テ爲シタルモノト認ムルヲ得ヘシ

三二	二	七二	
二八	三	一一四	
二八	三	一〇二	
三二	五	四	

（第五十四條、第五十五條）

『第五十四條、第五十五條』

○舊商法第五十五條ハ商業使用人カ金錢物品等ノ受渡ヲ爲シタル場合ニ適用スヘキモノニシテ手形ヲ振出シタルカ如キ場合ニ適用スヘキ規定ハ同法第五十四條ナリ

第六章　商事會社及共算商業組合

商事會社總則

○會社ノ無限責任社員ハ該社ノ債務ニ付キ縱令形式上訴訟ニ於テ共同被告ノ地位ニ立タスト雖モ實體上義務共通ノ關係アルモノナレハ該社員ノ一人カ會社ノ債權者ヨリ訴ヲ受クルニ當リ他ノ無限責任社員ニ對シ訴訟參加ノ告知ヲ爲スヲ得ヘシ縱令其告知ヲ爲サスシテ訴訟終了シ未タ債權者ニ對シ其債務ヲ辨濟セサル前ト雖モ尙ホ共同シテ其債務ノ負擔ヲ請求スル權利アリ　二八

○商法實施前ニ於ケル銀行ノ頭取副頭取ハ慣例上訴訟ニ付キ銀行ヲ代表スル權利アルモノトス　二八

○登記ヲ受ケサル會社ノ定款タリトモ會社ト取引シタル者カ其定款ノ存在ヲ知リタル場合ニハ之ヲ適用スルモ不當ニ非ス　三一

○商法施行前ニ在テハ法人ノ資格ナキ會社ト雖モ其代表者ノ名義ヲ以テ訴ヲ爲シ又ハ訴ヲ受ケ得ルモノト爲シ又其會社解散後ノ殘務委員ハ法人タル會社解散後ノ清算人ト同一ノ任務ヲ有スルモノト爲スハ裁判上一般ノ慣例ナリ　三一

（同主旨）

商法實施前ニ解散シタル會社ノ殘務委員ハ商法ニ於ケル法人會社ノ清算人ト同一ノ任務アルモノニ付キ其社團代表ノ權利ハ之ヲ認許セサルヘカラス　二九

○商事會社ト雖モ民法上ノ行爲ニ付キ權利義務ノ主體ト爲ルコトヲ得　三一

○會社ノ代表權ナキ者ニ對シ會社ニ係ル支拂命令及ヒ執行命令ヲ發シ其代表權ナキ者ニ對シ裁判確定スルモ之ニ干與セサル會社カ之ヲ認メサル以上ハ其效力ニ羈束セラルルコトナシ　三二

○民法施行前ニ於テハ民法第四十三條ノ如キ規定ナカリシカ故ニ商事會社ハ其目的タル營業ノ範圍外ニ於ケル民法上ノ法律行爲ト雖モ絕對ニ之ヲ爲スヲ得サルモノニ非ス　三四

（參照）

會社ノ責任ナシテ有限ト爲サンニハ格段ナル條件ヲ要ス否ラサルトキハ他人ニ對シテ有限責任ヲ主張スルコトヲ得ス　二五

地方聽カ與ヘタル「會社條例制定施行迄相對自營ニ任ス」トノ指令ハ有限責任ナル會社ノ設立ヲ認可シタルモノトハ論シ難シ

會社解散スルトキハ將來ノ行爲ニ係ル賣買取引ハ之ヲ繼續スルノ必要ナキニ依リ其約務ノ消滅ハ當然ノ結果ナルヲ以テ特ニ之カ説明ヲ付セサルモ違法ノ裁判ニ非ス

會社ノ約款ニ有限責任タルコトノ規定アルモ其效力ヲ社外人ニ及ホスコトヲ得ス縱令其規約ヲ所轄地方廳ニ届出ツルモ世上一般ニ對シ公示シタルモノト爲スニ足ラス

二六　二　三八

『第七十二條』（第七十二條）

○舊商法第七十二條ノ規定ハ訓示的ノモノナレハ會社カ社印ヲ押捺セスシテ交付シタル書類ハ總テ無效ノ制裁アルモノニ非ス

（同主旨）

商法第七十二條ノ社名及ヒ社印ハ官廳ニ宛テタル文書又ハ報告書株券手形及ヒ會社ニ於テ權利ヲ得義務ヲ負フヘキ一切ノ書類ニ之ヲ用フトノ規定ハ素ト内外商業上ノ習慣ニ基キ社號及ヒ社印ノ使用ニ關スル通則ヲ示シタルニ止マリ書類ノ效力ニ關スル法律上ノ要件トシテ規定シタルモノニ非ス故ニ社印ナキ書類ハ其書類ノ何タルヲ問ハス法律上無效ナリト云フヲ得ス

二七　三　八　三九

『第七十三條』（第七十三條）

○商法實施以前ニ在テハ特別ノ條例ニ依テ設立セラレタル會社社團ノ外ハ法律上法人ノ資格ヲ有セス故ニ其當時ニ於ケル某會社トハ取モ直サス社員全體ヲ合シテ指稱スル所ノ假名ニ過キス會社即チ社員ニシテ會社ト社員トノ權利義務ヲ有セサルヲ以テ一般ノ法則トス此法則ニ據テ法人視スヘキモノノ外某會社ト云フモ社員全體ヲ指シテ假稱スルニ過キス其會社ハ即チ社員社員ハ即チ會社ニシテ會社ト社員トハ各獨立ノ權利主體タルヘキ者アルニ非サレハ會社ノ解散セルト否トニ因テ社員ノ義務ニ消長アラサルナリ然ルニ原裁判所カ其會社ヲ以テ會社法實施後ノ商事會社ト同視シ會社ノ現存スルニ拘ハラス各社員ニ對シテ請求シタルヲ以テ不當ト爲シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタルモノトス

二八　二　七二

○商法實施以前ニ於ケル特別條例外ノ會社ハ會社存續中ハ社長又清算中ハ清算人ニ於テ訴答ヲ爲シ得ルモノトス

二八　二　一四三

○會社法施行以前ニ行政廳ノ聽許ニ依リ設立シタル會社ハ法人ニ非サルモ一ノ團體ナリ故ニ其團體カ其資産ヲ限度トシテ債務ヲ起シ債權者カ之ヲ承諾シタルトキハ其義務ハ團體ノ資産ニ止マリ社員一個人ノ財産ニ及ハス

三〇　二　一二

○商法實施前ニ於ケル會社社團ハ特別ノ條例ニ依リ設立セラレタルモノ

ノ外法人ト看做ササルヲ以テ一般ノ法則ト爲ス

○法人ノ資格ヲ有セサル會社社團ト雖モ公然會社ト稱スルモノハ其定款又ハ社則ニ基キ選定セラレタル役員ノ名義ヲ以テ法律行爲ヲ爲シ又之ト取引スル者モ之ヲ以テ會社ノ法律行爲ト看做スハ商法實施前ニ於テ普通認知セラレタル慣例ナリ

○商事會社法施行以前ニ於ケル會社ハ法人ノ資格ヲ有スルモノニ非ス單ニ其社員ノ共同連結ニ外ナラサルヲ以テ社外人ニ對シ特別ノ契約等ナキトキハ其責任モ亦社員連帶シテ負擔スヘキモノトス

第一節　合名會社

第四款　第三者ニ對スル社員ノ權利義務

(第百十二條)

『第百十二條』

(參照)

無限責任會社ノ性質ハ其責任會社ノ資本ニ止マラス出資者個人ノ財産ニ及ホシ各自財産ノ多寡ニ拘ハラス共同一體ニ無限ノ責任ヲ免レサルモノナレハ縱令契約ナキモ株主ハ連帶シテ其責任ヲ盡ササルヲ得ス

(第百二十條)

『第百二十條』

第五款　社員ノ退社

三〇	二	四六
三一	六	一五
二五	六	六

○商法第百二十條第二項ハ總社員ノ承諾ヲ要スル場合ト任意ニ退社スル場合トヲ論セス豫告及ヒ時期ノ二條件ヲ具備セサレハ退社ヲ許ササル法意ナリ

第六款　會社ノ解散

○會社解散ノ申請ヲ棄却シタル裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲シ得ヘキ法律ノ規定ナキニ依リ其裁判如何ニ不審ノ廉アルモ之ニ對シ抗告ヲ爲スノ權ナシ

第二節　合資會社

(第百三十七條)

『第百三十七條』

○舊商法ニ依ル合資會社社員ノ出資義務ニシテ會社解散ノ當時既ニ辨濟期ニ在ルモノハ其清算ニ付テハ純然タル會社ノ債權ニ屬スルカ故ニ清算人ハ會社ノ債務ヲ償却スルニ付キ必要ナルヤ否ヲ問ハス先ツ其辨濟ヲ爲サシムルコトヲ得ヘシ

(第百四十三條)

『第百四十三條』

○舊商法ニ依ル合資會社ノ業務擔當社員ハ會社ノ代表機關ナルモ無限責任社員ハ當然會社ヲ代表スル權限ヲ有スルモノニ非ス故ニ無限責任社員ヲ以テ會社代表ノ權限ヲ有スルモノト爲スニハ會社契約ニ依ルト將

二八	五	一九
三一	一	二九
三六		七五〇

タ社員ノ決議ニ據ルトニ論ナク其會社ノ業務擔當社員タルコトヲ認メサルヘカラス

（第百四十五條）

『第百四十五條』

○舊商法ニ於テハ合資會社ノ有限責任社員ノ持分ハ業務擔當社員ノ認可ヲ經サレハ之ヲ他人ニ讓渡スルヲ得ス從テ社員ノ債權者ハ債權轉付命令ニ因リ其持分ノ轉付ヲ受クルノ權ナシ

第三節　株式會社

第一款　總則

○定款解釋ノ如キモノニ付テハ其解釋上ニ違法ノ廉アラサレハ不服ヲ唱フルヲ得ス

○商事會社法施行以前ノ無限責任株式會社ニシテ第三者ニ對スル負債ヲ償還シ能ハサルトキハ出資者各自ハ共同一體無限ノ責任ヲ免ルルヲ得ス故ニ特約ヲ要セス其會社ノ負債ニ對シ各自連帶シテ義務ヲ負フモノトス

○米穀取引所ハ商法ノ規定ニ依リ株式組織ヲ以テ設立セル商事會社タリ故ニ之ニ對スル爭訟ハ原因ノ何タルヲ問ハス司法裁判所ノ管轄ニ屬ス

○株式會社ハ第三者ニ對シ其定款ニ羈束セラルヘキモ組合ノ規約ハ組合員カ相互ニ遵守スヘキコトヲ定メタルニ止マルヲ以テ組合員ハ第三者ニ對シ其規約ニ羈束セラルヘキモノニ非ス

三八		三〇五
三八		一四四
二八	一	一
三〇	三	一四二
三〇	七	二
三一	二	二

第二款　會社ノ發起及ヒ設立

○凡ソ有限責任會社タルニハ政府ノ認可及ヒ登記ノ手續等ヲ要スヘキハ現行商法ノ規定スル所ナリ而シテ同法施行前ニ於テ其認可ヲ地方官ニ請フ者アルモ相對ノ取引ニ任ストノ指令ヲ付シ來リタルハ一般著明ノ慣例ナリ故ニ當時ニ在テハ會社ノ性質及ヒ其責任ノ範圍ハ凡テ會社設立者ト取引者ノ合意ニ一任シ其合意ナク會社ノ性質ヲモ知ラスシテ取引ヲ爲シタル者ニ對シテハ一般契約履行ノ法理ニ依ルヘキモノトス

○舊商法ニ於テモ株式又ハ增資株式ノ申込ニ無效ノモノ若クハ無效ニ歸シタルモノアルトキハ其引受ナキ株式ハ發起人又ハ取締役ニ於テ之ヲ引受ケ拂込ヲ爲スノ義務ヲ負フモノトス

（第百六十一條）

『第百六十一條』

○株式ノ申込ハ會社設立ノ場合ト資本增加ノ場合トニ拘ハラス書面ヲ以テ爲スヲ要ス

○舊商法中署名トアルハ氏名ヲ自署スルノ謂ナレトモ株式ノ申込書ハ自署ヲ要件トスルモノニ非サレハ縱令申込人ニ於テ自署セサルモ直ニ之

四〇	二	二六四
四〇	一	一〇二
三一	一	六七

ヲ無效ト爲スヘキモノニ非ス

○舊商法第百六十一條ハ代人ヲ以テ株式ノ申込ヲ爲ス場合ニハ必ス書面ニ依リ代理委任ヲ爲スヘキコトヲ命シタルモノニ非ス從テ該委任關係ハ書面ヲ以テ之ヲ表彰スルニ非サレハ其效ナシト云フヲ得ス

○舊商法第百六十一條第二項ハ代人ヲ以テ株式ノ申込ヲ爲ス場合ニハ形式上代人ナル文字ヲ表記スヘキ旨ヲ命シタルモノニ非ス從テ申込書自體ニ依リ氏名附記者カ事實上代理權アルコトヲ認識スルニ足ルトキハ其申込ハ適法ナリ

三九　二六

（第百六十七條）

『第百六十七條』

○株金ノ拂込ハ申込ノ爲メニスル以上ハ第三者代リテ之ヲ行フモ不法ニ非ス

三九　二四一

（第百六十八條）

『第百六十八條』

○株式會社カ登記ノ屆出ヲ爲スコトハ其義務ニ屬スルモ此義務ハ登記官吏カ會社ヨリ差出シタル登記ニ關スル陳述書ヲ受理シタル時ヲ以テ終了シ其後ノ行爲ニ關係ヲ有セサルモノトス

○株式會社ノ登記ニ關スル陳述書ノ適否ヲ審査シ之ヲ登記スルハ登記官吏ノ責任ヲ以テ爲スヘキ登記官廳ノ行爲ニ屬シ會社ノ責任ニ屬セス

三一　六　四一

三一　六　四二

（第百七十一條、第百七十二條）

『第百七十一條、第百七十二條』

○舊商法第百七十二條ノ規定ニハ創業總會以後ニ生シタル義務及ヒ出費ヲ包含セサルハ勿論同第百七十一條ノ規定モ亦主トシテ其以前ノ義務及ヒ出費ニ關スルモノニ外ナラス

○舊商法施行ノ當時株式會社發起人カ創業總會ヲ開キタル時ヨリ會社ノ設立登記ヲ爲スマテノ間ニ生スヘキ義務及ヒ出費ノ如キハ創業總會ニ於テ豫メ之ヲ議決スルコトハ法令ノ禁スル所ニ非サレハ此場合ニ於テモ亦同法第百七十一條ノ規定ヲ適用スルコトヲ妨ケス

○舊商法施行ノ當時株式會社創立委員長カ發起人ノ委任ニ因リ創業總會ノ後會社ノ利益ノ爲メニ締結シタル消費貸借ノ債務ニ付テハ委任者タル發起人ニ於テ之カ辨濟ノ責ニ任スヘキハ當然ナリト雖モ特別ノ意思表示アラサル以上ハ連帶責任ヲ負ハシムルヲ得ス

三八　一六九五

三八　一六九五

三八　一六九五

第四款　株式

○株式ノ賣買ニ付テハ株券調製ナキモ合意ノ性質ヲ變セス

○白紙委任狀ヲ添ヘテ株券ヲ買取リタル者ハ其名義書換ノ手續ヲ爲サス白紙委任狀添附ノ儘之ヲ輾轉流通セシムルコトヲ得ルハ我邦現時ノ商慣習ナリ

二八　四　七六

三〇　三　二六

○舊商法ニ於ケル株券ノ賣買ハ株券其物ノ賣買ニ非スシテ株主權タル債權ノ賣買ニ外ナラサルモノトス　三四

（同主旨）株券ノ賣買トハ株式ノ賣買即チ一種ノ權利ノ讓渡ニシテ株券ト稱スル特定物ノ賣買ニ非ス（參照）　五　一〇六

未タ獲得セサル株券ノ賣代金ヲ以テ自己ノ負債ヲ償却シタルハ他人ノ立換ヲ受ケタルト一般ナリ　二八　四　七六

甲者カ會社株券ノ名前人タルノ故ヲ以テ既ニ配當金ヲ受領シタリシト雖モ是ヨリ先キ其株券ノ所有權ハ乙者ニ移リ乍ラ甲者ノ故障ニ依リ名前書換ヲ爲シ能ハサルカ爲メ甲者ノ受領シタル配當金ノ取戻ヲ請求シタルトキハ甲者ハ之ヲ引渡ス義務アルモノトス　二五　三　二〇

總テ株券ノ賣買ハ一般ノ商慣習ニ於テ先ツ相場ヲ立テテ之ヲ爲スモノトス利落賣買ハ或場合ノ變例ニ過キス故ニ利落賣買ノ證據ナキ以上ハ相場ヲ立テテ賣買シタルモノナルニ依リ未タ支拂ハサル配當金ハ賣買前ノ時期ニ係ルモノモ株券ト共ニ讓受人ノ取得スルヲ一般ノ商慣習ナリトス　二六　二　三一五

『第百八十條』（第百八十條）

○商法實施前ヨリ設立シタル株式會社ハ登記ヲ經サルモ商法實施ノ日ヨリ六个月內ハ依然トシテ會社ノ效ヲ存シ其株券ニ於ケルモ商法實施前ヨリ株式取引所又ハ取引所ニ於テ賣買シ來リタルモノ及ヒ既ニ債權ノ擔保ニ供シタルモノアルトキハ其賣買若クハ擔保ニ爲シタル或株券ノミナラス其會社ノ總テノ株券ニ付テモ商法第百八十條ノ規定即チ「登記前ニ爲シタル株式ノ讓渡ハ無效タリ」トアル規定ヲ適用スヘキ限ニ在ラス　二八

○會社ノ登記以前ニ其株式ヲ讓渡シタルトキハ當事者互ニ其履行ヲ求ムルヲ得ス又授受ヲ了リタルトキハ互ニ返還ヲ求ムルヲ得ヘシ　二八　五　九一

○商法第百八十條ノ規定ハ豫約株ト稱スルモノノ賣買ニモ亦適用スヘキモノトス　三二　二　一二四

○未タ登記セサル會社ノ株式ニ關スル權利ノ賣買ハ舊商法第百八十條ニ從ヒ無效ナルヲ以テ之カ爲メ支拂ヒタル代金ハ當然取戻シ得ヘキモノトス　三四　一　二一

○未タ登記セサル會社ノ株式ニ關スル權利ノ賣買代金ノ對價ハ株式ニ關スル權利ニシテ證據金領收書及ヒ委任狀ノ如キハ右賣買ノ目的タル權利ヲ證明セルモノニ過キス　三四　一　二一

○舊商法第百八十條中「株式」ナル文字ハ株式會社發起ノ時ヨリ其登記ヲ爲スニ至ル間ニ於ケル株式ニ關スル權利ヲ包含スルモノトス　三四　一　二五

○舊商法第百八十條ニ所謂株式トハ申込ヲ爲シタル權利ヲモ包含スルモノト解釋スルヲ相當ナリトス　三四　四　八二

○舊商法第百八十條ハ登記前ニ於ケル株式ハ讓渡ノ目的物ト爲シ得サル旨ヲ規定シタルニ止マリ讓渡行爲自體ヲ禁止シタルモノニ非ス　三五　二　九〇

○舊商法ニ於テハ株式會社登記前ノ株式ノ讓渡ハ其普通ノ賣買タルト公賣タルトヲ問ハス將タ又其任意タルト强制タルトヲ論セス凡テ絶對ニ無效ナリトス　三五　九　二七

（同主旨）

會社ノ登記以前ニ爲シタル株式ノ讓渡ハ商法第百八十條ニ依リ絶對的ニ無效ナリ

會社登記前ノ株式ノ讓渡ハ商法第百八十條ニ依リ無效ナリトス　二八　五　九一　三二　二　二四

（第百八十一條）

『第百八十一條』

（參照）

記名ノ株券ハ普通ノ動產ト同視スヘカラス其名義書換等ノ手續ヲ爲ササルトキハ他人ニ對シ所有移轉ノ效力ヲ有セス　二五　三　二〇

第五款　取締役及ヒ監査役

○株式會社ノ訴訟ニ於テ社長カ訴訟委任ヲ爲スニ當リ其委任狀ニ社印ヲ用ユヘキ規定ナキニ依リ社長ノ實印押捺アル訴訟委任狀ヲ是認セル裁判ハ相當ナリ　三一　四　二六

○舊商法施行ノ當時株式會社ノ支配人カ會社ノ代表者トシテ締結シタル契約ハ民法第百十三條ノ規定ニ依リ本人タル會社ニ於テ之ヲ追認スルニ非サレハ其效力ヲ生セサルモノトス　三七　四三八

（參照）

銀行ノ頭取及ヒ株主總代兼ノ肩書ヲ附シテ取締役支配人之ニ連署シ銀行ノ印章ヲ押捺シタル證書ハ完全ナル契約書ナリト認メ乍ラ之ヲ無效ノ契約ト認定スルニハ確實ナル反證ヲ擧クルカ又ハ他ニ相當ノ理由ナカルヘカラス然ルニ該銀行ノ考課狀ニ該契約ヲ締結スヘキ議決ノ記載ナキヲ唯一ノ理由トシテ該契約ハ株主總會ノ議決ヲ經サルモノト爲シ該證ノ契約ヲ無效ナリト認定シテ判決ヲ下シタルハ採證ノ法則ニ違背シテ事實ヲ確定シタル違法ノ裁判ナリ　二六　二　一三六

（第百八十五條）

『第百八十五條』

○舊商法ニ於ケル株式會社ノ取締役ハ創業總會ニ於テ選定セラルルモノナレトモ其會社ノ機關トシテ活動スルハ會社設立ノ免許ヲ得而シテ發起人ヨリ事務ノ引繼ヲ受ケタル時ニ始マルモノナレハ其任期ノ如キモ亦此時ヨリ起算セサルヘカラス　三七　八八八

（第百八十六條）

『第百八十六條』

（參照）

會社取締役ノ資格ヲ以テ發付セシ書面タルモ社印ナキカ爲メ會社ニ貴ナシト爲サンニハ他ヲ羈束スルニ足ルヘキ約束ナカルヘカラス然ラサレハ概シテ其社印ナキカ爲メ取締役ノ爲シタル行爲モ會社ニ貴ナシト云フヲ得ス　二六　二　一一四

（第百八十八條）

『第百八十八條』

商法　商ノ通則　取締役及ヒ監査役　商事會社及ヒ共算商業組合　株式會社　五九九

○舊商法施行ノ當時甲株式會社カ乙株式會社ノ財産ヲ買受ケタル場合ニハ甲會社ノ取締役ハ縱令其賣買ニ付キ株主總會ノ決議ヲ經タレハトテ之カ施行ニ付テハ充分目的物ノ有無ヲ調査シ甲會社ニ損害ヲ生セシメサルノ責任ヲ負フモノトス從テ乙會社ニ存在セサル財産ヲ存在スルモノトシ之カ對價ヲ支拂ヒタルトキハ該取締役ニ於テ其損害ヲ賠償スヘキハ當然ナリ　三八

第六款　株主總會

○株式會社ノ株主カ他ノ資格ヲ以テ其會社ニ對シ債權ヲ請求スルトキハ會社ノ議決錄ニ拘束セラルルコトナシ　二九　六　二二

○各株主カ株主總會ノ決議ニ依リ負擔スヘキ義務ハ其所有スル株式ノ金額ヲ限度トスルモノニシテ之ヲ超過シテ該決議ノ結果ヲ受クルモノニ非ス隨テ株主總會カ株券ノ金額ヲ增加シ又ハ新株式ヲ發行シ現在ノ株主ヲシテ其所有スル株式ニ應シ之ヲ引受ケシムヘキコトヲ決議スルモ各株主ハ之ヲ承諾スルニ非サレハ其引受ヲ爲スノ義務ナシ　三一　一　六七

○株式會社ニ於ケル株主總會ノ決議ハ會社タル法人ノ意思ニシテ法人自體ノ利害ニ關スル重要ノ事項ヲ定ムルモノタルニ外ナラス而シテ株主ハ其所有株式ノ金額ヲ限度トシテ總會ヲ組成スル株主ノ法定多數ノ意思ニ服從スヘキコトヲ豫諾シタルニ過キス

○株主總會ノ決議ニ付キ株主カ服從ノ義務ナキ以上ハ會社カ決議事項ヲ登記スルモ株主ニ對シテ其效ヲ有セス　三二　一〇　八五

○株式會社ハ總會ノ決議ニ依リ定款ヲ變更シ株券金額ヲ增シ新株券ヲ發行スルヲ得ルモ其決議ハ株式會社タル法人ノ意思ニ過キサレハ株金額增加ノ引受ヲ承諾セサル株主ニ對シ增加株金ノ拂込ヲ强要スルヲ得ス　三二　一二　六六

（第二百六條）

『第二百六條』

○株式會社ノ資本ノ增減ハ其定款ノ變更ナリ而シテ定款ノ變更ニ必要ナル株主總會ノ決議ハ各株主ヲ羈束スト雖モ各株主カ其決議ニ服從ノ義務アルハ其所有株式ノ金額ヲ以テ限度トスヘク株主總會ノ決議ノ爲メ右金額ヲ超過シ新ナル義務ヲ負擔スヘキモノニ非ス　三二　一〇　八五

○株式會社ハ總會ノ決議ニ依リ定款ヲ變更シ株券金額ヲ增シ新株券ヲ發行スルヲ得ルモ其決議ハ株式會社タル法人ノ意思ニ過キサレハ株金額增加ノ引受ヲ承諾セサル株主ニ對シ增加株金ノ拂込ヲ强要スルヲ得ス　三二　一二　六六

○舊商法施行時代ニ於テ株式會社カ資本ヲ增加スルニハ株券ノ金額ヲ增ス場合ト新株券ヲ發行シテ之ヲ各株主ニ分配スル場合トヲ分タス株主

總會ノ決議ヲ經テ各株主ヨリ書面承諾ヲ受クルニ非サレハ其拂込ヲ請求シ得サルモノトス　三七

○舊商法ニ於テモ株式又ハ增資株式ノ申込ニ無效ノモノ若クハ無效ニ歸シタルモノアルトキハ其引受ナキ株式ハ發起人又ハ取締役ニ於テ之ヲ引受ケ拂込ヲ爲スノ義務ヲ負フモノトス　四〇

第八款　株金ノ拂込

○株式會社カ資本ヲ增加スル場合ニ於テ其新株ノ應募者ハ總新株ノ引受アルヘキコトヲ豫想シテ其募集ニ應スルモノナルヲ以テ會社ハ定款ニ別段ノ定アル場合ノ外總新株ノ引受アリタル後ニ非サレハ引受ヲ爲セシ者ニ對シ拂込ヲ催告スルヲ得ス　三二　一　六七

『第二百十五條』（第二百十五條）

（參照）會社定款ヲ以テ拂込未濟ノ株ヲ公賣ニ付シ不足金ノ追徵ヲ爲スコトヲ許シ而シテ必ス一回ノ拂込未濟毎ニ其處分ヲ結了スヘキコトヲ限ル明文ナキ以上ハ其會社ニ於テ二回以上ノ拂込未濟ニ對スル處分ヲ併セテ同時ニ爲スコトヲ得　二四　一　一八八

第九款　會社ノ義務

○銀行ノ考課狀ハ銀行カ其株主ニ對シテ爲シタル報告書ナレハ其記載事項ニ付キ株主以外ノモノニ對シテ直接ニ其責ヲ負フモノニ非ス　二九　二　一

『第二百十七條』（第二百十七條）

○舊商法施行ノ當時株式會社カ同法第二百十七條但書ノ規定ニ違背シテ自己ノ株券ヲ取得シタル場合ニ於テハ其公賣ノ方法ニ依ルト否トヲ問ハス更ニ之ヲ第三者ニ移轉シ得サルモノトス　三七　四三八

『第二百二十一條』（第二百二十一條）

○會社ノ新株ト舊株ト性質ヲ異ニシ利益配當上優劣アル場合臨時總會ニ於テ新株一株ト舊株二株半ヲ同等ト爲シ新株ノ特權ヲ將來ニ向テ廢止センコトヲ議決スルモ商法第二百二十一條ノ規定ニ違背シタルモノニ非ス　三〇　一　三〇

第十一款　取締役及ヒ監査役ニ對スル訴訟

○舊商法施行中ニ提起シタル訴訟ニ對シ商法第百六十三條第三項ノ規定ヲ適用シタル裁判ハ不法ナリ　三四　二　四〇

『第二百二十九條』（第二百二十九條）

○舊商法第二百二十九條ハ會社資本ノ二十分一ニ該ル株主ニ限リ訴訟ヲ爲スコトヲ許シ其他ヲ禁スルノ法意ニ非スシテ二十分一以上ノ株主ハ普通ノ訴訟手續ニ從フヲ要セス特ニ選定シタル代人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス

コトヲ得ヘキ便宜ヲ與ヘタルニ過キス

第十三款　會社ノ清算

(第二百四十條)　『第二百四十條』

○商法實施前ノ私立銀行殘務委員ニ其銀行代表ノ權利アルコトハ裁判上公認セラレタル慣例ナリ　三四　二　四〇

○殘務委員數名アル場合其代表權ニ關シ定款等ニ依リ制限ヲ付セサル以上ハ各別ニテモ銀行ヲ代表スル權利アリトス　三〇　一〇　一九

(第二百四十六條)　『第二百四十六條』

○舊商法第二百四十六條ノ法意ハ清算ノ爲メ必要ナルトキハ拂込未了ノ株金ヲ拂込マシムル權利アリトノ義ナリト解釋セサルヘカラス　三四　九　九二

第四節　罰則

○過料處分ハ民事上ノ責任ト異ナリ相續人ニ於テ先代ノ負ヘル責任ヲ繼承スヘキモノニ非ス　三一　九　三九

(第二百六十二條)(刑)　『第二百六十二條』

○會社ノ業務擔當ノ任アル社員ニシテ不實ノ報告ヲ爲シタルトキハ報告ノ各回毎ニ其罪(商法第二百六十二條)ヲ構成ス　三二　三　三七

第五節　共算商業組合

(第二百六十六條、第二百六十七條)　『第二百六十六條、第二百六十七條』

○商業上組合員カ連帶責任ヲ負擔スルハ裁判上公認ノ法理ナリトス　三二　一〇　六九

○舊商法第一編第六章第五節ニ規定セル當座組合ニ在テハ會社解散ノ場合ニ於ケルカ如キ清算手續ヲ爲スヘキ法規存セサレハ組合員ハ如上ノ手續ヲ踐マスシテ各自組合ノ損益ヲ計算シ以テ組合關係ニ基ク債權ヲ主張シ得ルモノトス　四一　一三九

第七章　商事契約

(參照)
商業取引上ノ殘額ハ合意ニ因テ不可分ト爲ササル以上ハ其性質可分ナリ　二九　三　二九

第七節　時效

(第三百四十九條)　『第三百四十九條』

○明治二十六年舊商法ノ一部施行後請負工事ヲ營業トスル商人カ鐵道築堤工事ノ請負ニ付キ他人ト當座組合契約ヲ締結シタルトキハ其契約ハ商事ニ屬スルヲ以テ該組合關係ニ基ク債權ハ商行爲ニ因リテ生シタルモノニ外ナラス故ニ明治三十一年舊商法施行後ハ其第三百四十九條ニ依リ同法施行ノ日ヨリ時效ノ適用ヲ受ケ尙ホ商法施行法第百三十七條

及ヒ現行商法第二百八十五條ニ從ヒテ時效ニ罹ルモノトス　四一　一二三九

第十一節　指圖證券及ヒ無記名證券

○舊商法ノ規定ニ依レハ記名式ヲ以テ發行シタル寄託物ノ受取證書ハ裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得ルモ之カ爲メニ該證書ヲ目シテ指圖證券トスルヲ得ス從テ其證券ニハ同第三百九十九條乃至第四百一條ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス　四一　三四八

第八章　代辨人、仲立人、仲買人、運送取扱人及ヒ運送人

第五節　仲買人

『第四百五十六條』（第四百五十六條）

○物產ノ委託販賣ヲ目的トスル會社ハ營業トシテ貸金ヲ爲スヲ得スト雖モ其營業外ニ金錢ノ貸借ヲ爲スモ妨ナシ　三〇　一〇　八四

第六節　運送取扱人

（參照）運送取扱人ニ對シ荷爲替附ノ荷物引渡ヲ求ムル者ハ爲替金ノ支拂ヲ爲サスシテ荷物ノミノ引取ヲ許ササルハ條理及ヒ商慣習ノ認ムル所ナリトス　二八　五　一〇六

『第四百八十四條』（第四百八十四條）

○舊商法第四百八十四條ニ規定セル運送狀ニ付テハ新商法第三百四十四條ノ如キ明文ナシト雖モ運送狀ハ流通證券ニシテ運送品ヲ代表スルモノナル以上ハ之ト引換ニ非サレハ運送品ノ引渡ヲ請求シ得サルモノト解釋セサルヘカラス　三七　八六八

『第四百八十九條』（第四百八十九條）

（參照）運送取扱人ハ荷爲替附ノ荷物ヲ宛名人ニ引渡スモ其爲替債權ヲ失却セス單ニ留置權ヲ失フモノトス　二八　五　一〇六

第七節　運送人

○荷爲替ナルモノハ荷主カ運送物品ヲ擔保トシテ借入レタル金員ヲ其物品引換ニ債權者又ハ債權者ノ指名シタル者ニ支拂フヘキ旨ヲ荷受人ニ對シテ指圖ヲ爲シ若シ其辨濟ヲ爲ササル場合ニ於テハ擔保物ヲ賣却シ其賣得金ヲ以テ辨濟ニ充當スル權利ヲ債權者ニ與ヘタル行爲ナリトス　三一　一　四

○荷爲替ニ因リテ生スル法律關係ハ其債權者ト荷主タル債務者トノ間ニ於ケル物品擔保附ノ金錢貸借ナリトス　三一　一　四

○荷爲替ノ債權者ハ荷受人カ辨濟ヲ爲ササルトキハ其擔保物タル運送物

運送人

品ノ處分ヲ爲サスシテ直ニ荷主タル債務者ニ對シテ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス　三一　一四

○運送營業ニ關スル債務ト雖モ其債務證書ヲ作製シテ第三者ニ交付シ又ハ金額ヲ借入ルルカ如キ行爲ハ單純ナル運送業務使用人ノ受任權內ニ屬スヘキモノニ非ス　三二　五　一三六

（參照）通常荷爲替ナルモノハ其證文ノ明文ニ依リ債主タル者ノ隨意處分スルヲ得ヘキモノナレハ其處分上ニ付キ負債主ノ承諾ヲ經サルモ荷爲替代金ニ不足ヲ生スル時ハ負債主ニ於テ之ヲ償却スル義務アルモノトス

荷爲替ナルモノノ性質ハ貸借ト留置權トノ法理ニ基キシモノニテ荷受主カ荷物ヲ拒絕シ爲替金ヲ支拂ハサル場合ニ於テハ貸主ハ荷物ヲ其儘荷主ニ組戻シテ單ニ爲替金ノ返還ヲ請求スルコトヲ得必スシモ保證物賣却ノ後ヲ俟タス　二五　一　八

（第四百九十三條）

『第四百九十三條』

（參照）甲者乙者ト運送契約ヲ爲シ乙者ニ於テ運送中其貨物ノ喪失シタルニ依リ甲者其價額ノ賠償ヲ求ムルトキハ乙者ニ過失アルコトヲ證明スルノ責任ナシ而シテ乙者ハ運送ノ責任ヲ負擔シタルモノナレハ貨物ノ喪失カ甲者ノ過失貨物ノ性質又ハ不可抗力ニ基因シタルニ非サル以上ハ縱令喪失カ第三者ノ所爲ニ係リ乙者ノ自己ノ過失ナキモ甲者ニ對シ賠償ノ責ヲ免ルルコト能ハス　二五　三　一六

運送中貨物ノ喪失ニ付テハ運送營業者ニ於テ自己ノ過失ニ原因セサルコトヲ立證スルニ非サレハ貨物引渡ノ義務ヲ免レス　二九　二　一三四

（第五百五條）

『第五百五條』

○運送人ニ於テ同業者カ引受ケタル貨物ヲ引受ケ遞次運送ヲ爲ストキハ各運送人ハ荷主ニ對シテ連帶シ運送ニ付テノ責任ヲ負擔スルヲ以テ一般ノ慣行ナリトス　三二　二　二二

（第五百十六條）

『第五百十六條』

○舊商法第五百十六條ノ時效ハ荷送人及ヒ荷受人等ヨリ運送人ニ對スル場合ニ係ルモノニシテ或運送取扱人若クハ運送人カ荷送人又ハ荷受人等ニ對シ運送ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償シタルヨリ他ノ運送取扱人又ハ運送人ニ對シテ轉償ヲ求ムルカ如キ場合ハ之ヲ包含セサルモノトス　三七　八六八

（第五百五十三條）

第九章　賣買

第二節　供給契約

『第五百五十三條』

（參照）

供給契約ハ特約アルニ非サレハ物ヲ引渡スニ由テ所有權始メテ買主ニ移轉スルモノナレトモ物ヲ運送人ニ委託シタルノミニテハ未タ以テ賣主ノ所有權ヲ移轉スト云フヲ得ス

第十章　信用

第三節　寄託

（第六百八條）

『第六百八條』

○倉敷料等ヲ受取リ物品ノ寄託ヲ營業ト爲ス倉庫會社カ其倉庫ノ失火ニ因リ滅失セシ物品ニ對スル損害賠償ノ義務ヲ免ルルニハ自己ノ過失ニ原因セサル火災ノ爲メ委託物品ノ滅失シタル事實ヲ證明セサルヘカラス

（參照）

倉庫會社カ火災ニ因リ受託物品ヲ滅失シタルトキハ其火災ハ自己ノ過失ニ非サルコトヲ立證シ初メテ賠償ノ義務ヲ免ルルコトヲ得

（第六百二十一條）

『第六百二十一條』

○舊商法ノ規定ニ依レハ記名式ヲ以テ發行シタル寄託物ノ受取證書ハ裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得ルモ之カ爲メニ該證書ヲ目シテ指圖證券トスルヲ得ス從テ其證券ニハ同第三百九十九條乃至第四百一條ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス

第十一章　保險

第一節　總則

（第六百三十七條）

『第六百三十七條』

○舊商法第六百三十七條ハ一人カ同一保險物ノ利益ニ關シ二人以上ノ保險者ヨリ各別ニ保險ヲ受クルトキニ於テ各保險金ノ合算額カ保險價額ニ超過セル場合ヲ規定シタルモノニシテ各保險金ノ合算額カ保險價額ニ超過セサルニ於テハ同條ニ所謂重複保險ト稱スヘキモノニ非ス

（第六百五十三條）

『第六百五十三條』

○保險契約ヲ爲スニ際シ不實ノ告示ヲ爲シタル場合ニ於テ其事實ノ輕重ヲ較量シ保險契約ノ效力如何ヲ判定スヘキハ當事者間ニ其特約ナキ場合ニ限ルモノトス

第二節　火災及ヒ震災ノ保險

（參照）

被保險者ハ若シ火災防禦ノ手段ヲ盡ササルトキハ保險金ヲ受領スルノ權ヲ失フモノタルコトハ保險規則ノ條文ニ於テ明カナリ即チ本訴ノ曲直ヲ定ムルニハ先ツ上告人ニ於テ火災ノ當時

被保險物ニ防禦ノ手段ヲ盡サザリシハ果シテ怠慢ニ出テタルヤ否ヲ確定セサルヘカラス否ラサレハ該則ノ制裁ヲ受クヘキモノナルヤ否ヤ判然セサル筋合ナルニ原院ハ直ニ該則ノ制裁ヲ受クヘキモノトシタルハ不法ノ裁判ナリ

第五節　生命保險、病傷保險及ヒ年金保險

二八

四三一

（第六百七十八條）

『第六百七十八條』

（參照）

生命保險契約ハ財產上ノ關係ナシト雖モ親屬故舊ノ因由情誼ヨリ甲者乙者ノ爲メニ保險金ノ義務ヲ負擔スルハ法律ノ禁スル所ニ非サルヲ以テ保險金負擔者ト被保人ト其人ヲ異ニスレハトテ公安ヲ害スルノモノトシテ無效ト論斷スルコトヲ得ス

二六

二

四一

第十二章　手形及小切手

總則

○送金手形カ所持人證券ナル場合ニ在テハ縱令之ヲ讓渡シタル者ト支拂人トカ相互ニ債權者タリ債務者タリシコトアルモ法律上相殺ヲ以テ第三者タル所持人ニ對抗シ得ルトスルニ於テハ取引上ノ信用ヲ害シ融通ヲ妨クルコト必然ナリ則チ法律ニ於テ明カニ之ヲ許サザル限ハ第三者タル所持人ニ對抗スルヲ得ルカ如キ相殺ハ生セサルモノトセサルヲ得ス

○送金手形カ所持人證券ナルトキハ其手形ヲ支拂フヘキ者ニ告知ヲ爲シ又ハ其承諾ヲ得ルカ如キ手續ヲ要セサルハ論ヲ俟タス況ヤ「コルレスポンデンス」ノ契約アルニ於テヲヤ抑「コルレスポンデンス」ノ契約ハ其當事者タル銀行ノ一方ヨリ他ノ一方ニ對シ手形ヲ受取ルヘキ手形所持人ノ何人タルヲ問ハス其命令ニ從ヒ支拂ヲ爲スヘシトノ契約ニ外ナラス

二七

一七五

○差圖證券ノ債務者ハ其證券ニ記載シタル事項又ハ其證券ヨリ當然生スル抗辯ニ由ルニ非サレハ其債權者ニ對抗スルヲ得ス

三二

四

六一

○有效ノ手形ハ融通證券ナルヲ以テ當然合法ノ原因ヲ含有スルモノト推定セラレ之ニ署名捺印シタル者ヲシテ其手形上ノ文言ニ從ヒ責任ヲ負ハシムルノ效力アリト雖モ失效ノ手形ニ至リテハ唯其所持人ヲシテ支拂人振出人又ハ裏書讓渡人ニ對シ此等ノ者カ支拂ハサリシ爲替資金若クハ取戻シタル爲替資金ニ因リ己ヲ利シタル限度ヲ特ニ證明シタル上其限度內ニ於テノミ償還請求ヲ爲スヲ得セシムルコトハ舊商法ノ規定スル所ナリトス

三三

五

六八

（第七百二條）

『第七百二條』

○約束手形成立ノ後別ニ契約ヲ以テ滿期日ヲ定メタルトキハ手形面ノ滿期日ハ外觀ノ爲メニノミ記入シタルモノト爲リ其約束手形ハ商法第七百二條ノ規定ニ依リ其情ヲ知リタル者ニ對シテ手形ト看做スヘキモノニ非ス

（第七百五條）

『第七百五條』

○手形ハ要式證券ナルヲ以テ無期限ノ延期手形ト云フ如キ不完全ノモノニハ手形ノ名稱ヲ付與スルコトヲ得ス手形トシテハ手形面ニ記入アル支拂期日ノ延期ヲ許スコトヲ得ス當事者間ノ合意ヲ以テ約束手形面ノ支拂期日ヲ延期セシコトノ事實ヲ認メタル上ハ普通法ニ依テ其合意ヨリ生スル所ノ責任如何ヲ判定セサルヘカラス

○凡ソ手形ハ例外ノ場合ヲ除クノ外ハ縱令契約者間ノ目的如何又ハ權義ノ起因如何ニ拘ハラス專ラ手形面ニ記載セラレタル文詞ニ依リテ直接ニ其效力ヲ生セシムヘキモノトス從テ償還請求ノ通知モ亦手形上ニ記載セラレタル裏書讓受人タル所持人ニ於テ舊商法第七百八十三條ノ規定ニ基キ之ヲ爲スニ非サレハ其效力ヲ有セサルモノトス

（第七百七條）

『第七百七條』

○約束手形ノ但書ニ「本件金額ハ某銀行拙者當座勘定ヨリ支拂可申候也」ト記載セル文言ハ手形所持人ニ一ノ便利ヲ與ヘタルニ過キサレハ商法ニ所謂重要ナラサル附記ト看做スヘキモノトス

（第七百十條、第七百十一條）

『第七百十條、第七百十一條』

○凡ソ手形ノ占有者ハ其取得ノ方法正當ニシテ且甚シキ怠慢ニ出テサルトキハ商法第七百十一條ニ列擧シタル原由アルモノノ外同法第七百十條後段ノ場合ニ非サルヨリハ其取得ノ權利ヲ害セラルルコトナシ

（第七百十四條）

『第七百十四條』

○時效ニ因リ約束手形上ノ請求權ヲ失ヒタル者ハ其爲替權利ヲ失ヒタルニ拘ハラス振出人カ爲替資金ニ因リ不當ニ己ヲ利シタル限度ニ於テ不當利得ノ取戻ヲ請求シ得ヘキモ振出人ハ常ニ其手形面ノ金圓ヲ利得シタルモノト推定スヘキニ非ス

第一節　爲替手形

第一款　振出

（第七百十六條）

『第七百十六條』

○舊商法第七百十六條ハ振出人ノ署名捺印ヲ以テ爲替手形ノ要件ト爲スカ故ニ苟モ振出人ノ氏名ノ記載アリ且其捺印ニシテ眞正ナル以上ハ氏名ノ記載ハ振出人自ラ之ヲ爲ササル場合ト雖モ尙ホ其要件ヲ具備スル

モノト謂フヘシ

○舊商法第七百十六條ニ振出ノ場所トアルハ新商法ノ振出地ト同シク市町村ノ如キ行政區畫中獨立シタル最小地域ノ謂ナリ　三九　三九　一三四一

第二款　裏書

○舊商法ニハ縱令新商法第四百六十一條及ヒ第四百六十四條但書ノ規定ト同一ナル明文ナシト雖モ讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テ裏書讓渡シタル手形ノ所持人ハ自己ヲ被裏書人ト爲スコトヲ得ルノミナラス同種ノ裏書數次アル場合ニ於テハ後ノ裏書人ハ前ノ裏書ニ因リテ手形ヲ讓受ケタルモノト看做スヘキハ當然ナリ　三四　六　六五

（第七百二十三條）

『第七百二十三條』

○手形ニ裏書讓渡人ノ住所記載ナキトキハ其裏書讓渡人ト裏書讓受人トノ間ニ讓渡ノ效ナキニ止マリ其瑕疵ハ手形ノ效力ニ影響ヲ及ホスモノニ非ス　二九　一一　一六

○舊商法ニ依レハ手形ノ裏書ニハ二種アリテ其第一種ハ年月日場所裏書讓渡人ノ署名捺印及ヒ裏書讓受人ノ氏名アルコトヲ要シ第二種ハ裏書讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テ爲スヘキモノナルカ故ニ單ニ裏書讓渡人ノ署名捺印ノ外ニ裏書讓受人ノ氏名ヲ記載シタル手形ハ第一種ノ裏書トシテ無效ナルノミナラス第二種ノ裏書トシテモ其效ヲ有セス　三三　七　四五

（第七百二十四條）

『第七百二十四條』

○舊商法第七百二十四條ハ裏書ノ日附ハ裏書讓渡合意ノ日ヨリ前ノ日附ト爲スコトヲ得サル旨ヲ規定シタルモノニシテ必スシモ手形交付ノ日ヨリ前ノ日附ト爲スコトヲ得スト爲シタルモノニ非ス　三四　三　六一

（第七百二十五條）

『第七百二十五條』

○舊商法第七百二十五條ニ依レハ裏書讓渡人ノ署名捺印ノミニテ裏書讓渡ヲ爲シタル手形ハ爾後交付ノミヲ以テ轉付スルコトヲ得ヘキモノタリ故ニ此手形ニ付キ再三裏書人ノ署名捺印ノミヲ以テ爲シタル裏書讓渡ヲ有效ト認メタル判決ハ相當ナリ　三二　一〇　二九

○舊商法第七百二十五條ノ法意ハ一度讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テ裏書讓渡ヲ爲シタル手形ハ特ニ通例ノ裏書若クハ讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テスル裏書ノ方法ニ依ラスシテ交付ノミヲ以テ讓渡スルコトヲ得ヘシトノ旨趣ニシテ讓渡ノ方法ヲ交付ノ一事ニ限定シタルモノニ非ス　三四　六　六五

（第七百二十八條）

『第七百二十八條』

○舊商法ニ於テ手形ノ裏書讓受人ハ支拂期日後ニ其裏書讓渡ヲ爲シタル各人ニ對シ償還請求權ヲ有ス　三三　五　六一

○舊商法第七百二十八條後段ニ所謂獨立シタル償還請求權ヲ取得ストハ滿期後ニ手形ノ裏書讓渡ヲ受ケタル者ハ滿期後ノ裏書讓渡人ニ對スル關係ニ於テハ其前者ノ權利如何ヲ問ハス法律ノ規定上獨立ノ權利ヲ享有セシムル旨趣ナリトス

第五款　保證

『第七百五十一條』

（第七百五十一條）

（刑）○手形保證人ヲシテ其債務者ト連帶シテ義務ヲ負擔セシムルノ規定（商法第七百五十一條）ハ單ニ債權者ニ對シ連帶責任ヲ負ハシメタルニ止マリ主タル債務者ト保證人トノ權利關係ハ毫モ變更ヲ受クヘキモノニ非ス是故ニ保證人名義ヲ純然タル連帶債務者ノ如ク變更シタル所爲ハ手形變換行使罪ヲ構成ス

第六款　支拂

○舊商法ニ依リタル手形ノ滿期日後ニ裏書讓渡ヲ得タル所持人カ其支拂ノ請求ヲ爲ササリシ場合ニ於テハ訴狀送達ノ日ヲ以テ滿期日ト爲スヘキモノナレハ手形債務者ハ其日ヨリノ利息ヲ支拂フヘキモノトス

第八款　償還請求

（參照）

四三	三九七	三〇	四
		八	
四三	四五五	四	

手形裏書人ニ對スル償還ノ要求ハ支拂ノ請求ト其場合異ナルヲ以テ拒證書ノ作製ヲ要スル規定モナク隨テ嚴格ナル手續ニ依ラサルモ現ニ本人又ハ本人ノ住所ニ就キ要求ヲ爲シタルコトヲ認ムヘキ確證アレハ其效アルモノトス

『第七百七十六條』

（第七百七十六條）

○手形所持人カ裏書讓渡人ニ對シテ償還請求ヲ爲サント欲セハ必ス滿期日ニ支拂ノ爲メ之ヲ支拂人ニ呈示スルヲ要ス若シ其呈示ヲ爲ササルトキハ原因ノ如何ヲ問ハス償還請求ノ權ヲ喪失スルコトハ舊商法ノ法意ナリ

『第七百八十一條』

（第七百八十一條）

○手形ノ償還請求ニ付キ爲ス所ノ通知ハ民事訴訟法ニ依リ任命セラレタル特別代理人ニ爲スモ有效ナリトス

○裏書讓渡人ニ對シ爲スヘキ償還請求ノ通知ハ權利發生ノ條件ニ過キスシテ請求ノ原因ニ非ス故ニ二箇ノ訴訟カ其償還請求ノ通知ヲ爲シタル日時ニ差異アルモ前訴後訴共ニ其請求ノ原因カ振出人ニ於テ支拂ヲ拒絕シタルニ因リ償還請求ヲ爲スニ在ルトキハ後訴ハ一事不再理ノ原則ニ反スル不當ノ訴訟ナリ

○手形所持人カ裏書讓渡人ニ對シ償還請求ヲ爲スニハ支拂拒證書ヲ作リ

二六	二一三	三三	六〇
二九	五	三一	三
二九	七五	三一	七七

タル日ノ翌日書面ヲ以テ其請求及ヒ拒證書作成ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス又拒證書作成ノ義務免除ノ場合ニ於テハ拒證書ヲ作ルヘキ日ノ翌日書面ヲ以テ償還請求ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス　三一　四　七三

（反對）

手形ノ償還請求ノ通知ハ拒證書作成通知後何時ニテモ爲スコトヲ得　二九　五　七五

○手形上ノ償還請求ハ所持人ニ在テハ拒證書ヲ作リタル日ノ翌日裏書讓渡人ニ在テハ通知書ヲ受取リタル日ノ翌日其請求及ヒ支拂拒證書作成ノ通知ヲ爲スニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス　三一　一〇　四四

○舊商法第七百八十一條ニ於ケル償還請求通知ノ日カ一般ノ休日ニ當ルモ必ス其日ニ於テ之カ通知ヲ爲ササルヘカラス　三四　六　五　三三　六　二七

（第七百八十三條）

『第七百八十三條』

○凡ソ手形ハ例外ノ場合ヲ除クノ外ハ縱令契約者間ノ目的如何又ハ權義ノ起因如何ニ拘ハラス專ラ手形面ニ記載セラレタル文詞ニ依リテ直接ニ其效力ヲ生セシムヘキモノトス從テ償還請求ノ通知モ亦手形上ニ記載セラレタル裏書讓受人タル所持人ニ於テ舊商法第七百八十三條ノ規定ニ基キ之ヲ爲スニ非サレハ其效力ヲ有セサルモノトス

○舊商法ニ於ケル拒證書作成義務ノ免除ハ其作成ニ直接ノ關係ヲ有スル義務ノミヲ免除スルニ過キスシテ之ニ關係ヲ有セサル他ノ手續上ノ義務ヲモ免除スルモノニ非ス　三四　一〇　一

（第七百八十六條）

○拒證書作成ノ義務ヲ免除シタル者ノ後者カ免除者ニ對シ償還請求ヲ爲スニハ拒證書ヲ作成スヘキ業日ノ次日ニ償還請求ノ通知ヲ爲ササルヘカラス　三四　一〇　一

『第七百八十六條』

○舊商法第七百八十六條ニ依リ償還ヲ請求シ得ヘキ利息金ハ付遲滯ノ手續ヲ要セス滿期ノ翌日ヨリ起算シタル年百分ノ十ノ利息ヲ請求シ得ヘキモノトス　三三　七　二一

第二節　約束手形

○約束手形ノ裏書カ無效タルトキハ其讓渡ノ效ナキニ止マリ其手形ハ依然效力ヲ保有シ未タ裏書ヲ爲ササル原狀ニ復スヘキモノトス　二九　四　一七

○約束手形ハ其裏書讓渡ノ方式ニ違背シタルカ爲メ手形タルノ效力ヲ失ハス　二九　四　一七

（刑）○約束手形ノ義務ノ原因ハ必スシモ賣買代金ニ限ラレタルモノニ非ス　三一　三　六二

○約束手形ノ所持人カ其滿期日ニ當リ振出人ニ對シ支拂ノ猶豫即チ恩惠期日ヲ承諾スルハ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スルモノニ非サルニ依

リ其支拂猶豫ノ契約ハ當事者間有效ナリ　三一　四　七三

○手形所持人ト振出人ノ間ノ支拂猶豫ノ契約ハ其當事者間ニ於ケル手形上ノ權義關係ヲ變シテ民事上ノ權義關係タラシムル效果ヲ生ス　三一　四　七三

(刑)○約束手形ハ無形人ト雖モ其名ヲ以テ之ヲ振出スコトヲ得　三二　三　三五

(刑)○賭博ニ原因スル約束手形ハ其情ヲ知ル者ニ對シテハ約束手形タルノ效力ナシ　三二　三　九〇

(參照)

約束手形振出人ト直接ニ之ヲ受ケタル者トノ間ニ於テハ「合法ノ原因ハ當然勞面ニ包含スルモノナリ」ト云フ手形上ノ原則ハ之ヲ適用スルコトヲ要セス債權成立ノ原因ニ依テ權利義務ヲ定ムヘシ

現金ヲ以テ授受スヘキ賣買代價ノ一部ニ對シ授受シタル約束手形ノ支拂期日カ物品授受ノ期日以前ニ係リ受取人之ヲ他ヘ流通セサル場合ニ在テハ法理上一概ニ現金ヲ授受セシト同視スルヲ得サルモノトス　二四　一　一〇八

(第八百十一條)

『第八百十一條』

○數人同一ノ約束手形ヲ振出スモ其振出シタル手形ハ一行爲ヲ爲スニ過キスシテ各振出人ニ於テ各別箇ノ手形ヲ作成シタルモノト看做スヘキニ非ス唯其手形ニ依リ各自獨立ノ債務ヲ負擔スルノミ故ニ其手形ノ記載要件ニ欠缺アル場合ニ於テハ總振出人ニ對シ要件欠缺アルモノト謂ハサルヲ得ス　二五　五　九三

○手形ニ其振出ノ場所ヲ記載セサルトキハ手形トシテ效力ナシ　三四　一〇　一二九

○手形振出ノ場所ハ其町村番地等詳細ニ明示スルヲ要セス其何レノ場所ニ於テ振出シタルヤヲ知リ得レハ充分ナリトス　二九　一一　一六

○舊商法第八百十一條第一ニ所謂振出ノ場所トハ市町村等一定ノ區域ヲ指稱スルモノナルカ故ニ其手形カ何レノ市町村等ニ於テ振出サレタルモノナルヤ一定シ居レハ足レルモノニシテ大字等ノ如キハ敢テ之ヲ記載スルノ要ナシ　三四　三　三〇

(同主旨)

舊商法第八百十一條ニ所謂振出ノ場所トハ市町村等一定ノ區域ノ謂ニシテ市町村内ノ區町字等ノ謂ニ非ス故ニ單ニ東京市内ノ區名ヲ記シタル手形ハ振出ノ場所ヲ記載セサル手形ニシテ無效ナリ　三四　一　一三

○約束手形ノ振出地ハ法律上一定シタル地域ニシテ事實上ノ問題ニ非ス　三四　九　一三四

○無記名式ノ約束手形ニシテ所持人ニ支拂フヘキ旨ノ記載ナキハ適式ノ手形ニ非ス　三四　一　五四

○舊商法第八百十一條第五號ノ所謂振出人ノ署名トハ振出人ノ氏名又ハ商號ヲ書スルヲ謂ヒシモノト解釋スルヲ相當トス　三三　五　二七

（第八百十五條）

『第八百十五條』

○約束手形ノ所持人ハ其振出人ニ對シテハ時效ノ經過セサル間ハ何時ニテモ其支拂ヲ求ムルコトヲ得ヘシ　三一　一〇　四四

○約束手形支拂滿期日ニ於テ拒證書ノ作成及ヒ償還請求ノ通知ヲ發シタル以上ハ爾後該手形ノ所持人ニ於テ振出人ニ對シ一時支拂ノ猶豫ヲ與フルモ之ヲ以テ手形上ノ權利義務ノ關係ヲシテ民事上ノ權利義務ノ關係ニ變更シタルモノト謂フヲ得ス　三二　一一　二六

○手形權利者カ裏書人ニ對シ既ニ適法ニ償還請求權ヲ得タル上ハ其後ニ至リ縱令振出人ニ對シ支拂猶豫ヲ與フルコトアリトスルモ之カ爲メ振出人ニ對シテハ格別裏書人ニ對シテ其既ニ得タル償還請求權ヲ失フヘキモノニ非ス　三三　七　二一

○民法第四百二十三條舊商法第七百六十五條同第四百條及ヒ民法第四百七十條ハ約束手形ノ讓受人カ讓渡人ヲ强迫シ裏書讓渡ヲ爲サシメタルヲ原因トシテ而モ其手形ノ振出人ヨリ讓渡人ト讓受人トニ對シ讓受渡ノ取消ヲ求ムル場合ニ適用スヘキ法條ニ非ス　三三　七　二六

第三節　小切手

（刑）○小切手ハ裏書又ハ無記名式ヲ以テ賣買若クハ交換スヘキ約定證券ナリ　二八　五　二四

（第八百十七條）

『第八百十七條』

○舊商法第八百十七條ニ記載要件トシテ掲ケタル署名トハ單ニ記名スヘシトノ意義ニ非スシテ自署ノ意義ナルコトハ從來同文詞ヲ使用シタル慣例ニ徵シ明白ナリ　三五　七　六三

第二編　海商

第二章　船舶所有者

第二節　船舶所有者ノ權利及ヒ義務

（參照）積荷ノ喪失ニ付キ荷主ニ對スル賠償責任如何ノ問題ニ於テ明治二十五年法律第五號ヲ適用セントノ論擬ハ其當ヲ得サルモノトス　二八　一三三

（第八百四十二條）

『第八百四十二條』

（參照）船舶所有主ハ他ニ法律ノ規定ナキ限ハ船長ノ行爲ニ付キテハ代理法ニ基キ其責任ヲ負擔セサルヘカラス　二六　二　一五一

自己ノ過失ニ對スル責任ハ契約ヲ以テ免ルルコト能ハサルモノトス故ニ船舶所有主カ船長即チ代理人ニ過失アルコトヲ認メ乍ラ他ノ契約ニ依リテ其責任ヲ免ルルコトヲ得ス　二六　二　一五一

船長ノ試驗規則ハ船長ノ行爲ニ付キ船主ノ責任有無ヲ論スル場合ニ援引スルコトヲ得ス　二九　一〇　二三

船主ハ船長ノ職務施行上生シタル過失ニ付キ第三者ニ對シ其責任ヲ負フモノトス

第三章　船舶債權者

（第八百五十八條）

『第八百五十八條』

○船舶沈沒ノ場合ニ於テ船舶所有者ノ責任ハ船舶ノミナラス其保險金ニ及フヘキコトハ舊商法施行前ニ於テモ是認シタル法理ナリ

（參照）船舶沈沒ノ爲メ生シタル損害ニ對シ船主ニ於テ其船舶限リ賠償ノ責任ヲ負フヘキコトハ顯著ナル慣例ナリ

第四章　船長及ヒ海員

第一節　船長

（第八百六十三條）

『第八百六十三條』

（參照）無期限ニテ雇傭契約ヲ締結シタル以上ハ縱令船舶カ航海不能ト爲リ雇人タル船長其職務ヲ行フコト能ハサルモ契約ニ基ク權利義務ハ直ニ消滅スルモノニ非ス

（參照）船長カ船主ノ委任ヲ受ケスシテ船主代理ノ名義ヲ用ヒ第三者ヲシテ船中ノ需用品ヲ供給セシムルノ契約ヲ爲シタルハ本件ノ場合ニ於テハ越權ニ屬ス

二九	一〇	三三	
三四	五	三一	
二九	一〇	二三	
二八		四一五	
二八		一六〇	

（第九百二條）

『第九百二條』

（參照）船荷證書ハ裏書ニ依リ自由ニ轉轉シ得ヘキ流通ノ性質ヲ有スルモノナレハ證書所持人ハ何時ニテモ其貨物ノ引渡ヲ求ムル權利ヲ有ス

船主カ船荷證書ト引換ニ渡スヘキコトヲ約シタル貨物ヲ其約ニ背キ他ニ交付シタルトキハ荷主ハ船荷證書ノ所持人ニ對シ未タ貨物ノ引渡ヲ爲ササル地位ニ在ルヲ以テ之カ責任ヲ免ルルヲ得ス從テ其貨物ノ換價格ハ荷主ノ損害ト爲リタルモノト看做スヘキモノトス

第四節　旅客運送

（參照）汽船ノ乘客カ汽船仲次營業者ノ報知ニ依リ發航日時ヲ信用スルハ普通ノコトナレハ之カ爲メ懈怠ノ責ヲ生セス

第六章　海損

（參照）原裁判カ海損ノ慣例ヲ認メテ船主ノ責任無限ナラサルコトヲ判定シタルハ本院カ曩キニ與ヘタル判決「責任ノ有限ナルコトハ條理上當然ナルモノニ非ス」ヲ蹂躪シタリト云フヲ得ス

三〇	三	一六八	
三〇	二	三九	
二八		一三三	

第八章　保險

第二節　保險者及ヒ被保險者ノ權利義務

○船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ其保險金ハ乘客若クハ荷主ニ對スル損害ノ賠償ニ充テシムヘキモノトス　三一　六　一〇四

『第九百五十九條』（第九百五十九條）

○海上保險者ハ特約ヲ取結フニ非サレハ航海ニ關スル不測ノ事故ニ因リテ生スル一切ノ損害ヲ塡補スルノ責任ヲ負擔スヘキモノトス　三一　一一　二五

○被保險物ノ性質瑕疵若クハ荷造ノ不完全ヨリ生シタル損害ノ如キハ航海ニ關スル不測ノ事故ヨリ生シタル損害ニ非サルヲ以テ海上保險者ノ負擔ニ屬スヘキモノニ非ス　三一　一一　二五

第三編　破産

第一章　破産宣告

○民事訴訟法第四百五十五條ノ規定ハ商法破産ニ關スル訴訟手續ニ準用スヘカラス　二八　三　一二

○破産事件ニ付テハ商法及ヒ商法施行條例ニ特ニ民事訴訟法ノ規定ニ依ルヘキ旨ノ明文アルモノノ外同法ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス　三二　八　一六

○破産ノ宣告ハ其宣告後ニ在リテ最初破産ノ申立ヲ爲シタル債權者カ其申立ノ取下ヲ爲シタリトモ他ノ債權者ニ對シテ影響ヲ生スルモノニ非ス　三四　二　一〇六

○破産裁判所ニ於テ破産事件ノ口頭辯論中ニ言渡シタル證據決定ニ對シテハ抗告スルヲ得ス　三四　一一　九〇

○破産事件ノ抗告裁判所ハ當事者カ特ニ證據トシテ提出シ又ハ援用スルト否トニ關セス破産事件ニ正當ニ添附シアル記錄ヲ參照シテ裁判ヲ爲スコトヲ得ルモノトス　三五　一　三二

○破産ハ各債權ノ額ニ應シ債務者ノ總財産ヲ以テ其總債權者ニ平等分配ヲ得セシムル爲メノ裁判上ノ手續ニシテ其性質一ノ强制執行方法ニ過キサルモノトス　三五　六　八五

○破産ノ目的ハ債務者ヲシテ正實ナル辨濟ヲ爲サシメ且債權者ヲシテ平等分配ヲ得セシムルニ在リテ債務者ノ能力ヲ制限スルニ在ラス　三五　六　八五

○破産宣告ハ宣告裁判所所屬國ノ裁判カ執行力ヲ有スル地域内ニ限リ效力ヲ有スヘキモノニシテ而シテ裁判ハ特別ノ法令若クハ國際條約アルニ非サル以上ハ領域内ニ限リ執行力ヲ有スルモノナルヲ以テ甲國ニ於

テ宣告シタル破産ハ乙國ニ於テ其效力ヲ有スルモノニ非ス　三五　六　八五

○破産裁判所カ書證ニ付キ當事者ノ認否ヲ聽カスシテ之ヲ證料ニ供スルハ違法ニ非ス　三九　一五九三

○破産ノ手續ニハ清算ノ目的モ亦包含スルヲ以テ株式會社カ破産シタル場合ニ於テハ商法第二百三十四條ニ依リ同第九十二條ノ規定ヲ準用シ得ルモノトス　三九　一六六九

（同主旨）

會社ノ破産手續ハ他ノ場合ニ於ケル清算ト多少ノ差異アルモ其實質ハ清算ニ外ナラス從テ株金拂込ニ關スル手續ノ如キ破産法ノ規定セサル事項ニ付テハ商法第二百三十四條ニ依リ同第九十二條ヲ適用スヘキモノトス

○破産宣告アリタル後ニ至リ破産ノ申立ヲ取下クルモ其既ニ爲シタル破産宣告ハ當然消滅スヘキモノニ非ス　三九　一〇一〇　四一　二六

（同主旨）

破産宣告ノアリタル後ニ至リ破産宣告申立ノ取下ヲ爲シタリトテ其既ニ爲シタル破産宣告ヲ取消スヘキモノニ非ス

○破産手續ハ強制執行ノ範圍ニ屬スルヲ以テ其性質ヨリ之ヲ言フモ非訟事件手續法ノ規定ヲ適用シ若クハ之ヲ準用スルコトヲ得サルモノトス　三三　四　七六　四一　二三六

（第九百七十八條）

『第九百七十八條』

○支拂停止ハ破産決定ニ依リ確定シタル事實ナリ　三二　九　五二

○手形ハ單ニ滿期日ニ支拂ヲ拒絶シタルノミヲ以テ支拂停止ト看做スヘキモノニ非ス　三二　一一　一三〇

○破産決定ノ申請ニ對シ債務者ハ債權者ニ對シテ有スル債權ト相殺センコトヲ求メタルカ爲メ支拂ヲ爲ササリシモノニシテ支拂ヲ停止シタルモノニ非ストノ抗辯ヲ提出スルコトヲ得　三二　一一　一三〇

○支拂停止トハ支拂ヲ停ムルノ意義ニシテ單ニ期日ニ支拂ヲ爲ササリシ事實ノミニテハ未タ以テ支拂ヲ停止シタリト爲スヲ得ス　三三　一一　四八

（刑）

○商法第九百七十八條ノ債權者ニハ總テノ債權者ヲ包含ス從テ債務者ニシテ支拂ヲ停止シタル事實アルニ於テハ之カ債權者タル以上ハ支拂ヲ求メタル者ナルト否トヲ問ハス破産ノ宣告ヲ申請スルコトヲ得　三四　二　三〇

○破産裁判所ハ單ニ債務者カ支拂ヲ停止シタルヤ否ヲ判斷シ得ルニ止マリ債權ノ有無及ヒ其成立原因等ヲ審判スルノ職權ヲ有セス　三四　七　六二

（同主旨）

破産宣告ニ關スル事件ハ其性質非訟事件ナルカ故ニ破産裁判所ハ債務者カ支拂ヲ停止シタルヤ否ヤヲ審理スルニ止マリ其申請ノ基本タル債權ノ存否ヲ判斷スヘキモノニ非ス　三四　四　三六

○支拂停止ノ有無ニ付キ裁判ヲ爲ス手續ニ於テ生シタル債權存否ノ爭ニ

關スル破産裁判所ノ判斷ハ破産宣告ノ申立ノ目的ニ對スルモノニ非サルヲ以テ確定スヘキモノニ非ス　三五　五　八四

○支拂停止ナルモノハ債務者ノ無資力ナルト否トヲ問ハス正當ノ理由ナクシテ辨濟期ニ辨濟ヲ爲ササル事實ヲ指スモノトス　三六

○商法第九百七十八條ノ規定ハ支拂停止ト爲リタル債權ハ商行爲ニ基因スルコトヲ要スルノミナラス其債務者ハ支拂停止ノ時ニ於テ商人タル事實アルニ非サレハ之ヲ適用スルヲ得ス　三六　九六〇

（刑）（反對）商人ニシテ支拂ヲ停止シタルトキハ破産ノ宣告ヲ受クヘキモノトス而シテ其商行爲ナルト否トハ之ヲ問ハサルモノトス

○破産ノ宣告ハ債務者カ支拂ノ停止ヲ爲シ其停止ノ狀況存續スル場合ニ限リ之ヲ爲スヘキモノトス故ニ支拂ヲ停止シタル債務カ更改ニ因リ新債務ニ變更セラレタルカ若クハ其債務ノ辨濟ニ付キ債務者ニ於テ更ニ期限ノ利益ヲ取得シタルカ如キ場合ニ在テハ破産ノ宣告ヲ爲スヘキモノニ非ス　三三　九　五二

○破産宣告申立事件ニ於テ債務ノ存在ニ付キ爭ヲ生シタルトキハ破産裁判所ハ債務者ノ抗辯ノ當否ヲ審査シ之ヲ取捨スルノ權限ヲ有ス　三七　一二八七

（同主旨）破産宣告ノ申立ニ付キ裁判ヲ爲スヘキ裁判所ハ法律ノ規定上其裁判ヲ爲スニ必要ナル債權ノ存否ニ關スル申立ノ當否ヲモ調査シ其判斷ヲ爲ス權限ヲ有スルモノトス　三五　五　八四

○債務者カ辨濟ノ請求ヲ受クルニ當リ其債權ノ存否若クハ多寡ヲ爭フ等法律上ノ理由ニ依リ支拂ヲ拒絶スルモ之ヲ以テ直ニ支拂ヲ停止シタルモノト云フヲ得サルモ何等正當ノ理由ナク唯資金缺乏ノ故ヲ以テ其辨濟ヲ拒絶シタルカ如キ場合ニハ支拂停止ノ事實アリタルモノト看做ササルヘカラス　三七　一四八七

○破産ノ主タル目的ハ破産者ノ總債權者ヲシテ其財産ニ因リ公平ナル辨濟ヲ得セシメントスルニ在リテ其性質タル一ノ强制執行ニ過キサレハ破産ノ宣告ハ破産者ノ死亡ニ因リテ消滅スルコトナク又支拂停止ヲ爲シタル商人ノ死亡ハ其承繼人ニ對シテ破産宣告ヲ爲スノ妨害ト爲ルヘキモノニ非ス　三八　二六八

○支拂ノ停止ハ債務者カ辨濟ヲ爲スヘキ場合ニ於テ債權者ノ請求アルニモ拘ハラス辨濟ヲ爲ササルカ又ハ其請求ヲ避クル爲メ所在ヲ晦マシ其他自ラ支拂停止ノ意思ヲ表白シタルカ如キ行爲アルトキニ存スルモノ

トス

（同主旨）

支拂ノ停止ハ債務者カ現ニ債務辨濟ノ請求ヲ受ケタルモ之ニ應セサルカ若クハ辨濟期後ニ至リ債權者ノ請求ニ對シ其支拂ヲ避クル爲メ居所ヲ晦マスカ如キ行爲アルトキニ存スルモノトス從テ債務ノ辨濟期前債務者カ他ノ債權者ニ對スル債務完濟ノ資力ヲ有セサルモ之ヲ以テ直ニ支拂ヲ停止シタルモノト爲スヲ得ス

○合資會社ノ社員ハ當然商人ノ資格ヲ有スルモノニ非サレハ縱令支拂停止ノ事實アルモ直ニ破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ得ス　三八　一四七

○支拂停止トハ債務者カ債務ヲ履行スヘキ場合ニ於テ資力缺乏ノ爲メ其履行ヲ爲ササルノ謂ナレハ縱令事實上資力缺乏ヲ告クルモ未タ履行ヲ要セサル場合ニ履行ヲ爲ササレハトテ直ニ支拂停止ノ狀態ニ在リト云フヲ得ス　三八　九六八　三九　一〇〇三

○石炭ノ採掘販賣ヲ目的トスル株式會社ニシテ支拂ヲ停止シタルトキハ縱令商人ニ非サルモ商法施行法第百三十八條明治二十三年法律第三十二號商法第九百七十八條ニ依リ破産ヲ宣告セラルヘキモノトス　三八　五三六

○破産ノ宣告ハ商人カ正當ノ理由ナク支拂ヲ停止シタルトキハ本人又ハ債權者ノ申立ニ因リ之ヲ爲スヘキモノニシテ債務者ノ資力ノ有無ハ問フヘキモノニ非ス　四三　八四三

○商法第九百七十八條第二項末段ノ規定ハ破産ノ宣告ナルト申立ノ却下ナルトヲ問ハス汎ク破産宣告ノ申立ニ關スル裁判ニ對シテ即時抗告ヲ許スノ法意ナリ　四四　七七八

（同主旨）

商法第九百七十八條第二項ニ所謂此裁判中ニハ破産宣告ノ申立ヲ却下シタル裁判ナルト破産ヲ宣告シタル裁判ナルトヲ問ハス總テ之ヲ包含スルモノトス　三三　四　五二

（反　對）

破産宣告ノ申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ抗告ヲ許スノ規定ナシ　三三　三　一三〇

○商法ニハ破産ノ決定ニ付テハ抗告ヲ爲スヲ得ヘキ規定アルモ其辯論中止ノ申請ヲ却下シタル裁判ニ付テハ商法及ヒ商法施行條例中抗告ヲ許ス規定アルコトナシ　三三　九　一二

○商法第九百七十八條ハ破産宣告ニ關スル裁判ニ對シテハ口頭辯論ヲ經タルト否トニ拘ハラス即時抗告ヲ爲シ得ヘキコトヲ規定シタルモノニシテ同條第二項ノ規定ハ單ニ口頭辯論ヲ經スシテ爲シタル裁判ニ限リ該抗告ヲ爲スコトヲ許シタルモノニ非ス　三四　一　八四

○破産裁判所ハ一旦口頭辯論ヲ開ク爲メニ其期日ヲ定ムルモ後日之カ必　三六　九一八

要ヲ認メサルニ至ルトキハ口頭辯論ヲ開カスシテ裁判ヲ爲スコトヲ妨ケス　三六　九九八

○明治二十三年法律第三十二號商法第九百七十八條第二項ノ口頭辯論ハ民事訴訟法ニ謂フ所ト同一意義ニシテ即チ公開スヘキ對審ノ辯論ヲ指稱スルモノトス　三七　一三五三

○破産宣告ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スノ權利ハ財産ニ關スル一種ノ權利ニシテ相續人ニ移轉スヘキモノナレハ抗告申立人カ其申立後ニ死亡セシ事實アル以上ハ其相續人ヲシテ該事件ノ手續ヲ受繼セシムルカ又若シ相續人カ受繼ヲ怠ルトキハ其受繼ヲ爲シタルモノト認メタル後ニ非サレハ事件ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ得ス　三八　二六八

○破産決定ニ關シテハ特ニ民事訴訟法第二百四十五條第一項ヲ準用スヘキ旨ノ規定ナキヲ以テ破産裁判所ハ口頭辯論ヲ經タル場合ト雖モ必スシモ其決定ヲ言渡スコトヲ要セス　三八　一六八二

（同手旨）

破産申請ニ因リ決定ヲ爲ス場合ニ於テハ別ニ民事訴訟法第二百四十五條第一項ノ如キ規定アルニ非ス又該法條ヲ準用スル旨ノ規定アルニモ非サレハ裁判所ハ口頭辯論ヲ經タル場合ト雖モ其決定ヲ言渡サスシテ之ヲ送達スルコトヲ妨ケス　三七　一三五三

○明治二十三年法律第三十二號商法第九百七十八條ノ規定ニ依リ破産裁判所ノ決定ニ對シテ抗告スルコトヲ得ヘキ者ハ破産申立人及ヒ破産者ニ限ルモノトス　四一　一二三六

（參照）

商法第九百七十八條第一項ハ破産者トシテ宣告セラレタル債務者カ其決定ニ對シ抗告シ得ル規定ニシテ債權者カ申請ヲ却下セラレタル場合ニ適用スヘキモノニ非ス〔同一判例二八年五四二頁〕　二八　三　一一三

商法第九百七十八條ハ債務者カ破産者トシテ宣告セラレタルトキ其決定ニ對シ抗告ヲ爲スヲ得ルノ規定ニシテ債權者カ破産宣告ノ申請ヲ却下セラレタル場合ニ適用スヘキモノニ非ス〔同一判例二九年一〇卷一五七頁〕　三〇　五　四八

支拂停止ノ事實アル以上ハ其支拂ヲ停止セラレタル債權者ト他ノ債權者ト共同シテ破産宣告ノ申請ヲ爲スヲ得ルモノトス　三一　七　一三

約束手形ニ付キ督促手續ニ依リ支拂命令ヲ發シタル場合ニ於テハ其命令ノ送達ヲ遂ケタル時ニ於テ支拂ノ請求アリタルモノト認メ而シテ右命令記載ノ期間經過後仍ホ支拂ヲ爲ササル時ニ於テ支拂ノ停止アリタルモノト認ムヘキモノナリ　三一　七　一三

破産宣告ノ申立ヲ却下シタル決定ニ對シテハ抗告ヲ許サス〔同一判例二八年四卷一〇二頁〕　三二　六　五一

商取引ヨリ生シタル債權ト雖モ民事上ノ請求トシテ訴ヲ提起シ其結果强制執行ヲ爲スニ當リ債務者カ辨濟ヲ爲スコト能ハサルカ如キハ商ヲ爲スニ當リテ支拂ヲ停止シタルモノト云フヲ得ス　三二　七　一三

（第九百七十九條）（刑）

○支拂停止ノ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ者ハ支拂ヲ停止シタル商人ニ限ルモノトス

○會社ノ爲スヘキ支拂停止ノ届出ハ其主タル營業所所在地ノ裁判所ニ爲スコトヲ要ス故ニ會社破産事件ノ管轄裁判所ハ其主タル營業所所在地ノ裁判所ナリトス

○商法第九百七十九條ニハ單ニ營業所又ハ住所トアルノミニシテ破産事件ヲ支拂停止地ノ裁判所ニ專屬セシムル旨趣ノ見ルヘキモノナケレハ該事件ハ債務者ノ營業所又ハ住所所在地ノ裁判所ニ於テ之ヲ管轄スヘキモノトス

（第九百八十條）

『第九百八十條』

○破産裁判所カ一タヒ破産ノ申立ヲ受ケタル以上ハ其事實ヲ調査シ職權ヲ以テ支拂停止ノ日時其他商法第九百八十條ニ列記シタル事項ヲ決定スヘキモノニシテ此等ノ事項ヲ判定スルニ付キ毫モ當事者ノ申立ニ羈束セラルヘキモノニ非ス而シテ其破産決定ニ對シ抗告ノ申立アリタル場合ニ抗告裁判所モ亦同一ノ職權ヲ有スヘキハ當然ナリ

○支拂停止ノ日時ハ必スシモ破産宣告ノ當時之ヲ定ムルヲ要セス其宣告ノ後ニ至リ更ニ決定ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得而シテ此決定ハ必スシモ破産宣告ニ對スル抗告ノ裁判前ニ之ヲ爲ササルヘカラサルモノニ非ス

○破産決定又ハ後日ノ決定ヲ以テ定メタル支拂停止ノ日時ハ其決定確定スルト同時ニ對世的ノ效力ヲ有スヘキモノトス

○破産宣告後ニ爲シタル封印命令ハ破産決定書ノ補充事項トシテ其內容ノ一部ヲ成スヘキモノナレハ該命令ヲ破産決定書ニ揭ケタル場合ト同シク之ニ對シテ抗告ヲ爲シ得ルモノトス

第一一章　破産ノ效力

○破産者ハ自己又ハ他人ノ訴訟ニ關シ裁判所ノ喚問ニ應シテ供述ヲ爲スコトヲ得而シテ裁判所ハ破産管財人カ訴訟ヲ爲ス場合ト雖モ破産者ヲ訊問スルコトヲ妨ケス

（第九百八十五條）

『第九百八十五條』

○破産宣告ノ後破産者ノ爲シタル賣買契約ハ縱令宣告當時ノ破産財團ニ屬スルモノヲ以テ其目的ト爲ササルモ該財團ニ何等ノ影響ヲ及ホサスト謂フヲ得ス

○約束手形ノ振出人カ破産宣告ヲ受ケタルトキハ其手形ニ關シ破産財團ニ影響ヲ及ホスヘキ法律行爲ヲ爲シ得サルハ勿論ナレトモ其財團ニ何等ノ影響ヲ及ホサル法律行爲ハ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ隨テ手形所持人カ償還請求權ヲ保存スルニ必要ナル手形ノ呈示ハ破産者タル振出人ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノトス　三七　三〇九

○明治二十三年法律第三十二號商法第九百八十五條第二項ノ規定ハ破産財團ニ何等ノ影響ヲ及ホサル法律行爲ヲ無效トシタルニ過キスシテ總テノ權利行爲ヲ絶對ニ無效トスルモノニ非ス　四三　二四八

（同主旨）

破産法第九百八十五條第二項ノ規定ハ破産財團ニ影響ヲ及ホスヘキ法律行爲ヲ無效ト爲シタルモノニシテ身分權ニ關スル行爲ノ如ク右財團ニ何等ノ影響ヲ及ホサルモノヲモ無效ト爲スモノニ非ス

○破産者カ破産宣告後ニ取得セシ財産ヲ以テ爲シタル支拂其他ノ法律行爲ハ商法第九百八十五條第二項ニ依リ無效タルヲ免レス　三六　一〇八五

○約束手形ノ振出人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル後ト雖モ其以前ヨリ存スル手形債權ハ裏書讓渡スルコトヲ禁スルモノニ非サルヲ以テ宣告後ノ裏書讓渡ハ破産財團ニ對シテ當然其效ヲ有セサルモノニ非ス　四三　二七三　四五　五三〇

（第九百八十八條）

『第九百八十八條』

○明治二十三年法律第三十二號商法第九百八十八條第二項ハ現行商法第四百八十條及ヒ第五百二十九條ニ於テ全ク之ト異ナル規定ヲ爲シタルヲ以テ現行商法ノ施行ニ依リ自ラ廢止ニ歸シタルモノト解スルヲ相當トス　四五　五三〇

（反對）

約束手形ノ振出人カ破産宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ手形所持人ハ破産宣告ノ日ヲ以テ滿期日ト爲シ支拂ノ爲メ手形ヲ呈示スルノ權利ヲ取得スルモ之カ爲メニ手形面ノ滿期日ニ至リ其請求ヲ爲スノ權利ヲ失フモノニ非ス

（第九百八十九條）

『第九百八十九條』

○抵當權質權其他ノ優先權ヲ以テ擔保セラレタル破産債權ハ其擔保物ノ賣拂代金ヲ以テ破産宣告ニ至ル迄ノ元利金ヲ辨濟シ尚ホ餘剩アルトキハ其餘剩金ニ滿ツル迄ヲ限度トシ破産宣告ノ後ト雖モ利息ヲ生スルモノトス而シテ民法第四百九十一條ノ債務充當ニ關スル規定ハ此場合ニ適用スヘキモノニ非ス　三七　三〇九

○商法第九百八十九條ノ規定ハ各普通債權者間ノ關係ニ於テ不平等ナル利息ノ配當ヲ受ケシメサル爲メ破産財團ニ對シ破産宣告ノ日ヨリ各普　三八　六一八

通債權ノ利息ヲ生セサラシムル旨趣ニ過キスシテ各債權者ト破産者トノ關係ニ於テモ亦破産者ヲシテ破産宣告以後ニ生スヘキ利息支拂ノ義務ヲ免レシムル法意ニ非ス

○明治二十三年法律第三十二號商法第九百八十九條ノ規定ハ破産宣告後ノ利息ハ破産財團ニ對シ之ヲ請求スルコトヲ得サルノ旨趣ニ過キスシテ債務者ニ如上ノ利息ヲ支拂フ義務アルヤ否ヤノ問題ト何等ノ關係ナケレハ債務者ハ破産宣告後ノ利息ト雖モ之ヲ支拂フヘキ義務ヲ負フモノトス

（第九百九十條）

『第九百九十條』

○舊商法第九百九十條ニ所謂從來負擔シタル債務トアル中ニハ民法第五百八十八條ノ如キ法律ノ擬制ヲ以テ消費貸借ト看做スヘキモノト雖モ事實從來負擔セル債務ナル以上ハ總テ之ニ包含スルモノトス

○舊商法第九百九十條ノ規定ハ破産ノ場合ニ於ケル特別ノ制裁ニシテ支拂停止後又ハ支拂停止前三十日以内ニ爲シタル行爲ハ受益者カ他ノ債權者ヲ害スル事實ヲ知ルト否トヲ論セス法律上總テ之ヲ知レルモノト看做シ當然無效タルヘキモノト爲シタルナリ

○明治二十三年法律第三十二號商法第九百九十條ニ該當スル場合ニハ辨濟ノ當時債務カ未タ期限ニ至ラサリシ一事ヲ以テ當然其辨濟ヲ無效ト爲スニ足ルモノトス而シテ其辨濟期カ支拂停止以前ニ在ルト否トハ之ヲ問フノ要ナシ

○商法第九百九十條ニハ期限ニ至ラサル債務ノ支拂トアルカ故ニ期限ニ至リタル債務ノ支拂ハ其期限ノ豫定セラレタルモノナルト將タ特約ニ基キ或事由ノ發生ニ因リテ臨時到來スヘキモノナルトヲ論セス同條ノ適用ヲ受クルコトナシ

（第九百九十一條）

『第九百九十一條』

○明治二十三年法律第三十二號商法第九百九十一條ハ破産ノ場合ニ於テ總債權者ヲシテ公平ノ配當ヲ得セシムル爲メ特ニ規定セラレタルモノニシテ同條ニ於ケル債務ト破産者ニ對スル債權トヲ相殺スルコトヲ得セシムルトキハ法律ノ目的ハ全ク破却セラルルニ至ルヲ以テ此債務ハ之ヲ相殺ノ目的ト爲スコトヲ得サルモノト解釋セサルヘカラス

○破産財團ノ計算ノ爲メニ破産手續ヲ遂行スヘキ者ハ財團ノ管理者タル破産管財人ニ限ルモノトス從テ商法第九百九十一條ノ異議ハ獨リ破産管財人ノミ之ヲ主張スルコトヲ得

第三章　別除權

『第九百九十七條』（第九百九十七條）

○先取特權者カ目的物ノ對價ニ對シテ其權利ヲ行ハントスレハ其拂渡又ハ引渡前ニ於テ差押ヲ爲スヲ要スルコトハ、債務者カ目的物ヲ賣渡シタル場合ト破産管財人カ適法ノ手續ニ依リテ、換價ヲ爲シタル場合トニ因リテ消長スルノ理アルヘカラス

第五章　財團ノ管理及ヒ換價

『第千十九條』（第千十九條）

○破産管財人ハ其任務ノ一トシテ破産財團ニ對スル總債權者ニ共通ナル利益ニ付テ之ヲ代表スルコトアルニ過キスシテ各個債權者ノ特殊ナル利益ニ付テ代表スルモノニ非ス

○破産シタル株式會社ノ破産管財人ハ會社ノ爲メ可動的タルト受動的タルトヲ問ハス總テノ法律行爲ヲ爲スヘキ權限アルヲ以テ苟モ管財人カ詐害行爲ノ事實ヲ知得セル以上ハ會社ノ爲メニ之ヲ知得シタリト認ムヘキハ當然ナリ

三五	七	九	八一六
三五	七	九	四〇

○破産者ノ意見ヲ聽クコトハ破産管財人ノ訴訟提起ノ要件ニ非サルヲ以テ管財人カ破産者ノ意見ヲ聽カスシテ提起シタル訴訟ハ不適法ニ非ス

○破産管財人ニシテ既ニ一タヒ訴訟ヲ爲スニ付キ主任官ノ認可ヲ受ケタル以上ハ第一審ニ於テ訴訟ヲ爲シ得ルハ勿論控訴及ヒ上告審ニ於テモ亦訴訟ヲ爲シ得ルモノトス

（同主旨）

商法第千十九條第二項ニ「管財人ハ左ニ掲クル行爲ニ付テハ破産主任官ノ認可ヲ受クヘシ第一訴訟ヲ爲スコト」ト記載アルノミニ付キ管財人カ最初訴ヲ提起スルニ當リ破産主任官ノ認可ヲ受クルヲ以テ足リ上訴ヲ爲シ又ハ其相手人ト爲ル場合ニハ再ヒ其認可ヲ求ムルノ必要ナキモノトス

○破産管財人ハ公ノ機關トシテ破産財團ニ屬スル破産者ノ貸方ヲ取立テ破産者ノ權利ヲ主張シ且之ヲ保全スヘキ權能及ヒ責任ヲ有ス從テ管財人自ラ當事者トシテ訴訟ヲ爲スヘキハ當然ナリ

○商法第千十九條第二項第八號ニ所謂權利トハ財産ニ關スル權利ヲ指稱シ訴訟行爲ニ關スル責問權ノ如キハ之ニ包含セス

『第千二十二條』（第千二十二條）

（刑）

○破産主任官ハ破産ノ原由事情其他ノ事項ニ付キ破産者ハ勿論其他ノ人

三六	九	三三	一四五二
三八			八三六
三九		三九	四六七
三九			三〇七

ヲ何時ニテモ訊問スルノ權ヲ有スルコトハ商法第千二十二條ニ規定スル所ナリ既ニ其權ヲ有スル以上ハ其權内ニ於テ其調書ヲ作ルヲ得ルハ論ヲ俟タス　二八

○破産主任官ハ支拂停止ノ日時ニ付キ破産者ノ債權者ヲ訊問スルコトヲ得　三九

第六章　債權者

第一節　債權ノ届出及ヒ確定

○一覽拂ノ約束手形ハ原則トシテ所持人カ支拂要求ノ呈示ヲ爲シタル日ヲ以テ滿期日ト爲スヘシト雖モ破産手續ニ於テ其手形ニ基キ債權ノ届出ヲ爲シタルトキハ届出ノ日ヲ以テ滿期日ト爲スヘキモノトス　四五

（第千二十六條）

『第千二十六條』

○破産者ニ對スル債權確定ノ請求ハ訴ノ形式ヲ以テスヘキ旨ノ規定ナケレハ申請ニ依リ之ヲ求ムルモ違法ニ非ス　三七

（第千二十七條）

『第千二十七條』

○債權調査會ニ於テ破産管財人ヨリ申立テタル異議ニ關シ破産裁判所カ其當否ヲ裁判スル如キハ商事非訟事件ニ屬ス　三二

二八	四二五	
三九	七三四	
四五	五三〇	
三七	一六三二	
三二	五三	

民事訴訟法

民事訴訟法

第一編　總則

第一章　裁判所

第一節　裁判所ノ事物ノ管轄

（第七條）

『第七條』

○事物ノ管轄ニ就テハ民事訴訟法第七條ニ於テ地方裁判所ノ管轄ナリトノ判決ニ對シテハ區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ理由ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ許サス控訴院ノ同一ナル判決ニ對シテモ亦然リ　二六　二　一六〇

○第一審ニ於テ本案ノ裁判ヲ受ケタル以上ハ其事件カ區裁判所ノ事物ノ管轄ニ屬スヘキモノナリトノ理由ヲ以テ更ニ上訴スルコトヲ許サス　三三　六　九七

○裁判所構成法第十四條ニ占有ノミニ關スル訴訟ハ區裁判所ノ管轄ナル旨ノ規定アレトモ事物ノ管轄トシテ專屬ノ規定アルニ非サレハ地方裁判所若クハ控訴院カ地方裁判所ニ該訴訟ノ管轄權アリト裁判シタル場合ニハ其裁判ニ對シテ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス　三九　四〇二

（第九條）

『第九條』

○民事訴訟法第九條第二項ノ場合ニ於テ區裁判所ノ移送ノ判決確定シタルトキハ其訴訟ハ當然所屬地方裁判所ニ繫屬スルモノニシテ更ニ訴訟ヲ提起スヘキモノニ非ス又準備書面ヲ提出スルノ要ナキモノトス

第二節　裁判所ノ土地ノ管轄（裁判籍）

（第十四條）

『第十四條』

○民事訴訟法第十四條第一項ニ所謂國トハ帝國ノ國庫ヲ指シタルモノトス從テ判決ニ國ナル名稱ヲ以テ帝國ノ國庫ヲ表示スルハ違法ニ非ス　三九　六一七

○日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社ニ付テハ民事訴訟法第十四條第二項ニ依リ該支店ノ所在地ヲ以テ普通裁判籍ト爲スヘキモノトス　三八　一七五

○會社ノ本店ニシテ日本ニ存在スル以上ハ外國會社ナルト將タ外國人カ日本ニ於テ設立シタル會社ナルトヲ問ハス其會社ニ對スル訴ハ民事訴訟法第十四條第二項ル會社ナルトヲ問ハス其會社ニ對スル訴ハ民事訴訟法第十四條第二項ノ規定ニ依リ本店所在地ノ裁判所之ヲ管轄ス　四〇　一二六四

（第十六條）

『第十六條』

○民事訴訟法第十六條ハ特別ノ裁判籍ヲ規定シタルニ止マリ猶豫期間ニ關スル規定ニハ關係ナシ　三四　九　七三

（第十八條）

『第十八條』

○契約ヲ解除シタル結果原狀ニ回復スルコトヲ請求スル訴訟ハ民事訴訟法第十八條ニ依リ解除セラレタル契約上ノ義務ヲ履行スヘキ地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得ルモノトス　三六　七七五

（同主旨）

民事訴訟法第十八條ニ所謂契約解除ノ訴トハ單ニ契約ノ解除ヲ求ムル訴ノミヲ謂フニ非スシテ契約ヲ解除シタル結果原狀ニ回復スルコトヲ求ムル訴ヲモ包含スルモノトス　三四　一一　一九

○民事訴訟法第十八條ハ被告ノ普通裁判籍カ內國ニ在ルト否トヲ問ハス又權利關係カ內國ニ於テ生シタルト否トヲ論セス同條所定ノ事項ニ付テハ其訴訟ニ係ル義務ヲ履行スヘキ地ノ裁判所ニ起訴スルコトヲ得セシムルノ法意ナリトス　四一　七八六

（第二十條）

『第二十條』

○民事訴訟法第二十條ニ所謂不正ノ損害ノ訴トハ單ニ金錢ヲ以テ賠償セシメントスル損害賠償ノ訴ノミヲ指稱スルニ非スシテ汎ク不法行爲ニ原由セル訴ヲ包含スルモノトス　三七　七二六

（第二十二條）

『第二十二條』

○官有地借地加名願書ニ調印ヲ請求スルハ行爲ノ履行ヲ求ムル人權ノ訴ニシテ民事訴訟法第二十二條ニ所謂不動產上ノ訴ニ非ス　二九　一〇　一三六

○民事訴訟法第二十二條ニ所謂不動産上ノ訴トハ不動産ノ上ニ存スル物權ニ關スル訴訟ノ謂ニシテ土地收用法ニ基キ收用セラレタル土地ノ補償金ヲ求ムル訴ノ如キハ之ヲ包含セサルモノトス

（第二十三條）

『第二十三條』

○伐採木材ノ運搬ヲ差留メ其運搬ニ因リ更ニ受クヘキ損害ヲ防止セントスル訴ハ不動産上ノ裁判籍ニ提起スヘキモノトス

○起業者カ收用ニ係ル土地ノ所有權ヲ取得シタル後被收用者ニ對シテ收用補償價格ノ減却ヲ請求スル訴ハ民事訴訟法第二十三條第二項ノ規定ニ該當セス

○民事訴訟法第二十三條第二項ニ所謂不動産ノ所有者ニ對スル人權ノ訴トハ不動産ノ所有者ヲ其資格ニ於テ被告トシ之ニ對シテ提起スル債權ノ訴ヲ指稱ス從テ收用審査會ノ補償額決定ニ不服アル者カ起業者ノ承繼人ニ對シ起業者タル資格ニ於テ自己ノ主張スル補償額ヲ承認セシメ且其辨濟ヲ求メントスル訴ノ如キハ之ニ該當セサルモノトス

（第三十條）

第四節　裁判所ノ管轄ニ付テノ合意

『第三十條』

○原告カ强制執行處分取消竝ニ物件ノ返還ヲ請求シタル場合ニ於テ其物件返還ノ請求ニ付テハ第一審裁判所之カ管轄權ヲ有セサルモ被告ヨリ管轄違ノ申立ヲ爲サスシテ本案ノ口頭辯論ヲ爲シタルトキハ受訴裁判所ハ此二箇ノ請求ヲ一箇ノ訴ニ併合シ得ルモノトス

（第三十二條）

第五節　裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避

『第三十二條』

○第一審ノ口頭辯論ニ列席シタル判事ト雖モ其判決ニ干與シタルニ非サル限ハ第二審ニ於テ其職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキモノニ非ス

○基本タル口頭辯論ニ臨席セス且前審ニ於テ其事件ニ付キ裁判長トシテ判決ヲ爲シタル判事ノ干與セル判決ハ違法ナリ

○民事訴訟法第三十二條第四號ノ規定ハ現審ニ於ケル判事カ同一事件ノ前審ニ於ケル裁判ニ干與シタル場合ニ適用セラルヘキモノニシテ單ニ基本タル口頭辯論以外ノ辯論ニ干與セシニ過キサルカ如キ場合ニ適用セラルヘキモノニ非ス

○判事カ民事訴訟法第三十二條第四號ニ依リ其職務ノ執行ヨリ除斥セラルルニハ必スヤ前審ニ於テ同一ノ訴訟事件ヲ裁判セシ場合ナルコトヲ要ス故ニ其訴訟關係ト同一ノ事實ニ付キ嘗テ豫審判事若クハ刑事裁判所ノ判事トシテ豫審決定又ハ刑事裁判ニ干與シタル事實ノ如キハ除斥

ノ原由ト爲ルモノニ非ス　三八　六九

○第一審ニ於テ係爭物件ニ關スル假處分ノ決定ニ干與シタル判事ト雖モ不服ノ申立アル裁判ニ干與セサリシ以上ハ第二審ニ於テ其職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキモノニ非ス　三八　一七三四

○民事訴訟法第三十二條第四號ニ謂フ前審ニ干與シタル判事トハ不服ヲ申立テラレタル裁判ニ干與セシ判事ヲ指稱ス從テ控訴裁判所カ抗告審トシテ其前審ノ裁判ヲ廢棄シ更ニ事件ノ裁判ヲ前審ニ委任シタル際其裁判ニ干與セル判事カ再度ノ抗告ニ對シ裁判ヲ爲シタル場合ノ如キハ同號ノ規定ニ該當セス　三九　四三

（同主旨）

民事訴訟法第三十二條第四號ニ所謂「判事カ不服ノ申立アル裁判ヲ前審又ハ云云」トアルハ不服ノ申立アル裁判ニ下級審ニ於テ干與シタルヲ云ヒ上告ニ因リ破毀セラレタル事件ノ裁判ニ他ノ同級審ニテ干與シタル場合ノ如キハ此中ニ包含セサルモノトス　三三　五　四一

民事訴訟法第三十二條第四號ニ所謂前審トハ下級審ヲ指シタルモノニシテ同一審級ハ之ヲ包含セサルモノトス　三四　一〇　一七

民事訴訟法第三十二條第四號ニ判事カ不服ノ申立アル判決ヲ前審ニ於テ爲スニ當リ判事トシテ干與シタルトキトアルハ控訴審ニ付テ之ヲ云ヘハ控訴審ノ判事カ替テ第一審ノ判事トシテ終局判決ト共ニ不服ヲ申立ツル第一審ノ中間判決及ヒ同審ノ終局判決ニ干與シタル場合ヲ指スモノトス

（第三十三條）

『第三十三條』

○裁判官ノ命令指揮ニ過失アリトシ之ニ對シテ異議ヲ申立テ其判事自ラ之ヲ判斷スルトキハ勢ヒ其行爲ヲ過失トハ認メサルヘク其結果ハ民事訴訟法ノ所謂偏頗ノ裁判ニ歸著スルノ恐アルカ故ニ之ヲ忌避スルヲ得ト論告スルハ甚タ其當ヲ得ス抑同法ノ「偏頗ノ忌避ハ判事ノ不公平ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ルヘキ事情アルトキ」トハ判事カ當事者ノ一方ニ親密ナルカ又ハ怨アルカ其訴訟ノ勝敗ニ因リ利害ノ關係アル場合等ヲ指シタルモノナリ　三五　二　八四

○判事カ刑事又ハ民事ニ關スル他事件ヲ判決スルニ當リ採用シ若クハ排斥シタル證據ヲ當事者ヨリ提出シタル場合ト雖モ他ニ特別ノ事情ナキ以上ハ其判事ニ於テ不公平ナル判決ヲ爲スノ恐アリト云フヲ得ス　二七　一〇

○偏頗ノ忌避ハ判事カ不公平ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ルヘキ事情アルヲ要スルモノナルヲ以テ單ニ申出テタル證據調ヲ許容セサリシ一事ハ忌避ノ理由トスルニ足ラス　三七　一五〇二

（同主旨）

裁判所カ當事者ノ申立テタル唯一ノ證據方法ヲ排斥シタル場合ト雖モ他ニ事情ノ見ルヘキモ　二　一

ノナケレハ單ニ此一事ヲ以テ偏頗ノ裁判ヲ爲スヘキ疑アルモノト云フヲ得ス　三七　一三一

裁判所カ當事者ノ證據調申請ヲ却下シ又ハ辯論續行ノ申請ヲ容レスシテ辯論ヲ終結スルモ之ヲ以テ直ニ不公平ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足レリト云フヲ得ス　三九　一〇四三

『第三十八條』

（第三十八條）（刑）○忌避ノ申請ヲ不當ナリト宣言スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキモノニシテ不變期間ハ七日ナリトス　三五　二　四一

第六節　檢事ノ立會

『第四十二條』

（第四十二條）○檢事カ民事訴訟法第四十二條ニ依リ民事訴訟ニ立會フヘキ場合ハ人事訴訟ノ或場合ニ其立會ヲ必要トスル規定ト異ナリ其立會ナクシテ裁判ヲ爲スモ之ヲ以テ破毀ノ原因トスルヲ得ス　三九　一〇一

（同主旨）民事訴訟法第四十二條ノ場合ニ於テ檢事ノ立會ナキモ單ニ之ノミヲ以テ上告適法ノ理由ト爲スコトヲ得ス　二五　一　三

民事訴訟法第四十二條第八號ノ場合ニ於テ檢事ノ立會ナキモ裁判所ノ構成上ニ影響ナキニ付キ其裁判ヲ破毀スル原由ト爲スニ足ラス　二五　二　一三

民事法廷ニ在テハ檢事ノ立會ナケレハトテ判決ノ效力ニ影響ナシ　二五　五　一八

民事訴訟法第四十二條ハ檢事ノ立會ヲ要スヘキ規定ニ非ス偶〻其立會ナカリシトテ判決ヲ無效ナラシムヘキモノニ非サレハ上告適法ノ理由ト爲スヲ得ス　二六　二　五五

民事訴訟法第四十二條（無能力者ニ關スル訴訟ニ檢事カ立會フコト）ノ規定ハ裁判所ノ構成ニ關係ナキヲ以テ原院ノ口頭辯論ニ於テ檢事ノ立會ナキモ之カ爲メ原裁判ヲ不法ト云フヲ得ス　二七　二二四

檢事ノ立會ハ裁判所ノ構成ニ關係ナシ故ニ其立會ナキモ判決破毀ノ理由ト爲ラス　二八　五〇

婚姻事件養子緣組事件ニ檢事カ立會フヘシトノ規定ハ義務的ノモノニ非ス隨テ其立會ヲ爲ササル判決ハ不法ニ非ス　二九　九　七七

民事訴訟ニ檢事ノ臨席ナキモ裁判所ノ構成ニ關係ナク又裁判ノ曲直ニ影響ナキヲ以テ上告ノ理由ト爲スニ足ラス　三〇　三　一八三

民事訴訟ニ於ケル檢事ノ立會ハ裁判所ノ構成ニ欠クヘカラサル要件ニ非ス又裁判ノ公平ヲ保障スル所以ノモノニモ非ス故ニ口頭辯論ニ檢事ノ立會ナキコトハ其判決ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ホスモノニ非ス　三〇　一〇　五三

檢事ノ立會ハ民事訴訟ニ於ケル裁判所ノ構成ニ關クヘカラサル要件ニ非ス　三一　五　一〇二

離婚ノ訴訟ニ付キ檢事ノ立會ハ裁判所構成ノ要件ニ非ス　三二　一〇　一六

○民事訴訟法第四十二條ハ同條ニ列記セル訴訟ニ付キ其口頭辯論ニ檢事ノ立會フヘキコトヲ規定シタルニ過キスシテ檢事ノ立會アルニ非サレハ辯論及ヒ裁判ヲ爲スヘカラサルコトヲ規定シタルモノニ非ス　四一　一二八九

○民事訴訟法第四十二條第八號ニ所謂「證書ノ僞造若クハ變造ノ訴訟」トハ同法第三百五十一條ニ依リ證書ノ眞否ヲ確定センコトノ申立ヲ爲シ

中間判決ヲ爲スヘキ場合ニ適用スヘキモノニシテ單ニ變造ノ抗辯ヲ主張スル場合ニ該當セス　三一　六　八七

第二章　當事者

○英國法ニ依レハ各組合員ハ其組合事業ノ目的ノ爲メ組合及ヒ他ノ組合員ノ代理人タル資格ヲ有シ其行爲ヨリ生スル訴訟行爲ニ付テモ亦當然組合ヲ代表シ得ヘキモノトス　四二　八七〇

第一節　訴訟能力

（第四十三條）

『第四十三條』

○辯護士會ハ法人ニ非サルモ一ノ社團ナルヲ以テ其會則中會長ヲシテ代表セシムヘキ條項存スルニ於テハ辯護士會ノ名義ニテ訴答ヲ爲スコトヲ得ヘシ　二八　三　七

○村長ノ管理セル部落ノ持地ニ對スル訴訟ハ村長ニ係リ訴フヘク管理權ナキ村民ヲ對手ト爲スヘキモノニ非ス　二九　六　五〇

○法律上代理人カ未丁年者ノ爲メニ訴ヲ提起シ其訴訟繫屬中本人カ丁年ニ達シタル場合ニ於テハ本人自ラ訴訟ヲ進行シ得ヘキモノニシテ別ニ訴訟ノ中斷ヲ爲シ若クハ通知ノ手續ヲ爲スヲ要セス　三〇　八　一六

○郡長ハ民事上國ノ代表者トシテ訴訟ヲ爲スノ資格ヲ有スルモノニ非ス故ニ國ヲシテ賠償ノ責任ヲ負ハシメントスル訴訟ヲ郡長ニ對シ提起シタルハ不當ナリ　三一　二　二四

○各人民カ使用スヘキ用水路ニ板堰ヲ設ケラレ各其使用ヲ妨害セラルルヲ以テ之カ取拂ヲ請求スルハ各個人ノ權利ニ屬シ從テ訴訟能力ノ有無ニハ何等ノ關係ナシ故ニ裁判所カ職權ヲ以テ町村長ノ起訴スヘキモノニ非ストシ原告ニ訴訟能力ナシト判定セルハ不法ナリ　三一　六　一二

○寺ノ代表ハ住職之ヲ爲スモノタリ故ニ寺ノ代表者トシテ住職ト共ニ檀家總代ヲ相手取リタル訴訟ハ不當ナリ　三一　九　一

（同主旨）

寺院ノ權利伸暢ニ關スル行爲ノ代表ニ付テハ法律上反對ノ規定ナキヲ以テ住職ヲ以テ寺院ノ代表者ト爲スヲ相當トス（同一判例二八年三卷一三七頁）　二八　五　四九

寺院ハ訴訟上住職ニ依リ代表セラルヘキモノニシテ檀家總代ニハ代表ノ資格ナシ　二九　一〇　八〇

寺院ノ訴訟ハ其住職ヲ以テ代表者ト爲スヘキモノニシテ檀中ハ寺院ヲ代表スルノ能力ナシ　三〇　三　一三五

寺院ノ權利ヲ伸暢スルヲ以テ目的トセル訴訟ハ住職ニ於テ之ヲ代表スヘキモノニシテ檀家又ハ信徒ハ其訴訟ニ附從スルヲ要セス　三〇　七　一九

○檀徒カ自己ノ名義ヲ以テ寺院ノ利益ノ爲メニ訴訟ヲ提起スルコトヲ許サレタル法律ノ規定ナク亦其慣習モ存在セス　三二　九　五二

○寺院カ訴訟ヲ爲スニ當リ檀家總代ハ寺院ヲ代表スルノ權ナシ明治十四年内務省乙第三十三號達ハ寺院カ行政官廳ニ對シ願届等ヲ爲ス場合ノ規定ニ過キス　三三九四

（同主旨）

檀家總代ハ寺ヲ代表スル權利ナキモノトス

○社掌ハ社司ノ缺ケタル場合ニハ神社ヲ代表シ訴訟ノ對手ト爲ルノ權アリ隨テ其訴訟行爲ハ訴訟審理中ニ任命セラレタル社司ニ對シテ效アリ　三三五八

○信徒總代ハ神社ヲ代表スルノ權ナシ　三三九三四

○未成年者ニ對シテ法律上代理ノ資格ナキ者ハ未成年者ヲ代表シテ上告ヲ爲スノ權ナキモノトス　三四二七三

○未成年者ノ法律上代理人ニシテ適法ノ資格ヲ有セサル者カ提起シタル訴訟ト雖モ其資格ノ欠缺ハ之ヲ補正シ得ヘキ性質ノモノナルカ故ニ其訴訟提起ハ絶對ニ無效ノモノニ非ス　三五二一〇

○寺院ノ代表者ニ付テハ法律ノ明文上何等ノ規定ナキヲ以テ住職ノ欠缺シタル場合ニ於テ住職ノ職務ヲ攝理スル權限ヲ有スル者アルトキハ訴訟上ニ於テモ住職ト同シク寺院ヲ代表スル資格アルモノト認ムルヲ當然トス　三五四二

○夫ノ妻ニ於ケル授權ニ關シテハ訴訟代理人ニ付キ審級毎ニ書面委任ヲ要スルカ如キ規定ナキヲ以テ第一審ニ於テ其夫ノ許可ヲ受ケタル上ハ其訴訟事件ニ付テハ上級審ニ至ルモ更ニ其許可ヲ要セスシテ訴訟行爲ヲ有效ニ爲シ得ルモノトス　三五六四九

○民法施行前組合ノ解散ニ際シ組合員ノ爲メニ選定セラレタル殘務取扱人ナルモノハ民法其他ノ法規上別ニ其資格ヲ認メラレサルヲ以テ民法施行後ニ在テハ自ラ訴訟ヲ爲シ又ハ訴訟代理人ヲシテ之ヲ爲サシムルノ能力ヲ有セサルモノトス　三九一六五九

○寺院ノ住職ヲ兼務セル者ハ單ニ住職兼務ノ事實ヲ縣廳ニ届出テサルノ故ヲ以テ其寺ノ住職ニ非スト云フヲ得ス從テ右住職ハ寺院ヲ代表シテ訴訟ヲ爲ス資格アルモノトス　四五二九四

（參照）

民事訴訟法第四十三條ハ民法ノ施行セラレサル間ハ實施スルコトヲ得サル法條ニシテ現今ノ例規ニ於テハ後見人ナキ一般未丁年者ハ自ラ私權ヲ行使スルヲ禁セサルモノトス

未成年者ノ後見ハ未成年者カ成年ニ達スルト同時ニ終了シ後見人ハ其資格ナク隨テ被後見者ヲ代表スル所ノ訴訟能力ヲ有セサルコト論ヲ俟タス

私立銀行ハ一ノ組合ニシテ組合解散後ハ組合員全體ノ外訴訟ヲ爲スノ資格ナシト論告スルモ殘務委員ナルモノハ殘務ニ關スル事柄ヲ處理スヘキ責任ヲ有スルモノナレハ殘務ニ關係アル　二七三九七

訴訟ニ付キ解散シタル銀行ヲ代表スヘキ權アルハ論ヲ俟タス　二八　二四四

上告人ハ明治十八年中ニ其所有ノ共立商社株式ヲ悉皆他ニ賣渡シタルモノナレハ十九年中該社ニ係リタル訴訟ニ對シテハ社長カ當然上告人ヲモ代表シタルモノナリト云フヲ得ス本訴ハ被上告人カ同社ニ預ケ金ヲ爲シタル當時即チ明治十七年中上告人ハ株主タリシト云フ理由ヲ以テ請求ヲ爲ス場合ニ付キ彼是同一ノ當事者ナリト云フヲ得ス則チ一事再訴ニ非サルナリ　二八　二六四

法律ノ結果ニ依リ官廳カ得タル權利ハ其廳ノ存在スル間ハ良シヤ所屬上班官廳ニ變更アルモ爲メニ消滅スルモノニ非ス本件控訴ヲ提起シタル明治二十六年五月二十二日ニ在テハ尚ホ鐵道廳存在セシヲ以テ同廳長官ハ訴訟ニ關シ國ヲ代表スル權ヲ有スルコト明治二十五年內務省令第四號ニ於テ明カナリ然ルニ原院ハ控訴提起ノ當時ハ既ニ鐵道廳長官ノ國ヲ代表スル權利委任消滅シタルモノトシテ控訴ヲ棄却シタルハ不法ナリ　二八　三三四

未丁年者丁年ニ達スレハ後見ハ當然止ミ訴訟能力ヲ有スルモノナルヲ以テ縱令起訴ノ當時後見人ヲ有シタルモ訴訟進行中丁年ニ達スレハ其後ノ訴訟行爲ハ自ラ爲ササレハ何等ノ效果ヲ生セシムヘキモノニ非ス　二八　四〇六

未丁年者ニシテ後見人ナキモノニ付テハ裁判所ニ於テ調査ヲ爲シ普通智識アルモノト認ムルトキハ訴訟能力者トシテ其訴訟ヲ進行スルコトヲ得　二八　一四七

本家ニシテ且親族タル關係ヲ有スル者ハ分家ノ秩序ニ關スル事柄ニ付キ容喙ノ權ヲ有スルカ故ニ分家ニ於テ跡相續ヲ爲スヘキ者ノ順位ニ付キ不當ノ處置アリト認ムル場合ハ其相當順位ニ在ル者ヲ保護スル爲メ分家ニ對シ訴訟ヲ起スコトヲ得　二八　五

幼者ハ訴訟當事者タル能力ヲ有スルヲ以テ之ヲ對手トシテ起訴スルハ不法ニ非ス　二九　二〇

法人ニ非サル團體ニシテ其名義ヲ以テ訴訟行爲ヲ爲スハ特例ニ屬ス故ニ舊來裁判上公認セラレタル團體ノ外ハ此能力ナシ　三〇　二　六一

賴母子講會ハ訴訟上其役員ニ依リ代表セラルルハ裁判上一般ノ慣例ナリ　三〇　一〇　一

幼者ノ親族ハ其幼者ニ自然ノ後見人アル場合之ヲ擱キ幼者ノ爲メ自ラ訴訟ヲ提起スル權能ナシ　三〇　一一　五八

普通水利組合ノ管理者ハ外部ニ對シ其組合ヲ代表スルノ權アリ而シテ外部ニ對シ訴訟ヲ爲スニ付テハ別ニ授權ヲ受クルコトヲ要スヘキ法文ナク唯組合會ノ決議ヲ爲スヘキ事項中ニ其授權ヲモ包含スルモノト看做ス慣例アリト雖モ斯ル決議ノ如キハ其訴訟カ控訴審ニ繫屬スルトキニ至リ之ヲ爲スモ遡テ以前ノ行爲ヲ追認シタルモノト推定スヘキモノトス　三三　六　八二

町村內ノ區カ財產ヲ所有シテ區會ノ設ナキ場合ニ於テ町村長カ區有財產ニ關スル訴訟ニ付キ區ヲ代表スルニハ町村會ノ決議ニ依ルヘキモノトス　三五　四　一三〇

『第四十四條』（第四十四條）

○日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社ノ代表者ハ會社ノ營業ニ付キ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲スノ權限ヲ有スルモノナレハ其本國ニ於テ法人タラサル外國會社ト雖モ日本ニ於テ訴訟能力ヲ有スヘキハ當然ナリ　三八　五〇六

『第四十五條』（第四十五條）

○法律上代理人ノ資格ヲ證スル書面ノ如キハ裁判所ノ記錄ニ備フヘキ法律ノ規定ナキヲ以テ一件記錄中其書面ナキヲ以テ裁判所カ其資格ノ調

査ヲ欠キタルコトヲ證スルニ足ラス

○第一審ノ訴訟委任狀不完全ナルモ第二審ニ於テ完全ナル委任狀ヲ提出セルトキハ第一審ノ委任欠缺ハ委任者本人ニ於テ追認シタルモノト認メ得ヘキニ依リ曩ノ委任欠缺ハ上告ノ理由ト爲ラス　三一一五

（同主旨）

第一審ノ訴訟委任狀ニ不完全ノ點アルモ第二審ニ至リ完全ナル委任狀ヲ提出シタルトキハ第一審ノ委任欠缺ハ之ヲ追認シタルモノト認メ得ヘキニ依リ上告ノ理由ト爲ラス　三〇三一

第一審ノ委任ニ欠缺アルモ第二審ニ至リ完全ナル代理委任アルニ於テハ第一審ノ訴訟行爲ヲ追認シタルモノト認ムルニ足ルヲ以テ第一二審共適法ニ代理セラレサルモノト云フヲ得ス　三〇九二五

○當事者ノ代表資格ノ欠缺ハ裁判所カ職權ヲ以テ調査スヘキ責任ヲ有スルモノトス　三一二二四

（同主旨）

法律上代表者タル資格ノ有無ニ關シ當事者雙方ニ異議ナキ場合ト雖モ裁判所ハ職權ヲ以テ之ヲ調査セサルヘカラス　三〇三一二四

訴訟能力ノ欠缺ニ付キ當事者カ其申立ヲ爲サス又特ニ之ヲ爭ハサル旨明言スルモ固ヨリ有效ニ拋棄シ得サル事柄ナルヲ以テ裁判所ハ職權ヲ以テ之カ調査ヲ爲スヘキモノトス　三〇三三一三五

（反對）

訴訟代理ノ委任ハ各審級ニ於テ審査スヘキモノナルヲ以テ縱令第一審ニ於ケル訴訟代理委任ニ付キ欠缺アリタリトスルモ第二審ニ於テ何等ノ申立ナキ場合ニ在テハ職權上之ヲ調査スヘキ義務ヲ有セス　二七三五八

○訴訟代理人カ故障申立ノ際委任狀ヲ提出セサルモ口頭辯論ノ終結前ニ於テ故障申立ノ當時既ニ交付ヲ受ケタル委任狀ヲ提出セルトキハ其故障申立ハ委任ナクシテ爲サレタルモノニ非ス　三一六七

○代理權ヲ有セサル者ノ法律行爲ヲ追認スルコトハ法令ノ禁セサル所ナルヲ以テ訴訟代理ヲ委任シタル法律行爲ヲ追認スルモ亦有效ナリトス　三二四六八

○口頭辯論ノ際ニ至リ始メテ原債權者ノ相續人ト爲リタルモ其相續開始前ニ自ラ債權者ナリトシテ提起シタル訴訟ノ欠缺ヲ補正シテ當初ヨリ有效ニ提起セラレタル訴訟ト認ムルヲ得ヘキ規定ナシ　九七七

○訴訟ヲ爲スニ必要ナル授權ノ欠缺カ原審ニ於テ問題ト爲リタルニモ拘ハラス當事者カ其欠缺ヲ補正セスシテ其點ニ付キ判決ヲ受ケタル場合ニハ上告審ニ至リ之カ追完ヲ爲ストモ其追完ハ既往ニ遡リテ效力ヲ有スルモノニ非ス　三三五八四

○訴訟代理ノ委任ニ欠缺アルモ後日本人カ之ヲ追認スレハ訴訟代理人ノ爲シタル訴訟行爲ハ有效ナリ　三三一一六

○共同訴訟代理人中代理資格ニ欠缺アルモ他ノ者ニ於テ代理資格ヲ有スルトキハ其行爲ヲ有效トス　三三一一六

○正當ノ授權ナキ者ノ爲シタル訴訟行爲ヲ認ムルト否トハ之ヲ認ムル者ノ權利ニ屬スルニ付キ第二審ノ訴訟行爲ヲ認メ第一審ノ訴訟行爲ヲ認メサルトキハ其意思ニ反シ第二審ノ行爲ヲ認メタル故ヲ以テ第一審ノ行爲ヲモ補正セラレタルモノト誣ユルヲ得ス　三四　五　八四

○訴訟委任ノ追認ハ法令ノ禁セサル所ナレハ之ヲ追認スルト否トハ全ク前審ニ於テ代理セラレサリシ當事者ノ自由ノ權能ニ屬ス　三五　六　一五六

○婦カ夫ノ許可ヲ受ケスシテ訴訟ヲ提起シタルモ上告審ニ至リ夫ノ追認ヲ得タルトキハ其訴訟行爲ハ當初ニ遡テ有效ナリトス　三六　二〇〇

○後見人カ親族會ノ同意ヲ得スシテ被後見人ノ爲メニ訴訟ヲ提起シタルモ第二審ニ至リ親族會ノ追認ヲ受ケタルトキハ既往ノ欠缺ハ之カ爲メニ補正セラレ其訴訟行爲ハ當初ニ遡テ有效ナリトス　三六　四八七

（同主旨）

後見人カ被後見人ノ爲メニ訴訟ヲ爲スニ付キ親族會ノ同意ヲ得ルカ如キハ起訴ノ當初其授權ノ欠缺アリトスルモ該訴訟ノ繫屬中又ハ第二審ニ繫屬中ニ於テ親族會カ同意ヲ爲シ之ヲ追認スルトキハ遡リテ其當初ヨリノ訴訟行爲ヲ總テ有效ナラシムルモノトス

○下級審ニ於テハ法律上代理人ノ資格ニ關スル證明書ヲ提出セス上級審ニ至リ初メテ之ヲ提出シタルトキト雖モ法律上代理人カ下級審ニ於テ爲シタル訴訟行爲ヲ無效ト看做スヘキ規定ナケレハ之ヲ有效ト爲ササルヘカラス　三七　九三〇

○當事者ノ存否及ヒ其代理資格ノ有無ノ如キハ裁判所ニ於テ之ヲ調査スヘキコト勿論ナレハ反證ナキ限ハ其調査ヲ遂ケタルモノト爲ササルヲ得ス　三七　一三二七

（同主旨）

法定代理資格ノ有無ハ裁判所ノ職權ヲ以テ調査スヘキ事項ニ屬ス故ニ反對ノ證跡ナキ限ハ判決ヲ爲シタル裁判所カ其調査ヲ爲セシモノト認ムルヲ當然トス

○第二審ニ於テ第一審ニ於ケル訴訟代理人ニ委任ノ欠缺アルコトヲ發見シ之ヲ追完セシメタルトキハ其追完ハ有效ナリトス　三六　一四九四

○法定代理人タル資格ナキ者カ爲シタル訴訟行爲ト雖モ本人又ハ正當ノ法定代理人之ヲ追認シタルトキハ代理ノ欠缺ハ補正セラレ其訴訟行爲ハ適法ト爲ルモノトス　三七　一六九二

（同主旨）

法律上代理人タル資格ナキ者ニ於テ提起シタル不適法ノ訴訟ト雖モ其本人若クハ正當ナル法律上代理人カ之ヲ追認シ其訴訟ヲ受繼スル以上ハ既往ノ欠缺ハ之カ爲メ自ラ補正セラルルモノトス　四三　五九八

○適法ノ後見人ニ非サル者カ未成年者ノ代理人トシテ第一審ノ訴訟行爲　三二　二　九〇

ヲ擔任シタル場合ト雖モ第二審ニ至リ適法ノ後見人其訴訟手續ヲ受繼シタルトキハ前審ノ訴訟行爲ヲ追認セルモノニ外ナラサレハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

（參照）

未丁年者カ第一審以來爲シ來レル訴訟行爲ヲ第二審ニ於テ後見人カ是認シ其訴訟ノ續行ヲ希望スル旨ノ意思ヲ表示シタル場合ハ第一審以來ノ總テノ訴訟行爲ハ有效ナリトス

未丁年者カ訴訟能力ヲ有スルヤ否ヤハ事實上ノ問題ニシテ裁判所カ職權上調査スヘキ事項ナリ故ニ其調査ヲ爲サスシテ反證ナキヲ以テ能力ナシト裁判セルハ不法ナリ

大字ノ屬スル各村ノ村會ニ於テ第一審以來大字代表者ノ爲シタル訴訟行爲ヲ追認シ且上告審ニ於ケル應訴ノ決議ヲ爲シタル以上ハ縱令控訴審ニ於ケル應訴ノ村會決議カ不完全ナル爲メ右代表者ニ對スル授權ニ欠缺アリトスルモ其欠缺ハ追認ノ爲メニ補正セラレ代表者ノ行爲ハ總テ有效ナリトス

（第四十六條）

『第四十六條』

○民事訴訟法第四十六條ハ不分明ナル相續人ニ對シ訴ヲ提起スル場合ニ於ケル規定ナレハ訴訟ノ擊屬中當事者ノ死亡スル者アリテ相續人ノ未定ナル場合ニ適用スルヲ得ス

（同主旨）

民事訴訟法第四十六條ハ訴訟無能力者ニ對シ訴ヲ提起スル場合ニ特別代理人選任ノ申請ヲ爲シ得ヘキコトヲ規定シタルモノニシテ訴訟ノ進行中ニ當事者ノ一方カ訴訟無能力者ト爲リタル場合ニ適用スヘキモノニ非ス

第二節　共同訴訟人

○共同訴訟人ハ各自ノ受ケタル損害高ヲ併合又ハ區分シテ要償スルコトヲ得

○共同訴訟人ノ陳述ニ付キ他ノ共同訴訟人カ明カニ之ヲ爭ハサルモ其陳述ヲ承認シタルモノト看做スヘキ法則ナシ

（第四十八條）

『第四十八條』

○民事訴訟法第四十八條ハ當事者ニ訴訟ノ併合ヲ許シ同法第百二十條ハ裁判所ニ訴訟ノ併合ヲ許シタル規定ニ係レリ此規定ニ基キ訴訟ヲ併合シタル結果ハ兩者同一ノ效力ニ歸ス便チ第一審裁判所カ右第百二十條ノ規定ニ依リ併合ヲ命シ審理ノ末一通ノ判決文ヲ以テ裁判ヲ言渡シタルハ固ヨリ相當ナリ其敗訴者カ之ニ對シ一通ノ控訴狀ヲ以テ控訴ヲ提起シタルモ亦適法ナリ然ルニ原院カ之ヲ同法第四百十九條ノ形式ニ從ハサル不適法ノ控訴トシテ排斥シタルハ法律ニ違背シタル失當ノ裁判ナリ

○受訴裁判所所在地ニ普通裁判籍ヲ有スル者ト之ヲ有セサル者トヲ共同

四三	三一	四	八一七
四四	三二	六	一〇二
三四	三三	三	三六
九	四	四	七八
一七	三三	六	五一
	二七		五五九

被告トシテ訴フルノ當否ハ民事訴訟法第四十八條所定ノ要件ノ存否ニ依リ之ヲ定ムヘク裁判籍ヲ有スル被告ニ對スル請求ノ當否ノ如キハ他ノ共同被告ニ對スル管轄權ノ有無ニ何等ノ關係ナキモノトス　四四

○婦ヨリ夫ニ對スル離婚及ヒ夫ノ實家ノ戸主ニ對スル復籍ノ請求ニシテ其原因離婚ニ在ルトキハ民事訴訟法第四十八條第二號ノ所謂同一ナル事實上及ヒ法律上ノ原因ニ基ク請求ナルヲ以テ被告兩名ヲ共同訴訟人ト爲セルハ違法ニ非ス　五三〇

○請負人ヨリ報酬ヲ受クル權利ヲ讓受ケ相手方ニ向テ之カ交付ヲ請求スル訴ト該請求ニ對シ異議ヲ唱フル者ニ向テ權利讓渡ヲ確認セシメントスル訴トハ孰レモ同一ナル請負契約上ノ債權關係ニ基クモノナレハ民事訴訟法第四十八條第二號ノ規定ニ依リ共同訴訟ヲ許スヘキモノトス　三一　八　三六

○約束手形ノ振出人ノ支拂義務及ヒ其裏書人ノ償還義務ハ手形ヨリ生シタル債務ナル點ニ於テ民事訴訟法第四十八條第三號ニ謂フ同種類ナル事實上及ヒ法律上ノ原因ニ基ク同種類ノ義務ナリトス　三七　一二五一

○同一ノ約束手形ニ關スル振出人ト保證人トヲ共同被告ト爲シ手形債務ノ履行ヲ求ムル訴訟ハ民事訴訟法第四十八條第三號ニ該當セル適法ノ共同訴訟ナリ　三四　二　三九

（同主旨）約束手形ノ振出人及ヒ其裏書人ヲ共同被告トシテ訴フルハ民事訴訟法第四十八條第三號ニ於テ同種類ナル事實上及ヒ法律上ノ原因ニ基ク同種類ナル請求又ハ義務カ訴訟ノ目的物タルトキト謂ヘルニ該當ス　三五　六　一三二

○民事訴訟法第四十八條ノ規定ニ依リ數人ノ被告ヲ共同訴訟人トシテ同一ノ裁判所ニ訴フルニハ必スシモ各被告カ其普通裁判籍ヲ同ウスルコトヲ要セス縱令該裁判籍ヲ異ニスルトキト雖モ亦其一人ノ裁判籍アル裁判所ニ起訴スルコトヲ得ルモノトス　四一　九一六

（同主旨）民事訴訟法第四十八條ノ規定ニ依リ數人ノ被告ヲ共同訴訟人トシテ同一ノ裁判所ニ訴ヲ提起スルニハ各被告ノ普通裁判籍カ同一ナル場合ノミニ限ラス其土地ノ管轄ヲ異ニスル場合ニ於テモ亦同シク起訴シ得ルモノトス　三七　七二六

（參照）戸主廢罷又ハ夫婦離婚等ノ爭ニ付キ卑屬親ヨリ尊屬親ニ對シ若クハ婦ヨリ夫ニ對シ訴訟ヲ提起スルニ當リ其父母若クハ其他ノ親戚カ共同原告トシテ訴訟ニ加入スルコトハ從來一般ニ行ハレタル慣例ニシテ今日ニ在テモ不適法ト爲スノ謂レナシ　三一　五

婦カ夫ニ對シ離婚請求ノ訴訟ヲ提起スルニ當テハ明治六年第百六十二號布告施行以來其婦ノ父母又ハ其他ノ親戚ニ於テ共同原告トシテ訴訟ニ參加スルノ慣例行ハレタルニ依リ今日之ヲ不法若クハ無效ト爲スノ理由ナシ　三一　五　四九

（第四十九條）

『第四十九條』

○訴訟人中控訴ヲ爲スモノアルモ尙ホ利害ヲ異ニスル訴訟人ニシテ控訴ヲ爲ササル者アルトキハ之ヲ共同訴訟人トシテ本案ノ裁判ヲ爲スコトヲ得ス　二四　一　二三二

○訴訟物ニ付キ假ニ相手方ニ連帶ノ責任アルモ其相手方一人ニ對シテ爲シタル行爲ヲ以テ他ノ相手方ニ及ホスコトヲ得ス　二六　一　七七

○權利義務カ合一ニ確定セサル共同訴訟ニ付テノ判決カ當事者ノ一部ニ對シ對席判決ト闕席判決トノ區別ヲ生シタルトキハ其一部ハ控訴シ一部ハ故障ヲ申立ツルコトヲ得　二九　九　九七

○共同訴訟人等カ共同シテ攻擊若クハ防禦ノ方法ヲ提出セス各自獨立シテ之ヲ提出シ殊ニ其主張スル所各相異ナル場合ニ在テハ裁判所ハ此等ノ方法ニ對シ各別ニ判斷ヲ與ヘサルヘカラス　三六　四八

○共同訴訟ニ於テ訴訟人間ノ權利關係カ各自特立スル場合ニ在リテハ縱令共同訴訟人ノ一二名ノミニ特別ノ理由アルモ他ノ共同訴訟人ニ其影響ヲ及ホスコトナシ　三六　七七五

（第五十條）

『第五十條』

○金錢上ノ債務ハ連借ト連帶トヲ問ハス普通可分的ノモノニシテ權利關係カ合一ニノミ確定スヘキモノニ非ス　二九　四　五

○連帶債務ハ必スシモ皆同一ニノミ確定スヘキモノニ非ス　二九　九　九七

（同主旨）

連帶債務ハ權利關係カ合一ニノミ確定スヘキモノニ非ス　二九　四　一三

○二人連帶シテ他人ノ爲メニ數筆ノ土地不動產ヲ五个年間保管スル契約ヲ以テ所有名義者タリシモノナリトノ事實ニ因リ滿期後其二人ニ對シ他人ヨリ之カ取戻ヲ請求スル訴訟ニ於テハ其二人ノ權利關係ハ分割シテ箇箇ニ之ヲ確定セシメ得ヘキ性質ノモノニ非ス即チ民事訴訟法第五十條ノ規定ニ於ケル權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ事件ニ該當ス　三五　九　八七

○詐害行爲取消請求ノ訴訟ニ於テ共同訴訟人ノ權利關係カ合一ニノミ確定スヘキモノト認メ民事訴訟法第五十條ノ規定ヲ適用スルトキハ特ニ其理由ヲ付セサルヘカラス　三六　四八

（刑）○共同不法行爲者ニ對シテ連帶ノ損害賠償ヲ請求スルモ其訴訟ハ民事訴訟法第五十條ニ所謂權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ訴訟ニ非ス　三六　五三八

（刑）○甲者カ乙者ニ賣却シタル土地ヲ冒認シテ更ニ之ヲ丙者ニ販賣シ丙者ハ其所有權ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ乙者ヨリ甲者及ヒ丙者ヲ共同被告ト爲シ此事實ヲ請求ノ原因トシテ登記ノ抹消ヲ要ムル事件ハ民事訴

訟法第五十條ニ所謂必要的共同訴訟ノ性質ヲ有スルモノトス　三八　四五一

○甲乙二箇ノ事件カ共同シテ起訴セラレタルニ止マリ彼此權利上ノ關係ヲ有セサルトキハ縱令各事件ノ共同訴訟人數名アルモ其間ニ必要的共同訴訟ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス　三八　八九九

○村民若クハ區民カ其資格ニ因リ入會權ヲ享有スル場合ニ於テハ其權利ヲ拋棄シ又ハ他ニ移住シタルカ爲メ權利ヲ喪失セル者ノ外住民全體均一ノ權利ヲ有スルモノトス從テ原告等カ村民ノ資格ヲ以テ係爭山林ニ對シ古來入會權ヲ有スルコトヲ主張スル訴訟ハ民事訴訟法第五十條ニ所謂權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ事件ニ該當ス　三九　一六五

○第三者カ婚姻ノ無效若クハ取消ノ請求ヲ爲スカ如キ場合ニハ其夫妻ヲ共同被告トスルヲ要ス而シテ斯ル訴件ニ付テハ其裁判ノ積極的ニ出ツルト將タ消極的ニ出ツルトニ論ナク權利關係ハ絕對的ニ合一ニノミ確定スヘキモノトス　三九　四八六

○第三者カ民事訴訟法第五十一條第二項ノ規定ニ依リ共同訴訟ヲ必要トシテ訴ヲ提起スルモ裁判所ニ於テ共謀ニ出テタル事實ヲ認メ難シト爲シ其請求ヲ排斥スルトキハ當初必要的共同訴訟トシテ採用スルモ裁判ノ結果權利關係合一ニ確定セサル場合アルモノトス　三九　四八六

○金錢債權ノ確認ヲ求ムル訴件ハ其性質上共同被告ニ對シテ權利關係カ合一ニノミ確定スヘキモノニ非ス　三九　九四一

○數名ノ被告ニ對シテ公正證書正本一通ノ返還ヲ請求スル訴件ハ民事訴訟法第五十條ノ所謂共同訴訟人ニ對シ訴訟ニ係ル權利關係カ合一ニノミ確定スヘキモノニ該當ス　三九　九四二

○不動產ノ賣渡人及ヒ買受人ニ對シ賣買登記ノ抹消ヲ求ムル訴件ハ其性質上共同訴訟人ニ對シテ係爭權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ場合ニ該當セス　四一　四三一

○建物ノ所有者カ登記簿上其建物所在地ノ表示ニ錯誤アリトシ土地ノ所有者抵當權者賃借人及ヒ建物ノ賃借人ヲ共同被告トシテ其錯誤ヲ確認シ且之ニ關スル更正登記申請ニ必要ナル手續ヲ爲スコトヲ求ムル訴件ハ民事訴訟法第五十條ノ所謂總テノ共同訴訟人ニ對シ訴訟ニ係ル權利關係カ合一ニノミ確定スヘキモノニ該當ス　四一　五九三

○賣買當事者以外ノ者カ自己ノ權利ヲ主張シ賣渡人及ヒ買受人ヲ被告トシテ賣買登記ノ抹消ヲ訴求シタル場合ニ於テハ裁判所ハ買受人ニ對スル判決ノ結果如何ヲ顧ミルコトナク賣渡人ニ付テハ其抹消登記ノ義務者タラサル理由ヲ以テ請求ヲ却下スルヲ當然トス　四一　一〇五二

○民事訴訟法第五十條ニ所謂權利關係カ合一ニノミ確定スヘキトキトアルハ訴ヲ適法ナラシムル必要上共同シテ訴訟ヲ爲ス場合ハ勿論然ラサル場合ト雖モ係爭權利關係カ共同訴訟人ニ對シテ別箇ニ確定スルコトヲ許ササルトキヲ謂フモノトス　二二八

○共有權ノ確認ヲ求ムル部分カ權利關係ノ合一ニノミ確定スヘキモノナルトキハ該權利移轉ノ登記手續ヲ求ムル部分ニ付テモ其登記義務アルヤ否ヤハ專ラ右共有權確認請求ノ當否ニ繫ルモノナルヲ以テ此部分モ亦權利關係カ合一ニノミ確定スヘキモノトス　二六六二

○普通ノ共同訴訟ニ付テハ上訴者ノ利害關係ヲ他ニ及ホサスト雖モ權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ共同訴訟ニ付テハ其受ケタル判決ノ效力ハ他ノ上訴セサル者ニ及フヘキモノトス　二八四八

○總テノ共同訴訟人ニ對シ訴訟ニ係ル權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ場合ト雖モ共同訴訟人中ノ或者ニ於テ訴訟ヲ進行スル權利ヲ拋棄スルトキハ其者ヲ除キ他ノ共同訴訟人ノミニテ其訴訟ヲ進行スルコトヲ得隨テ共同訴訟人ノ一名ノ資格ニ不法ノ點アリテ判決ノ一部ヲ破毀スルモ他ノ共同訴訟人ノ訴訟行爲ニ影響ヲ及ホサス　三二八三八

（同主旨）

權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ訴訟ニ於テ其當事者中ノ一人若クハ數人ニ關シテ訴訟關係消滅スルコトアルモ爲メニ同事件ニ於ケル他ノ當事者間ノ訴訟關係ヲ消滅セシムルモノニ非ス

○權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ事件ニ在リテハ其判決カ共同訴訟人ノ一人ニ對シ不法ナルトキト雖モ其全部ヲ破毀スヘキモノトス　三〇一一

○二人以上ノ者カ共同シテ同一債權ノ履行ヲ求ムル訴ニ於テハ實體上之ヲ分割シ得ヘシトスルモ共同訴訟トシテ裁判所ニ繫屬シタル以上ハ其結果ハ合一ニノミ確定スヘキモノナレハ其一人ニ關スル訴訟手續ノ違法ハ他ノ者ノ利害ニ於テ其效ヲ生スヘキモノトス　三四五一三七

○債權者カ債務者及ヒ受益者ニ對シ詐害行爲ノ取消ヲ訴求シタル場合ニ於テ受益者カ爭ヒタル事實ニ付キ爲シタル債務者ノ自白ニ依リ心證ヲ形成シ以テ其詐害事實ヲ認メ受益者ニ於テモ亦債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知リタルモノト推定シタル判決ハ不法ナリ　二四一二一五

○連署者タルノ故ヲ以テ共同被告タルモ其權利關係カ合一ニ確定スヘキモノニ非サルトキハ該被告中第一審ノ口頭辯論ニ關席シタルモノアルモ他ノ出席者ニ代理ヲ任シタルモノト看做サス故ニ其關席判決ニ基因セル故障申立ニ對スル判決ノ控訴ヲ受理スルモ違法ニ非ス　二六二一二六

○權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ共同訴訟ナルトキハ共同訴訟人タル者カ適法ノ委任ヲ爲ササリシカ爲メ期日ニ出頭セサルモノトスルモ民事訴訟法第五十條第四項ノ規定ニ依リ他ノ共同訴訟人ニ代理ヲ任シタルモノト看做スカ故ニ其判決ハ此等ノ者ニ對シテ效力ヲ有ス　二七　二八九

（同三三四）共同訴訟ニシテ權利關係カ合一ニノミ確定スヘキトキニ於テ法律上共同訴訟人中ノ或人カ期日ヲ懈怠シタルモ其懈怠セサル者ニ代理ヲ委任シタルモノト看做スヘキハ法律ノ規定スル所ナルヲ以テ共同訴訟人中ノ一人ニ代理委任ヲ爲スコトニ於テ欠缺アルモ全ク訴ノ提起ナキ場合ト同一ニ論スルヲ得ス

○民事訴訟法第五十條第四項ハ期日ヲ懈怠セサル者カ自身出廷セルト代理人ヲ出廷セシメタルトヲ區別セス孰レノ場合ニモ適用スヘキモノナリ且同條ニ依ル代理ニ付テハ民事訴訟法第六十五條ノ訴訟委任ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス　二六　二　三六

○共同訴訟ニ付テハ裁判所ハ先ツ民事訴訟法第四十九條ノ一般規定ヲ適用スヘキ事件ナルヤヲ定メ第五十條ノ規定ヲ適用スヘキモノタルニ於テハ其數名カ一箇ノ判決ヲ以テ言渡ヲ受クルモ之ニ對シ或人ノミカ上訴若クハ故障ヲ提起セハ殘餘ノ當事者ニ付テモ亦上訴若クハ故障期間ノ中斷ト看做シ其總員ヲ呼出シ辯論ヲ爲サシムヘキモノトス　三九　一

（同三三四）必要的共同訴訟ニ付キ數人中一人ノミ上訴シ他ノ者ハ上訴セサル場合又ハ上訴ノ際一人ヲ相手ト爲シ他ノ者ヲ相手ト爲ササル場合ニ於テモ裁判所ハ當然上訴セサル者又ハ上訴ノ際相手トセラレサル者ヲ呼出シ審理判決ヲ爲ササルヘカラス

○權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ共同訴訟ニ於テ控訴期間ニ付キ民事訴訟法第五十條第四項ノ規定ヲ適用スルニハ總テノ共同訴訟人ニ對シ第一審判決ノ送達アリタルコトヲ必要トス　三八　一五〇

○破産手續ノ債權調査會ニ於テ異議ヲ受ケタル優先權ノ確定ヲ求ムル訴訟ハ總テノ共同訴訟人ニ對シ權利關係カ合一ニノミ確定スヘキモノナレハ其共同訴訟人中ノ或者カ期日ヲ懈怠シタル場合ニハ民事訴訟法第五十條第四項ノ規定ヲ適用スヘキモノトス　三九　一〇〇

○第一回口頭辯論ノ期日ニ出頭セサリシ訴訟人ニ第二回期日ノ呼出ヲ發セサルニモ拘ハラス當日出頭セサリシ懈怠ヲ責メ他ノ出頭者ニ代理ヲ任シタルモノト看做シタルハ不法ノ裁判ナリ　四四　七五九

（同三三四）共同訴訟人中ノ或人ノミカ期日ヲ懈怠シタルトキハ其懈怠シタル者ハ懈怠セサル者ニ代理ヲ

任シタルモノト看做ストノ規定ハ期日ノ送達ヲ受ケサル共同訴訟人ニ適用スルコトヲ得ス

○民事訴訟法第五十條第五項ハ同級審ニ於ケル訴訟手續ヲ規定シタルモノニシテ上級審ノ訴訟手續ヲ定メタルモノニ非ス　二九　九七

○權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ事件ニ於テ共同訴訟人中ノ一人カ爲シタル上訴ハ他ノ共同訴訟人ノ爲メ判決ノ確定ヲ妨クル效力ヲ生ス從テ他ノ共同訴訟人ハ形式上上訴ヲ提起セサルニ拘ハラス其訴訟ノ當事者タルヘキモノナレハ裁判所カ之ニ對シ送達及ヒ呼出ヲ爲スハ當然ナリ　三〇　八　二三

○民事訴訟法第五十條第五項ニ於テ懈怠シタル共同訴訟人ニモ總テノ送達及ヒ呼出ヲ爲スハ其訴訟人ヲシテ何時タリトモ訴訟手續ニ再ヒ加ハルノ便宜ヲ得セシムル爲メニ外ナラス故ニ懈怠シタル訴訟人カ呼出ナキニ拘ハラス何等ノ異議ヲモ挾マスシテ口頭辯論ニ加ハリタル以上ハ送達及ヒ呼出ナキコトヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス　三六　一七〇

○權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ訴件ニ在リテハ控訴裁判所ハ第一審判決ヲ受ケタル共同訴訟人總員ニ對シテ民事訴訟法第五十條ノ手續ヲ盡ササルヘカラス　三九　九三〇

○共同訴訟人中ノ或者カ上訴ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所カ民事訴訟法第五十條第五項ニ依リ他ノ上訴セサル者ニ對シ總テノ送達及ヒ呼出ヲ爲スコトヲ要スルハ其共同訴訟人總員ニ對シテ訴訟ニ係ル權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ時ニ限ルモノトス　三九　一〇三四

第三節　第三者ノ訴訟參加

○本訴訟ノ原告カ主參加人ノ要求ニ贊同シタルト同時ニ原告ハ其從參加人ト爲リ主參加訴訟ハ自然消滅シテ主參加人ハ本訴訟ノ原告ト爲リ本訴訟ノ被告ハ其對手人ト爲リタルモノナルカ故ニ裁判所カ特ニ併合ヲ命セス一箇ノ判決ヲ以テ裁判シタルハ相當ニシテ訴訟法則ニ違反シタルモノニ非ス　二九　一一　四

『第五十一條』

（第五十一條）

○執行參加ノ訴ニ於テ債務者ヲ共同被告ト爲ストキハ强制執行ニ對スル消極的異議ノ訴ニ積極的所有權確認訴訟ヲ包含スルモノト推定セラル而シテ執行參加ノ當事者雙方ヲ共同被告ト爲シ所有權確認ノ主參加訴訟ヲ提起スルハ執行參加ノ當事者間ニ爭アル所有權ノ確認ニ付キ自己ニ所有權アルコトヲ確認セシメントスルモノナルヲ以テ此主參加訴訟ハ適法ナリトス　三四　九　二三

○原告カ被告ニ對シテ或行爲ヲ差止ムル權利アリト主張シ其行爲ヲ爲サ

サルコトヲ請求シタル場合ニ主參加人カ自己ノ爲メニ其行爲ヲ爲サシムル權利アリト主張シ被告ニ對シテ其行爲ノ實行ヲ請求シ且同時ニ原被兩造ニ對シテ之ニ關スル權利確認請求ノ訴ヲ起スカ如キハ固ヨリ妨ナキ所ニシテ民事訴訟法第五十一條ニ適合セサルモノト謂フヲ得ス　三七

○原告カ被告ニ對シ家屋竝ニ其附屬物ヲ除去シテ地所ノ明渡ヲ爲スヘキコトヲ請求シタル場合ニ第三者カ原被兩造ヲシテ其家屋及ヒ附屬物ニ付キ所有權アルコトヲ確認セシメントスル訴訟ハ主參加ノ形式ニ依リテ之ヲ提起スルヲ得ス　四〇

○第三者カ民事訴訟法第五十一條第二項ノ規定ニ依リ共同訴訟ヲ必要トシテ訴ヲ提起スルモ裁判所ニ於テ共謀ニ出テタル事實ヲ認メ難シト爲シ其請求ヲ排斥スルトキハ當初必要的共同訴訟トシテ採用スルモ裁判ノ結果權利關係合一ニ確定セサル場合アルモノトス　三九

（第五十二條）

『第五十二條』

○當事者間ノ係爭目的物件ニ對シ其所有權ヲ主張シ之カ名義切換ヲ請求スル主參加申立アルトキハ本訴訟ノ辯論ハ民事訴訟法第五十二條第一項ニ依ルモ又ハ同法第百二十一條ノ規定ニ依ルモ主參加訴訟ノ完結ニ至ルマテ之ヲ中止スルヲ相當トス　二八　一　七一

（第五十三條）

『第五十三條』

○買主カ買受物ノ追奪セラレントスル訴訟アル場合ニ於テ賣主其訴訟ニ參加シ買主ノ爲メ防禦ノ方法ヲ提出シ賣買代金返還ノ請求ニ應セサルコトヲ得ルナリ廼チ其理由果シテ正當ナレハ代金返還ノ義務ナシ然ラサレハ損害賠償ノ責ニ當ラサルヘカラス抑追奪擔保ノ義務ハ賣渡シタル物カ追奪セラレタルト同時ニ生スト雖モ賣主カ買主ニ賣買代金ニ相當スル金額ヲ支拂フニ依リ賣買ハ解除スルモノニ非ス之カ損害ヲ賠償スルニ過キサルノミ　二七　三二

○從參加人ハ權利拘束ノ繼續中當事者ノ一方ヲ補助スル爲メ自ラ進テ其訴訟ニ附隨スルモノニシテ審級ノ如何ニ拘ハラス當然當事者タルヘキモノニ非ス故ニ從參加人ニ對シ提起セル控訴ハ不適法ナリ　二九　四　二一

○第一審ニ於テ從參加ノ申請アリタル者ニ對シ異議ナク判決ヲ受ケタル後之ヲ對手者ノ一人トシテ控訴ヲ提起シタルトキハ第二審ニ於テ更ニ從參加ノ申請ナキモ從參加人タル資格ヲ有スルモノトス　三〇　五　五五

○民事訴訟法第五十三條以下ニ規定シタル訴訟ノ從參加ハ主參加ト異ナリ他ノ當事者間ニ於ケル訴訟ニ依リテ權利上利害ノ關係ヲ有スル者カ原告若クハ被告ニ附隨シ一方ノ訴訟行爲ヲ補助スルコトノミヲ目的ト

スルモノニシテ參加人自ラ獨立シテ當事者ト爲リ又ハ共同訴訟人ト爲ルモノニ非ス　三八　一七七二

○債權確認訴訟ノ被告ニ對シテ債權ヲ有シ被告カ敗訴シタルトキ其他ノ財產ヲ以テ十分ニ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クルコト能ハサルニ至ルカ如キ地位ニ在ル第三者ハ民事訴訟法第五十三條ニ所謂權利上利害ノ關係ヲ有スル者ニ該當ス　四一　八八六

○他人ノ間ニ權利拘束ト爲リタル訴訟ニ於テ其目的物ヲ自己ノ爲メニ請求スルコトナク唯原告ノ主張セル債權ハ自己カ先キニ讓受ケタルモノニシテ讓渡人ノ爲シタル契約解除ノ告知ハ無效ナル旨ヲ主張シ以テ被告ヲ補助セントスル場合ハ從參加ノ申立ヲ爲スヘキモノニシテ主參加ノ手續ニ依ルヘキモノニ非ス　四二　九八一

（第五十四條）

『第五十四條』

○從參加人ノ陳述カ主タル被控訴人ノ陳述ト相牴觸スルトキハ主タル被控訴人ノ陳述ヲ以テ標準ト爲ス　二六　二六七

（第五十五條）

『第五十五條』

○民事訴訟法第五十五條ハ專ラ補助ヲ受ケタル當事者ト從參加人トノ關係ノミヲ規定シタルモノニシテ補助ヲ受ケタル原告若クハ被告ノ相手方ト從參加人トノ間ニ確定判決ノ效力ヲ及ホサシムル法意ニ非ス　三八　一七七二

（第五十七條）

『第五十七條』

○口頭辯論期日ニ從參加人ヲ呼出サスシテ爲シタル判決ハ不法ナリ　二八　五　八五

（第五十九條）

『第五十九條』

○民事訴訟法第五十九條ノ所謂擔保又ハ賠償ノ責任ナキ第三者ハ訴訟ノ告知ヲ受ケ其訴訟ニ參加セサルモ尙ホ其裁判ヲ不當ナリト主張スルコトヲ得　二六　二　五八

○會社ノ無限責任社員ハ該社ノ債務ニ付キ縱令形式上訴訟ニ於テ共同被告ノ地位ニ立タスト雖モ實體上義務共通ノ關係アルモノナレハ該社員ノ一人カ會社ノ債權者ヨリ訴ヲ受クルニ當リ他ノ無限責任社員ニ對シ訴訟參加ノ告知ヲ爲スヲ得ヘシ縱令其告知ヲ爲サスシテ訴訟終了シ未タ債權者ニ對シ其債務ヲ辨濟セサル前ト雖モ尙ホ共同シテ其債務ノ負擔ヲ請求スル權利アリ　二八　五〇

（第六十一條）

『第六十一條』

○訴訟告知ノ申出ハ本訴訟進行ノ妨ト爲ラサルカ故ニ裁判所ハ其申出アルニ拘ハラス本訴訟ノ辯論ヲ終結シ得ルモノトス　三六　四三七

○訴訟告知書提出ノ當日本訴訟ノ辯論ヲ終結シタル場合ニ於テハ該告知

書ヲ被告知者ニ送達セサルモ敢テ本訴訟ノ判決ニ影響ヲ及ホスコトナシ　三六　四三七

第四節　訴訟代理人及ヒ輔佐人

○訴訟書類ノ送達受取人ハ民事訴訟法第六十三條以下ノ規定ニ從フヲ要セサルヲ以テ何人ニ代理セシムルモ妨ナキモノトス　三四　二　四八

○民事訴訟法ニ於テ特ニ當事者本人ノ行爲ヲ必要トスル場合ニハ單ニ當事者ノ文字ヲ用ヰスシテ必ス當事者本人相手方本人若クハ當事者自身ノ文字ヲ用ヰ他人ヲシテ自己ニ代ラシムルコトヲ許ササルノ意ヲ明示スルヲ例トス　三八　九八七

○訴訟代理人トハ訴訟當事者又ハ其法律上代理人ノ委任ニ因リ訴訟行爲ヲ爲ス者ヲ指稱スルヲ以テ株式會社ノ取締役ハ訴訟代理人ニ非ス從テ取締役カ辯護士ヲ訴訟代理人ニ選任スルモ之ヲ以テ復代理人ナリト云フヲ得ス　四四　三二五

（第六十三條）

『第六十三條』

○訴訟代理人選定ノ委任ハ特別委任ヲ以テ之ヲ明言スヘキ旨ノ法則ナケレハ委任ノ旨趣汎博ニシテ受任者カ訴訟代理人ヲ選任スルノ權限ヲモ包含スルコトヲ認メ得ヘキ場合ニハ其權限アルコトヲ認定シ得ルモノトス　三九　一二〇八

○受任者カ自ラ訴訟代理人ト爲ルニ非スシテ本人ノ爲メニ訴訟代理人ノ選定ノミヲ爲ス場合ノ如キハ民事訴訟法第六十三條ノ相關セサル所ナレハ辯護士ニ非サル者ト雖モ本人ノ爲メニ辯護士ヲ訴訟代理人ニ選定スルノ委任ヲ受クルハ違法ニ非ス　三九　一二〇八

○共同訴訟ニシテ權利關係カ合一ニノミ確定スヘキトキニ於テ法律上共同訴訟人中ノ或人カ期日ヲ懈怠シタルモ其懈怠セサル者ニ代理ヲ委任シタルモノト看做スヘキハ法律ノ規定スル所ナルヲ以テ共同訴訟人中ノ一人ニ代理委任ヲ爲スコトニ於テ欠缺アルモ全ク訴ノ提起ナキ場合ト同一ニ論スルヲ得ス　二六　二　三八五

○地方裁判所以上ニ在リテハ共同訴訟人タリト雖モ之ニ訴訟代理ヲ委任スルコトヲ得ス　二九　四　五

○民事訴訟法第六十三條ハ法令ニ依リ其權限ノ範圍ヲ規定シアラサル雇人ヲ訴訟代理人ト爲ス場合ヲ規定シタルモノニシテ法令ノ規定ニ因リ特ニ代理權ノ範圍ヲ定メ訴訟行爲ヲ爲スノ權限ヲ與ヘタル場合ヲモ併セテ規定シタルモノニ非ス　三五　六　六三

（參照）

本人ニ代リ原告ト爲リ復タ之ヲ代言人ニ委任スルモ法律ノ禁スル所ニ非ス

（第六十五條）

『第六十五條』

○方式ノ送達ヲ受ケサルモ甘シテ之カ答辯ヲ爲スハ之ヲ受クルモノノ隨意タリ決シテ法ノ禁スル所ニ非ス又控訴ヲ爲スノ委任ヲ爲シタル以上ハ相手方ノ附帶控訴ニ對シ反訴ノ意思アルコト自ラ明瞭ナルニ於テハ民事訴訟法第六十五條第一項ニ屬スヘキモノニシテ敢テ特別ノ委任ヲ要セス　二四　一　一三五

○民事訴訟法ニ於テ認諾ト稱スルモノハ請求ヲ認諾スルノ謂ニシテ即チ一方ノ當事者カ對手方ノ請求ニ承服シ其爭訟ヲ止息スルニ在リ而シテ爭訟ヲ止息スル爲メノ認諾ト抗爭ヲ事トスル訴訟代理トハ其旨意氷炭相容レス認諾ヲ以テ訴訟代理ノ目的ヲ達スル必要若クハ直接ノ結果ト看做スコトヲ得サルヨリ法律カ認諾ニ對シ特別委任ヲ必要トスル所以ナリ（民訴六五條二項）然ルニ當事者一方ノ代理人カ原公廷ニ於ケル申立ハ之カ負擔ヲ認メタルノミニテ其請求ニ承服セス却テ計算上對手者ヨリ受取ルヘキ部分アリト抗爭シタルモノナレハ此所爲ハ民事訴訟法上之ヲ稱シテ自白ト云フヘクシテ認諾ト云フヘキモノニ非ス隨テ特別委任ノ必要ナキコトヲ知ルヘシ　二七　二六八　二七　五五〇

○反訴取下ヲ承諾スル如キハ普通ノ訴訟委任中ニ包含ス　二八　二　一八

○民事訴訟法第六十五條第一項ノ普通委任ノ外同條第二項ノ特別權限ヲ委任セラレタル代理人ハ訴訟ノ如何ナル審級ニ在ルト又上級審ヨリ下級審ニ差戻シ又ハ移送セラレタルトヲ論セス總テ其訴訟ノ完結ニ至ルマテ訴訟行爲ヲ爲シ得ルモノトス　二八　二　六三

○假處分申請ニ付テノ訴訟代理人ハ其決定ニ對スル相手方ノ異議申立ニ對シ民事訴訟法第六十五條ニ從ヒ當然答辯ヲ爲ス資格ヲ有ス　三〇　三　九二

○證書訴訟ヲ止メ通常訴訟手續ニ繫屬セシムルカ如キハ民事訴訟法第六十五條第二項ニ規定セル訴訟行爲ニ非サルヲ以テ同條第一項ノ範圍ニ入ルヘキモノトス故ニ證書訴訟ノ委任ハ該訴訟カ通常訴訟トシテ繫屬スル場合ニ於テモ亦有效ナリ　三一　三　六〇

○訴訟代理人ハ特別委任ヲ要スルモノヲ除ク外委任ヲ受ケタル事件ニ付キ一切ノ攻擊又ハ防禦ノ方法ヲ提出スルコトヲ得從テ契約ノ解除カ必要ナル攻擊又ハ防禦ノ方法ナル以上ハ訴訟代理人ハ相手方ニ對シ契約ヲ解除スルノ權限ヲ有ス　三八　一七一八

（同主旨）

訴訟代理人ハ民事訴訟法第六十五條第二項ニ依リ特別委任ヲ要スルモノヲ除ク外訴訟委任ヲ

受ケタル事件ニ關シテ一切ノ訴訟行爲ヲ爲ス權限ヲ有シ必要ナル攻擊方法ヲ提出シ又相手方ノ抗辯ヲ受ケ之ニ對シ適宜防禦答辯ヲ爲シ得ヘキモノトス

訴訟代理人ハ民事訴訟法第六十五條第二項ニ依リ特別委任ヲ要スルモノヲ除ク外委任ヲ受ケタル事件ニ付テハ必要ナル一切ノ訴訟行爲ヲ爲シ特ニ適宜ナル攻擊又ハ防禦ノ方法ヲ提出スル權限ヲ有スルモノナレハ親權ヲ行フ母カ親族會ノ同意ヲ得スシテ借財ヲ爲シタル行爲取消ノ意思ヲ表示シ以テ防禦ノ方法ト爲サントセハ固ヨリ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

訴訟代理人ハ民事訴訟法第六十五條第二項ニ依リ特別委任ヲ要スルモノヲ除ク外受任ノ事件ニ付キ一切ノ訴訟行爲ヲ爲ス權限ヲ有シ訴訟上必要ナル攻擊又ハ防禦方法ヲ提出シ得ルト同時ニ相手方ノ攻擊若クハ防禦ニ對シテハ代理人トシテ其衝ニ當ルヘキモノトス故ニ當事者ノ一方ヨリ爭ニ係ル法律行爲ヲ取消スノ意思ヲ表示シテ防禦抗辯ヲ爲ストキハ相手方ノ訴訟代理人ニ於テ之ヲ受クヘキハ當然ナリ

○控訴提起ノ委任ヲ受ケタル代理人ハ被控訴人カ爲シタル附帶控訴ノ申立ニ對シテ相當ノ防禦方法ヲ提出シ得ヘキハ勿論其附帶控訴ニ關スル準備書面ノ送達ヲ受クル權限アリ　三五　一〇　一五四

(刑)

○詐欺取財ノ被害者カ訴訟代理人ニ對シ賣買契約ヲ取消ス旨ノ意思ヲ明示シテ其取消ノ委任ヲ爲ササルモ賣買ノ成立ヲ證スヘキ抵當登記ノ抹消及ヒ其證書取戻ノ請求ヲ委任スルニ於テハ該契約ヲ存在セシメサル意思ヲ默示シテ之カ取消ヲモ訴訟委任ノ範圍ニ包含セシメタルモノト解スルヲ相當トス　三六　八二四

○訴訟委任ハ當該審級ノ終了迄ニ限ラルヘキモノニシテ普通委任ヲ受ケタル訴訟代理人カ强制執行ヨリ生スル訴訟行爲ヲ爲シ得ルコトハ民事訴訟法第六十五條第一項ニ定ムル委任ノ範圍ニ屬スルカ爲メナレハ審級終了ノ問題ト交渉スル所ナシ　三八　三二三

○訴訟事件カ一旦其審級ヲ離脫シタルト否トヲ問ハス苟モ其審級ニ繫屬スル限ハ其委任ニ基ク權限ヲ行使スルコトヲ得從テ差戻後ニ於テモ舊訴訟代理人ハ其審級ニ於ケル訴訟行爲ヲ爲シ得ルモノトス　四三　五三三

○民事訴訟法カ訴訟當事者ニ認許スル相殺ノ抗辯ハ相手方ノ請求ニ對スル防禦ノ方法ニシテ一ノ訴訟行爲タル性質ヲ有スルモノトス從テ訴訟代理人ノ代理權中ニハ相手方ニ對シテ此抗辯ヲ提出スルノ權限竝ニ相手方ヨリ其抗辯ヲ對抗セラルルノ權限ヲ包含スルモノトス　四五　二〇四九

(同三三頁)

相殺ヲ以テ抗辯方法ト爲スヘキ場合ニ於テハ特別ノ意思表示ヲ須タスシテ其相殺ヲ爲ス行爲ハ當然訴訟委任中ニ包含スルモノトス

訴訟代理人ハ特別委任ヲ要スル事項ヲ除クノ外委任ヲ受ケタル事件ニ付キ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲シ特ニ適宜ノ攻擊又ハ防禦方法ヲ提出シ得ルト同時ニ相手方ノ攻擊又ハ防禦ニ對シ自ラ其衝ニ當ルヘキモノトス從テ相手方ノ攻擊ニ對スル防禦トシテ相殺ノ意思表示ヲ爲シ又相　四五　三五〇

手方ノ爲シタル意思表示ヲ受クルノ權限ヲ有ス

○訴訟代理人ハ特別ノ委任ヲ受クルニ非サレハ和解又ハ抛棄ヲ爲スコトヲ得サルハ訴訟法第六十五條第二項ノ規定スル所ナリ然ラハ此委任ヲ受ケタル證左ナキ以上ハ縱令裁判所ヨリ下付シタル和解調書即チ公正ノ證書ナリト雖モ其效力ヲ對手人ニ及ホスコトヲ得ス　三九　二六　一　六四

（第六十九條）

『第六十九條』

○法律上代理ノ變更ニ依ル委任ノ消滅ハ之ヲ通知セサレハ相手方ニ對シテ其效力ヲ生セス　三三　一　五三

（同主旨）

訴訟代理委任ノ消滅ハ之ヲ相手方ニ通知スルマテ其效ナシ故ニ本人ノ出廷ノミヲ以テ相手方ニ對シ委任ノ消滅アリト看做スヲ得ス　三〇　三　九二

死亡ニ由ル代理委任ノ消滅ハ其消滅ヲ通知スル書面ヲ受訴裁判所ニ提出シ相手方ニ送達セシムルマテハ其效ヲ生セサルモノトス　三一　四　三四

○民事訴訟法第六十九條ノ規定ハ委任者ト受任者トノ間ニ於ケル訴訟代理ノ委任消滅シ通知ヲ爲スニ非サレハ相手方ニ於テ其代理委任消滅ヲ知ル能ハサルヲ常トスル事由ノ生シタル場合ニ適用スヘキモノニシテ法律ヲ以テ或能力ヲ制限シ授權ヲ必要ト定メタル場合ニ適用スヘキモノニ非ス　三五　六　二〇七

○當事者カ訴訟代理人ヲシテ訴訟行爲ヲ爲サシムル場合ニ於テハ該當事者中ニ訴訟能力若クハ法定代理人ノ變更ヲ生スルコトアルモ其代理委任消滅ニ關スル通知書ノ提出アル迄ハ裁判所ハ依然トシテ其訴訟手續ヲ進行スルコトヲ得ヘシ　三七　二一三

○當事者ノ法定代理人カ訴訟代理人ヲシテ訴訟行爲ヲ爲サシムル場合ニ於テ訴訟中其代表權ヲ喪失シタルニ拘ハラス委任消滅ノ通知ヲ爲ササル以上ハ判決ハ依然代理人ニ對シテ之ヲ言渡スヘキモノトス　三九　八八四

（同主旨）

訴訟代理委任ノ消滅ハ之ヲ裁判所ニ屆出テ其通知書ヲ相手方ニ送達セサレハ效力ヲ生セス隨テ其訴訟代理人ノ受ケタル判決ハ有效ナリ　二六八

當事者ノ法律上代理人カ訴訟中變更シタルニ拘ハラス其申立書ヲ提出シタルハ口頭辯論終結後ニ係リ且右代理人ヨリ委任消滅ニ關シテ適法ナル通知ヲ爲サス及ヒ後ノ法律上代理人カ訴訟受繼ノ手續ヲ爲ササル以上ハ判決ハ前法律上代理人ニ對シテ之ヲ言渡スヘキモノトス　三一　九　一三七

○民事訴訟法第六十九條及ヒ同第百八十三條第一項ニ定メタル委任消滅ノ通知ニ付テハ一定ノ方式存セサルヲ以テ事實上其通知ノ效果アラハ相手方ニ對シテ委任消滅ノ效ヲ生スルモノトス　三五　一〇　二九

（第七十條）

『第七十條』

○訴訟代理人トシテ適法ノ委任ヲ受ケタル甲者カ乙者ト共ニ出廷シテ判　四三　八八四

○決ノ基本タル口頭辯論ヲ爲シタル以上ハ縱令乙者ノ代理權ニ欠缺アルモ之ヲ以テ上告ノ理由トスルヲ得ス　三八　一六三五

○當事者カ第二審ニ提出セル代理委任狀ニ不適式ノ點アルモ正當ノ委任ヲ受ケタル訴訟代理人カ上告審ニ於テ前審ノ代理人ノ訴訟行爲ヲ追認シタル以上ハ相手方ハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス　三九　三一四

○下級審ニ於テ適法ノ委任ナキ訴訟代理人カ爲シタル訴訟行爲ト雖モ上級審ニ至リ本人ノ追認ヲ受クルトキハ當初ニ遡テ有效ト爲ルモノトス　三九　一三七

（同三三）

下級審ニ於テ適法ノ委任ナキ訴訟代理人ノ爲シタル訴訟行爲ト雖モ本人カ上級審ニ於テ之ヲ追認スルトキハ當初ニ遡テ有效ナリトス

○民事訴訟法第七十條末項ハ委任欠缺ノ補正ニ關スル規定ニシテ訴訟行爲ノ追認ニ關スル規定ニ非サレハ同規定ニ依リ訴訟行爲追認ノ時期ヲ論斷スルコトヲ得ス　三六　一二六八

第五節　訴訟費用

○後見人アル幼者ノ行爲ヲ以テ獨立ノ能力アル者ノ行爲ト同視スヘカラサルハ法理ノ然ラシムル所ナリ故ニ訴訟費用ノ如キモ幼者ノ財產處分權ヲ有スル者ノ許諾ヲ經ルニ非サルヨリハ幼者ノ財產ヲ處理スルコト能ハサルモノトス乃チ幼者ノ承諾ノミニ據テ之ヲ處分スルハ不當ナリ　二五　五　二一

○後見人罷黜訴訟事件ニ付キ幼者自ラ起訴者ノ一人タル事跡ノ見ルヘキモノナキニモ拘ハラス裁判所ニ於テ其幼者モ亦起訴者ノ一人タルコト明カナリト判定シ幼者ニ訴訟費用ヲ負擔セシメタルハ違法ノ裁判ナリ　二五　五　二一

○凡ソ敗訴者ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルハ其訴訟行爲ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償セシムルニ外ナラス左レハ勝訴者カ辨償ヲ求ムル所ノ費用ハ現實訴訟ノ爲メニ費シタルモノナルヤ否ヤノ事實ヲ審究スルハ其費用額ヲ定ムルニ於テ最モ緊要ノ事ナリトス而シテ訴訟委任ハ書面ノ往復ヲ以テ之ヲ爲シ得ヘク必スシモ面接ヲ要セサルモノナルカ故ニ單ニ其訴訟委任ヲ爲シタル事實ノミヲ以テ轍ク面接委任ヲ爲シタルモノト推定スヘカラサルハ言ヲ俟タス　二八　三〇三

○裁判所カ訴訟費用ノ如キ性質上分割スルコトヲ得ヘキモノニ付キ單純ニ二人以上ノ當事者ニ其負擔ヲ命シタルトキハ其當事者ハ之ヲ平分シテ各自其一部ヲ負擔スルヲ通例トス　三五　一〇　八五

○答辯書ノ提出ハ提出者自ラ裁判所ニ出頭シテ之ヲ爲スコトヲ要スルニ非スシテ郵便其他ノ方法ヲ以テモ亦之ヲ爲シ得ルモノナレハ單ニ答辯書カ提出シアル事實ノミニ依リ提出者ハ其住所ヨリ裁判所マテ往復ノ

旅行ヲ爲シタルモノト認ムルヲ得ス　三七　五三七

○主タル債務ニ付キ連帶ノ義務アル者ハ之ニ附隨スル債務ニ付テモ亦連帶ノ義務アリ從テ連帶債務者ハ訴訟費用ニ付キ連帶ノ義務ヲ負フモノトス　三八　六五六

○訴訟費用ニ關スル規定ハ公ノ秩序ニ關スルモノニシテ當事者ノ意思表示ニ因リ之ニ反スル特約ヲ爲スコトヲ許サス從テ訴訟ニ對シ不當ノ抗爭ヲ爲シタルカ爲メ生スヘキ損害ニ付キ賠償額ヲ豫定スルモ其效ナシ　三八　七六三

（第七十二條）

『第七十二條』

○訴訟費用ハ必要ニシテ且現ニ費シタルモノナルヲ要スルハ訴訟費用法ノ精神タリ　二八　一三七

○訴訟能力ノ有無ハ裁判所カ職權ヲ以テ調査スヘキ事柄ニ屬スルニ依リ事實訴訟能力ナキコトニ決スル以上ハ當事者ノ一方カ之ニ關スル抗辯ヲ提出セル時期ノ如何ニ拘ハラス其敗訴ノ費用ヲ總テ敗訴者ニ負擔セシムルハ相當ナリ　二九　一一　六五

○訴訟代理人カ出廷シタルトキハ其本人自ラ出廷スルト否トハ隨意ノ行爲ニシテ必要行爲ニ非ス故ニ本人出頭ノ費用ハ訴訟費用中ニ計算スヘキモノニ非ス　三〇　三　九二

○假住所ナルモノハ本住所ニ非サルヲ以テ開廷ノ節實際本住所ヨリ往復シタル事實アルトキハ其費用ヲ請求シ得ヘキハ當然ナリ　三三　六　一〇三

○受訴裁判所ニ於テ證據調ヲ爲ス場合ナルト受命判事又ハ受託判事ノ面前ニ於テ之ヲ爲ス場合ナルトヲ問ハス訴訟當事者ハ自ラ其期日ニ出頭シ又ハ訴訟代理人ヲシテ出頭セシムルノ權利ヲ有ス從テ其出頭ノ爲メニ要シタル旅費等ハ權利伸張又ハ權利防禦ニ必要ナルモノト看做ササルヲ得ス　三七　一二三九

○裁判所カ原告ノ請求額中一部ヲ認容シタル場合ニ於テ被告ニ全部ノ訴訟費用ヲ負擔セシムルニハ相當ノ理由ヲ付スルコトヲ要ス　四一　四九八

○當事者雙方ノ訴訟代理人ノ申立ニ因リ口頭辯論期日ヲ變更シタルトキハ縱令其申立ノ事由カ勝訴者ノ訴訟代理人ノ差支ニ在ルモ之カ爲メニ生シタル訴訟費用ハ勝訴者ヲシテ負擔セシムヘキモノニ非ス　四三　一三一

○上訴ニ於テ一旦勝訴ノ判決ヲ受ケタルモ差戻後ノ判決ニ於テ敗訴シタルトキハ民事訴訟法第七十二條ニ依リ之ニ訴訟ノ總費用ヲ負擔セシムルモ違法ニ非ス　元　九〇九

○期間經過後ノ附帶控訴カ主タル控訴ノ取下ニ因リテ效力ヲ失ヒタルトキハ其附帶控訴ノ爲メニ必要ナリシ費用ハ控訴人ニ於テ之ヲ負擔セサ

ルヘカラス

（參照）休暇部ノ審理ヲ申請シ却下セラレタルハ必要ナラサル行爲ニ屬スルカ故ニ其對手者ニ其費用ヲ辨濟セシムヘキ限ニ在ラス

（第七十三條）

『第七十三條』

○民事訴訟法第七十三條第一項ノ場合ニ於ケル費用分擔ノ割合ハ裁判所ノ意見ニ於テ相當ナル權利ノ伸張又ハ防禦ニ必要ナリト認メタル程度ニ應シ適宜ニ之ヲ定ムヘキモノニシテ必スシモ當事者各方ノ勝敗ノ高ニ按分比例ヲ以テ負擔ヲ命スヘキ旨趣ニ非ス

○民事訴訟法第七十三條第二項ハ前項ヲ適用セサルコトヲ得ルノ職權ヲ裁判所ニ許與シタルモノニシテ裁判所ノ職責トシテ規定シタルモノニ非ス故ニ該條項ヲ適用スルト否トハ全ク裁判所ノ自由ニ屬ス

○控訴ノ一部ヲ棄却シタル場合ト雖モ其部分ニ付キ特ニ訴訟費用ヲ生セサリシトキハ被控訴人ヲシテ費用ノ全額ヲ負擔セシムルモ違法ニ非ス

（同主旨）控訴審ニ於テ控訴ノ一部ヲ正當ト認メ他ノ一部ヲ不當トシテ之ヲ棄却セル場合ニ其不當ト爲シタル控訴ノ一部ニ付キ特別ニ費用ヲ生セサリシモノト認ムルトキハ裁判所ノ意見ニ因リ其一部ノ敗訴者ニ對シ費用全部ノ負擔ヲ命スルモ違法ニ非ス

四〇	二一九			
二八	一二七			
四二	八八三			
三六	五九七			
三九	九五			
三八	一五七			

○債權者カ同一債務ノ債務者全員ヲ共同被告トシテ連帶辨濟ヲ請求シタル場合ニ於テ裁判所カ原告ノ要求額ヲ是認セル以上ハ縱シヤ連帶辨濟ノ請求ヲ斥ケテ分擔辨濟ヲ命スルモ其要求ハ民事訴訟法第七十三條第二項ニ所謂格外ニ過分ナルニ非サルモノトス

（第七十四條）

『第七十四條』

○民事訴訟法第七十四條ノ規定ハ被告カ直ニ原告ノ請求ヲ認諾シタル場合ニ限リ適用スヘキモノトス

（第七十五條）

『第七十五條』

○辯論期日ヲ變更セシメタル原告若クハ被告ト雖モ自己ノ過失ニ因ルニ非サレハ之カ爲メニ生シタル費用ヲ負擔スヘキモノニ非ス

（第七十六條）

『第七十六條』

○印紙貼用不足ノ論告ハ原判決ヲ破毀スルヲ得スト雖モ理由アル申立ニシテ被上告人ノ過失ニ原因スルモノナレハ被上告人ハ訴訟費用ヲ償フノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

○民事訴訟法第七十六條ハ無益ナル攻擊又ハ防禦ノ方法ヲ主張シタル原告若クハ被告ヲシテ本案ノ勝訴者ト爲リタルニ拘ハラス訴訟費用ヲ負擔セシメ得ルノ規定ニシテ其費用ヲ負擔セシムルト否トハ專ラ裁判所

四三	六九二			
三三	五五			
四一	三一三			
二七	三八九			

ノ職權ニ屬スルモノトス　三七

（同主旨）

無益ナル攻擊又ハ防禦ノ方法ヲ主張シタル當事者ナシテ本案ノ勝訴者ト爲リタルニ拘ハラス其方法ノ費用ヲ負擔セシムルト否トハ一ニ裁判所ノ職權ニ屬スルヲ以テ縱令其負擔ヲ命セサルモ之ヲ不法ト云フヘカラス　三七　九八三

（第七十八條）

『第七十八條』

○民事訴訟法第七十八條ニ謂フ本案ノ終局判決トハ控訴ヲ受ケタル裁判所カ第一審ノ裁判ヲ廢棄セサル部分即チ控訴棄却ノ裁判ヲ指稱スルニ非スシテ差戻ヲ受ケタル裁判所カ更ニ爲スヘキ終局判決ヲ指稱スルモノトス　三六　七八二

○民事訴訟法第七十八條第二項ハ裁判官ニ於テ事情ニ因リ勝訴者タル原告若クハ被告ヲシテ上訴費用ノ全部又ハ一分ヲ負擔セシメ得ルコトヲ規定シタルモノニシテ必スシモ之ヲ負擔セシメサルヘカラストノ規定ニ非ス　三六　二三三

（同主旨）

民事訴訟法第七十八條第二項ニハ原告若クハ被告ニ上訴費用ノ全部又ハ一分ヲ負擔セシムルコトヲ得トアリテ勝訴者ニ費用ヲ負擔セシムルト否トハ專ラ裁判所ノ意見ニ任セタルモノナリ　三五　一　四九

○民事訴訟法第七十八條第二項ハ其第一項ノ規定ヲ承ケ上訴ニ因リ裁判ヲ廢棄若クハ破毀スル場合ニノミ適用セラルヘキモノトス　三九　一三六六

（第七十九條）

『第七十九條』

○訴訟費用ハ和解契約ノ成立スルト否トニ因リテ其負擔ノ結果ヲ異ニスヘキモノナレハ該契約ノ成否ニ付キ當事者間ニ爭アル以上ハ先ツ之ヲ判定セサルヘカラス　三七　一五一四

（第八十條）

『第八十條』

○裁判所カ訴訟費用ノ如キ性質上分割スルコトヲ得ヘキモノニ付キ單純ニ二人以上ノ當事者ニ其負擔ヲ命シタルトキハ其當事者ハ之ヲ平分シテ各自其一部ヲ負擔スルヲ通例トス　三五　一〇　八五

○地主ト永小作人間ノ關係ノ如キ不可分的ノモノニ在テハ訴訟費用ニ付キ共同訴訟人ノ連帶義務ヲ生スルコト當然ナリ　三六　一二九五

○民事訴訟法第八十條第一項ノ規定ハ共同訴訟人カ訴訟ノ目的タル債務ニ付キ實體法上連帶責任ヲ負フトキハ訴訟費用ニ付テモ亦連帶義務ヲ負ハシムルノ法意ナリトス　四三　四六五

（第八十二條）

『第八十二條』

（刑）○訴訟費用ノミノ裁判ニ對シ上訴スルコトヲ得サルモノトス　二六　二　一

○上告ノ理由總テ相立タサルトキ訴訟費用不服ノ申立ハ民事訴訟法第八十二條第一項ニ從ヒ採用スヘカラサルモノトス　二六　二　一〇八

○本訴ト反訴トハ別箇獨立ノ訴ナルヲ以テ反訴ノ判決ニ對シ不服申立ヲ爲スモ本訴ノ判決カ當然其申立中ニ包含スルモノト云フヲ得ス故ニ如上ノ場合ニ於テ本訴ノ訴訟費用ノミニ付キ爲シタル不服申立ハ民事訴訟法第八十二條ニ違背シ許スヘキモノニ非ス　四四　二四七

（第八十三條）

『第八十三條』

○執達吏ハ民事訴訟法第八十三條ノ規定ニ於ケル費用ノ辨濟ヲ負擔スヘキ決定ヲ受ケタルカ如キ場合ノ外ハ常ニ公務上ニ關シ抗告ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス　三五　六　一一六

（同主旨）

執達吏ノ行爲ニ對シ當事者一方ヨリ異議ノ申立ヲ爲シ其行爲ノ取消ヲ命セラルルコトアルモ執達吏ハ民事訴訟法第八十三條ノ如キ場合ノ外ハ利害ノ關係ナキヲ以テ之ニ對シ不服ヲ唱ヘ抗告ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス

（第八十五條）

『第八十五條』

○訴訟費用ノ負擔額ハ確定判決ニ掲クル訴訟費用ノ言渡ニ基キ之ヲ確定スヘク其內容ノ如何ヲ審査シテ之ヲ取捨スヘキモノニ非ス　二五　三　一四　三五　二

（第八十七條）

『第八十七條』

○訴訟上ノ保證ハ當事者ノ一方ヲシテ其訴訟行爲ニ因リ他ノ一方ニ生スルコトアルヘキ損害ノ擔保トシテ之ヲ立テシムルモノナレハ保證トシテ現金又ハ有價證券ノ供託セラレタル場合ニ於テ他ノ一方カ損害ノ賠償ヲ受クヘキトキハ物的擔保タル供託物ヨリ優先シテ之ヲ受クルコトヲ得　二　二一

○第三者カ假處分申請者ノ爲メ保證トシテ現金又ハ有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テモ保證債務ヲ負擔シタルモノト爲スヘキ理由ナシ　二　二一

第六節　保證

第七節　訴訟上ノ救助

○訴訟上救助ノ申請中ニ上告期限ヲ經過スルモ之カ期間ノ進行ヲ停止スヘキ規定ナキヲ以テ猶豫ヲ與フヘキ限ニ在ラス　二五　三　一

○訴訟救助ノ申請ニシテ許容セラレサルトキハ之ト共ニ提出セル無印紙ノ訴訟書類ハ無效ナルカ故ニ民事訴訟用印紙法第十一條ノ注意ヲ爲スヲ要セス其書類ヲ却下スヘキモノトス　三〇　三　一〇一

○訴訟上ノ救助ノ申請ヲ許否スル決定ニ理由ヲ付セサルモ違法ニ非ス　三一　七　一一

（同主旨）

訴訟上救助申請等ノ決定ヲ爲スニ付テハ必ス理由ヲ付セサルヘカラストスル一定ノ法條ナキニ依リ原裁判所カ其決定ヲ爲スニ當リ何等理由ヲ説明セサリシトテ之カ爲メ必スシモ不法トスルヲ得ス

○訴訟上ノ救助ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ自然人ノミニ適用スヘキモノニシテ法人ニ適用スヘキモノニ非ス〔同一判例三八年一一一頁〕

（第九十一條）

『第九十一條』

○訴訟上救助ハ其目的トスル權利ノ伸張ニ見込ナキトキハ之ヲ付與スヘキモノニ非ス

（第九十三條）

『第九十三條』

○訴訟費用救助ノ申請ハ訴訟ノ提起ト同時ニ爲スヘキモノトス

○民事訴訟法第九十三條第二項ノ規定ニ適セサル證明書ハ訴訟費用ヲ支拂フ資力ナキ事實ヲ證明スルニ足ラス

（第九十四條）

『第九十四條』

○第一審ニ於テ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ト雖モ第二審ニ於テ之ヲ受ケサリシトキハ無資力ノ狀態繼續スルモノト認ムルコトヲ得ス故ニ第三審ニ於テ救助ノ申請ヲ爲スニ當リテハ更ニ無資力ヲ證明セサルヘカラス

○下級裁判所ニ於テ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者カ同裁判所ノ闕席判決ニ

二七		四八九	
四一		四〇九	
二九	一	九	
二九	六	五五	
三五	五	一七	
四一		一六	

至ル迄ノ訴訟手續ニ不法アリトシテ抗告ヲ爲スニ付テハ更ニ抗告裁判所ニ訴訟上ノ救助ヲ申請スルコトヲ要セス

（第百一條）

『第百一條』

○裁判所カ檢事ノ意見ヲ聽カスシテ訴訟上救助ノ付與ニ關スル申請ニ付キ決定ヲ爲スハ不當ナリト雖モ之ヲ以テ其決定ヲ取消スノ理由ト爲スニ足ラス

第三章　訴訟手續

第一節　口頭辯論及ヒ準備書面

○形式上ノ異議申立又ハ抗告申立ノ如キハ片面的ノモノニシテ常ニ其申立書ニ相手方ヲ定メテ掲クルコトヲ要セス

○辯論數日ニ渉リ前回ノ辯論ニ臨席シタル判事ニ交迭アリテ最終ノ辯論ニ新ナル判事加ハリタルトキ事實上法律上ノ陳述及ヒ證據調ノ顚末等總テノ訴訟材料ヲ更ニ提出シ自己ニ於テ必要ト思料スル限リ辯論ヲ繰返シ自己ノ主張ニ利益ナル心證ヲ判事ニ得セシムルコトニ注意スルカ如キハ各當事者ノ應ニ執ルヘキ務ニシテ判事ハ此場合ニ於テモ亦不干渉主義ノ原則ニ依リ當事者ノ爲シタル辯論中不明瞭ナル部分ヲ釋明セ

四二		九五	
三六		一九七七	
三五		一一六	

シムル迄ニ止マリ辯論シタル事項ニ對シ判斷ヲ與フルヲ以テ足レリトス

○訴訟當事者カ自己ノ爲メ利益ニシテ相手方ニ不利益ナル事實ヲ供述シタル場合ニハ相手方ニ於テ之カ取消ヲ拒ムヘキ理由ナケレハ裁判所モ亦其取消ヲ許容セサルヘカラス　三六　九四

（第百三條）

『第百三條』

○控訴ノ判決カ上告ニ因リ破毀セラレ控訴審ニ差戻又ハ移送セラレタル場合ニ於テ當事者カ前控訴審ニ提出シタル請求ノ擴張減縮又ハ攻擊防禦ノ方法等ニ關スル總テノ書類ハ唯書面又ハ準備書面トシテ記錄中ニ存在スル迄ニ付キ差戻又ハ移送ニ依リ繫屬シタル控訴審ニ於テ右等ノ書類ニ基キ更ニ口頭ヲ以テ各當事者ヨリ之カ旨趣ヲ演述スルニ非サレハ其效果ヲ發生スルコトナシ　三八　七九

（第百五條）

『第百五條』

○準備書面及ヒ判決ニ原告「何某外幾名」ト記載シタル場合ニ於テ其幾名ノ何人ナルヤハ訴狀添附ノ委任狀ニ總體ノ原告氏名住所等存スルヲ以テ訴狀ニ之カ表示ヲ揭ケタルモノト看做スコトヲ得ヘキカ故ニ民事訴訟法第百五條第一號第百九十條第一項第一號及ヒ第二百三十六條第一號ノ規定ニ違背シタルモノト云フヲ得ス　三六　一二八二

○訴訟代理人カ未タ法廷ニ於テ陳述シタルニ非スシテ唯其準備書面ニ記載シタル事實ノ如キハ本人ハ勿論代理人モ亦自由ニ之ヲ取消シ若クハ更正スルコトヲ得ルモノトス　二八　一六〇

○民事訴訟法第百五條第六號ニ所謂捺印ニハ必スシモ實印ヲ用ユルノ規定ナキニ依リ署名者ノ印章ナル上ハ其如何ナルモノヲ使用スルモ訴狀ノ效力ニ影響ヲ及ホスコトナシ　三五　一三三

○民事訴訟法第百五條第六號ニ謂フ署名トハ記名ノ謂ニシテ自署ノ謂ニ非ス　二九　一〇

（第百六條）

『第百六條』

○訴ヲ以テ契約ノ解除ヲ求ムヘキモノニ非サルモ他ノ請求ト同時ニ訴狀ニ解除ノ意思ヲ併記スルハ妨ナキモノトス　三六　九五八

（第百十條）

『第百十條』

○口頭辯論ノ期日當事者ノ一方闕席シ他ノ一方カ出廷シタルトキ調書中其出廷シタル者カ何等ノ申立ヲ爲シタル事蹟ナキトキハ口頭辯論ハ開始セラレサルモノト見ルノ外ナシ故ニ其開始ナキニ拘ハラス職權調査ノ結果ニ依リ直ニ言渡シタル判決ハ違法ナリ　三四　四　七三　三一　三　五八

(第百十一條)

『第百十一條』

○明カニ爭ハサル所ノ事實ハ自白シタルモノト看做スコトハ法律ノ命スル所ナルヲ以テ明カニ爭フタルノ事實ヲ表示セサル限ハ上告ノ理由ト爲ラス　二六　二　七九

○對手者ノ陳述ニ反對若クハ相異ノ點アルニモ拘ハラス抗辯セサルトキハ民事訴訟法第百十一條第二項ニ依リ其事實ヲ爭ハサルモノト看做スヘキモノトス　二九　三　一二三

(同主旨)

相手方ノ主張ニ對シ辯駁セサルトキハ之ニ異議ナキモノト看做サルハ訴訟手續上當然ノ結果ナリトス　二八　三　一三〇

○相手方カ起訴者ノ主張事實ヲ爭ハサル場合ニ於テ起訴者ニ對シ立證ヲ要メタル判決ハ違法ナリ　三八　一六七八

○自白ノ取消スヘカラサルハ當事者ノ爲シタル明示ノ自白ニ限ルモノニシテ民事訴訟法第百十一條ニ依ル自白ハ取消スヘカラサルモノニ非ス　四五　一七六

○不知ノ答述ヲ採用シ且判決ノ要點ニ理由ヲ付セサル裁判ハ破毀ノ原由アルモノトス　二五　一　三九

○係爭立木ノ一部ノ伐採カ當事者自身ノ行爲又ハ自己ノ實驗シタルモノニ係ルトキハ該立木中何レノ部分ヲ伐採シタルヤハ其當事者ノ當然知ルヘキ事實ニシテ民事訴訟法第百十一條第三項ニ依リ不知ノ陳述ヲ許ササルモノトス　三九　一九九

(第百十二條)

『第百十二條』

○裁判所ハ其係爭事實ノ範圍內ニ於テ何レノ主張スル事實カ正當ナルヤヲ判斷スヘキモノニシテ敢テ其範圍外ノ事項ニ干涉シ職權上調査スヘキモノニ非ス　三五　六　三四

○約束手形ニ支拂地ノ記載アルヤ否ヤハ當事者間ノ爭點ト爲ラサル場合ニ於テハ裁判所ノ職權ヲ以テ之カ調査ヲ爲スノ要ナシ　三六　一一五一

○約束手形ニ振出地ノ記載ヲ欠クヤ否ヤハ裁判所カ職權ヲ以テ調査スヘキ事項ニ非サレハ當事者間ニ爭ノ存セサル以上ハ裁判所ハ自ラ進テ之ヲ調査シ其手形ノ效力ノ有無ヲ判斷スヘキモノニ非ス　三七　一三七〇

○一定ノ申立ト訴ノ原因ト相副ハサル場合ハ所謂不明瞭ナル申立ナルヲ以テ裁判所ハ當事者ヲシテ之ヲ釋明セシムルノ任務アリトス　三一　三　二三

○第一審廷ニ共有山林ヲ分割シ其三分ノ二ヲ控訴人ニ取得セシムヘシ」ヲ變更シ「總テノ山林ヲ分割シ其三分ノ一ヲ控訴審ニ至リ一定ノ申立トノ申立ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ先ツ其不明瞭ナル申立ヲ釋明セシ

メ若シ其申立ニシテ確認訴訟ニ改ムルノ旨趣ナリトセハ確認訴訟トシテ之ヲ許シ得ヘキ事件ナルヤ否ヤヲ調査シ以テ相當ノ判決ヲ與フヘキモノトス

○裁判所ハ當事者ノ申立ニ不明瞭ノ點アルトキハ之ヲ釋明セシメ又其主張事實ニ不十分ノ廉アルトキハ之ヲ補充セシメサルヘカラス從テ其不明瞭又ハ不十分ナルコトヲ理由ト爲シ直ニ敗訴ヲ言渡スカ如キハ不法ナリ

（同主旨）

一定ノ申立ニ對スル辯明ニ因リ訴旨ノ如何ヲ確メ得ヘキ場合ニ於テ裁判所カ其辯明ヲ採ラス單ニ申立ノ文字ニ拘泥シ訴旨ヲ判斷シタルハ不法サリ

一定ノ申立カ不明瞭ナルトキハ裁判所ハ民事訴訟法第百十二條第二項ノ規定ニ從ヒ其不明瞭ナル點ヲ釋明セシメタル上判決ヲ爲スヲ相當ノ手續ナリトス

○民事訴訟法第百十二條第二項及ヒ第百十七條ハ主トシテ裁判所ノ職權ヲ定メタルモノナレトモ訴訟事件ノ關係ニ依リ未タ裁判ヲ爲スニ熟セサルトキハ裁判所ハ此等ノ規定ニ從ヒテ檢證鑑定等ヲ命スルノ權ヲ有スルト同時ニ亦其義務ヲ負フモノトス

○裁判所カ當事者ノ主張シタル事實ノ不明瞭ナルトキニ於テ之ヲ釋明セ

三六	一三一三		
三九	九五六		
二九	三	九	
三〇	二	一	
三九	一七〇二		

シムルハ其權利タルト同時ニ亦義務ナルヲ以テ判決ニ影響スヘキ事實主張ノ不明瞭ナル場合ニ之カ釋明ヲ爲サシメサルハ違法ナリトス

（反對）

民事訴訟法第百十二條ハ總テ裁判長ニ注意ヲ訓示シタル法條ナレハ之ニ準據セサルコトアルモ判決ノ瑕疵ト爲ラス

（第百十四條）

『第百十四條』

○本人訊問ノ決定ヲ爲サスシテ呼出狀ヲ送達シタルハ其當ヲ得サルモ其期日ニ出頭シ何等ノ異議ヲ述ヘスシテ口頭辯論ヲ爲シタルトキハ毫モ當事者ノ防禦權利ヲ害スル所ナキヲ以テ之カ爲メ其判決ヲ破毀スルニ足ラス

（第百十七條）

『第百十七條』

○職權ヲ以テ命シタル鑑定人カ宣誓ヲ爲ス際必スシモ當事者ノ立會ヲ要セス又鑑定人ハ常ニ鑑定書ノ說明ヲ爲ササルヘカラサル義務ナシ

○裁判所ハ民事訴訟法第百十七條ニ依リ職權ヲ以テ鑑定ヲ命スルコトヲ得ヘキカ故ニ當事者ノ申立ニ因リテ鑑定ヲ命スル場合ニ於テ其申立以外ノ事項ニ付キ職權ヲ以テ鑑定ヲ命スルコトヲ得

○裁判所ハ鑑定及ヒ檢證ヲ命スルノ職權ヲ有ス從テ當事者ノ一方ノ申立

四四	三八六		
二九	八四		
三三	五八		
二八	六三		
三五	四九		

ニ因ル鑑定若クハ檢證中他方ノ援用セサルモノト雖モ其者ノ爲メニ之ヲ採用スルコトヲ得

（同主旨）裁判所ハ檢證及ヒ鑑定ヲ命スルノ職權アルヲ以テ縱令當事者ニ於テ援用セサル檢證調書又ハ鑑定書ヲ心證ニ供スルモ違法ニ非ス

○鑑定ハ裁判所カ必要ト認ムル場合ニ之ヲ命スルモノトス從テ鑑定ヲ必要トセサルトキハ縱令當事者ノ申出アルモ之ヲ排斥スルコトヲ得

（同主旨）裁判所ニ於テ鑑定ヲ必要トセサルトキハ縱令當事者ノ申立アルモ之ヲ排斥スルコトヲ得ヘシ

○鑑定及ヒ檢證ハ他ノ證據ト異ナリ裁判所ノ職權ヲ以テ命スルコトヲ得ヘキモノナレハ縱令當事者ノ申出アルモ自由ニ之ヲ却下スルコトヲ得而シテ其申立ヲ却下シタル理由ノ如キハ之ヲ判決ニ說示スルノ要ナシ

三九　三三　三九　三六　四二　三〇
四　五
七九　七二九　一六六　四五八　九六

（第百十八條）

『第百十八條』

○訴訟ノ併合審理ヲ命シタル後其決定通リ履行セサルトキハ更ニ分離シテ審理スヘキコトヲ命スルハ當然ナルモ此手續ヲ爲サス分離ノ上審理判決シタリトテ訴訟手續ニ違背シタルモノト云フヲ得ス

○適法ナル訴ニ附帶シ不適法ナル請求ヲ併セ之ヲ提起シタル場合ニ於テ裁判所ハ之ヲ分離シテ其不適法ナル請求ノ一部ノ訴ヲ却下シ他ノ適法ナル請求ノ本案ニ對シ審判ヲ爲スハ妨ナキモノトス

（第百十九條）

『第百十九條』

○民事訴訟法ニ所謂數箇ノ獨立ナル攻擊又ハ防禦ノ方法トハ孰レモ相互ニ相對的無關係ナル法律上ノ判斷ヲ爲サシムルモノヲ云フ故ニ辯論中ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス民事訴訟法第百十九條ノ規定ニ從ヒ何時ニテモ之ヲ制限シ得ヘク又辯論ノ終結後ハ同法第二百三十條第二項ノ規定ニ依リ其間適切ナリト思料スル一箇ニ對シテノミ判斷ヲ與フルコトヲ得ヘシ

○相續財產ノ取戻ヲ請求スル訴訟ニ於テ相手方ノ抗辯ニ對シ其賣買ハ僞造證書ニ出テタルカ若クハ虛僞ノ意思表示ニ出テタルモノナリトノ起訴者ノ主張ハ民事訴訟法ニ所謂數箇ノ獨立ナル攻擊方法ニシテ請求ノ原因ニ非ス故ニ其方法二者相容レサルニ拘ハラス同時ニ提出スルヲ妨ケス

○同一ノ請求ヲ維持スルカ爲メニ數箇ノ獨立ナル攻擊及ヒ防禦ノ方法ヲ提出スルコトヲ得ヘキハ民事訴訟法第百十九條ノ認ムル所ナレハ數箇ノ訴ノ原因ヲ主張スルコトヲ妨ケス

三四　二　四四　三一　二　三七　三五　一一　一三三　四四　九二〇

(第百二十條)

『第百二十條』

○民事訴訟法第四十八條ハ當事者ニ訴訟ノ併合ヲ許シ同法第百二十條ハ裁判所ニ訴訟ノ併合ヲ許シタル規定ニ係レリ此規定ニ基キ訴訟ヲ併合シタル結果ハ兩者同一ノ效力ニ歸ス便チ第一審裁判所カ右第百二十條ノ規定ニ依リ併合ヲ命シ審理ノ末一通ノ判決文ヲ以テ裁判ヲ言渡シタルハ固ヨリ相當ナリ其敗訴者カ之ニ對シ一通ノ控訴狀ヲ以テ控訴ヲ提起シタルモ亦適法ナリ然ルニ原院カ之ヲ同法第四百十九條ノ形式ニ從ハサル不適法ノ控訴トシテ排斥シタルハ法律ニ違背シタル失當ノ裁判ナリ　二七

○訴ノ併合ハ原告カ同一ノ被告ニ對スル數箇ノ請求アル場合ニ限ラス又別異ノ人ニ對スル數箇ノ訴訟ト雖モ其請求カ元來一箇ノ訴ニ於テ主張シ得ヘキモノナルトキハ之ヲ爲スコトヲ得　二九　六　七二

(第百二十一條)

『第百二十一條』

○當事者間ノ係爭目的物件ニ對シ其所有權ヲ主張シ之カ名義切換ヲ請求スル主參加申立アルトキハ本訴訟ノ辯論ハ民事訴訟法第五十二條第一項ニ依ルモ又ハ同法第百二十一條ノ規定ニ依ルモ主參加訴訟ノ完結ニ至ルマテ之ヲ中止スルヲ相當トス　二八　一　七一

○養嗣子カ相續人ノ資格ヲ以テ財産上ノ訴ヲ提起シタル場合ニ於テ他ニ其相續權ノ有無ニ付キ訴訟カ繫屬シアルトキハ裁判所ハ民事訴訟法第百二十一條ニ依リ右相續權ノ有無ニ關スル訴訟ノ完結ニ至ルマテ財産上ノ訴ノ辯論ヲ中止スルヲ得ヘキモノトス　二九　一〇　一

(刑)

○特許權侵害ニ關スル民刑訴訟ノ進行中特許無效ノ訴カ特許局ニ提起セラレタルトキハ通常裁判所ハ其訴訟ヲ中止シ特許局審判ノ結了ヲ待テ裁判ヲ爲ササルヘカラス　三七　一六七九

○債權ノ讓受人カ債務者ニ對シ辨濟請求ノ訴訟ヲ提起シタル場合ニ於テ他ニ其債務者ヨリ讓渡人ニ對シテ債權不成立確認ノ訴訟ヲ提起シタルトキハ裁判所ハ其確認訴訟ノ完結ニ至ルマテ辨濟請求ノ訴訟ノ辯論ヲ中止スヘキモノトス　三八　一八一七

○裁判所カ民事訴訟法第百二十一條ニ依リ他ノ訴訟ノ完結ニ至ルマテ本訴訟ノ辯論ヲ中止スヘキ場合ハ他ノ訴訟ニ於テ定マルヘキ權利關係ノ成立又ハ不成立ノ裁判カ必スシモ本訴訟ノ當事者ニ對シテ羈束力アルコトヲ要セス唯本訴訟ノ裁判ニ對シ先決的影響ヲ及ホスヲ以テ足レリトス　三九　一〇六三

(同三三)

民事訴訟法第百二十一條ノ規定ハ他ノ繫屬スル訴訟ニ於テ定マルヘキ權利關係ノ成立又ハ不成立カ本訴訟ノ裁判ニ對シ先決的性質ヲ有スル場合ニハ他ノ訴訟ノ完結ニ至ルマテ本訴訟ノ辯論ヲ中止スヘキ法意ニシテ苟モ他ノ訴訟カ本訴訟ニ對シ先決的法律關係ヲ有スル以上ハ二箇ノ訴訟ノ當事者カ彼此同一ナルト否トハ毫モ中止ノ必要ヲ輕重スルモノニ非ス

○民事訴訟法第百二十一條ノ規定ニ依リ辯論ヲ中止スルコトハ裁判所ノ職權ニ屬スルモ當事者ヨリ之ヲ申立テ其職權ノ行使ヲ促スコトヲ得ルヤ言ヲ俟タス

○民事訴訟法第百八十九條ニ所謂此法律ノ規定ニ基ク訴訟手續ノ中止トハ同法第百二十一條ノ規定ニ基ク辯論中止ノ場合ヲモ包含スルモノナレハ當事者カ辯論ノ中止ヲ申立テタル場合ニ於テ裁判所カ之ヲ拒ミタルトキハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

○民事訴訟法第百二十一條ハ訓示的規定ニシテ訴訟ノ裁判ニ對シ他ノ訴訟ニ於テ定マルヘキ權利關係ノ成立又ハ不成立カ先決的影響ヲ及ホスヘキトキト雖モ辯論ヲ中止スルト否トハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムルコトヲ得ルモノトス

三七　七二二

二　一〇五

二　一〇五

二　九〇五

（第百二十二條）

『第百二十二條』

○民事訴訟中刑事訴訟起リタルトキハ刑事判決ノ確定ニ至ルマテ民事訴訟ヲ中止スヘシ

○當選訴訟ノ被告カ衆議院議員選擧法違犯ノ罪ニ因リ刑ノ宣告ヲ受ケ控訴中ノ者ナルトキハ後日其刑ノ宣告確定セハ被告ノ當選ハ無效ト爲リ本案訴訟ハ自ラ解決セラルヘキヲ以テ民事訴訟法第百二十二條ニ罰スヘキ行爲カ訴訟ノ裁判ニ影響ヲ及ホストキトアル場合ニ該當ス

○民事訴訟法第百二十二條ノ場合ニ於テハ罰スヘキ行爲カ果シテ訴訟ノ裁判ニ影響ヲ及ホスヤ否ヤヲ顧ミテ辯論中止ノ當否ヲ判斷スヘク其訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヤハ之ヲ斟酌スルノ要ナシ

○當事者ノ一方カ訴訟中相手方ニ犯罪行爲アリト思料シテ告訴ヲ爲シタル場合ト雖モ裁判所ニ於テ罰スヘキ行爲ノ嫌疑アリト認メサルトキハ訴訟手續ヲ中止スルノ要ナシ

○民事訴訟法第百二十二條ハ任意的規定ナレハ訴訟中罰スヘキ行爲ノ嫌疑ヲ生シ其行爲カ訴訟ノ裁判ニ影響ヲ及ホス場合ト雖モ同條ニ依リ辯論ヲ中止スルト否トハ裁判所ノ意見ヲ以テ決スルコトヲ得

二四　一　一〇二

三五　九　九五

三八　一一〇九

四〇　一二一五

四五　三三八

（第百二十四條）

『第百二十四條』

○口頭辯論ノ再開ヲ命シ新期日ヲ指定シテ當事者ニ呼出狀ヲ送達シタル以上ハ縱令再開ヲ命シタル理由消滅シテ再開ノ必要ナキニ至ルト雖モ

仍ホ當事者ヲシテ口頭辯論ヲ爲サシメタル後ニ非サレハ判決ヲ爲スヲ得ス　二九一五八

○口頭辯論終結後ニ於ケル辯論ノ再開ハ裁判所ノ職權ニ屬スルヲ以テ縱令當事者ヨリ提出シタル辯論再開ノ申請ヲ却下スルモ之ニ對シ抗告スルヲ得サルモノトス　三四七六五

○訴訟カ裁判ヲ爲スニ熟スルヤ否ノ鑑定ハ其裁判所ノ見込ニ任スヘキモノナルニ付キ一旦閉チタル辯論ヲ再開スルカ如キハ全ク裁判官ノ職權ニシテ訴訟當事者ノ權利ニ屬セス　三五四四

○閉チタル辯論ヲ再開スルト否トハ一ニ裁判所ノ職權ニ屬スルモノトス從テ裁判所ハ當事者カ爲シタル再開廷ノ申請ニ付キ一一許否ノ決定ヲ爲スノ責ナシ　三八二七二

（同主旨）

辯論ヲ再開スルト否トハ當事者ノ申請ヲ俟テ決スヘキモノニ非ス一ニ受訴裁判所ノ職權ヲ以テ自由ニ之ヲ決シ得ルモノトス而シテ其職權ニ屬スル事項ニ關シテハ裁判所ハ當事者ノ申請ニ付キ必スシモ許否ノ裁判ヲ爲スヲ要セス　三六一三五七

『第百二十九條』

（第百二十九條）

○裁判所書記カ數回ノ口頭辯論調書ヲ一貫シ裁判言渡ノ日ニ於テ作成シ毎回作成セサルモ調書ハ無效ト爲ラス　三〇四五六

○裁判所書記カ各期日ニ辯論調書ヲ作成セサルモ其判決ニ影響ヲ及ホササル限ハ上告ノ理由ト爲ラス　三〇六五二

○法廷調書ハ各箇ノ辯論ニ付キ當事者ノ陳述アルニ從ヒ其時時書記之ヲ作成シ裁判長檢閲ノ上署名捺印スヘキモノニシテ草稿ニ依リ事後ニ作成スルコトヲ得ス　三一三七九

○法廷調書カ其作成ニ關スル規定ニ違背セル不法アルモ之カ爲メ特ニ不利益ヲ受ケタリトノ擧證ナキ以上ハ原裁判破毀ノ理由ト爲ルヘキモノニ非ス　三一三七九

○口頭辯論調書ニハ合議裁判所ノ評議ノ顚末ヲ記載スヘキモノニ非サルカ故ニ特ニ合議ヲ爲シタル旨ノ記載ナキモ之ヲ以テ裁判長カ單獨ニテ裁判ヲ爲シタルモノト論斷スルヲ得ス　三二四五三

○基本タル口頭辯論ト裁判ノ言渡トノ日時ヲ異ニスルトキハ其調書ハ各別ニ之ヲ作成スヘシトノ規定ナキヲ以テ右ノ二事項ニ關スル記事ニ付キ一ノ調書ヲ作成スルモ敢テ不法ニ非ス而シテ斯ル場合ニ於テハ其最尾ニ裁判長竝ニ書記ノ署名捺印アレハ足ルモノニシテ必スシモ各記事ノ終尾毎ニ其署名捺印ヲ要セス　三六二〇四

○民事訴訟法第百二十九條ニ列記セル事項ハ唯口頭辯論調書ニ掲クヘキコトヲ注意シタルニ止マルヲ以テ縱令之カ記載ノ遺漏セルモノアルモ辯論ノ效力ニ影響ヲ及ホスコトナシ　三六　一三三九

（同主旨）

民事訴訟法第百二十九條ニ列記セル事項ハ之ヲ口頭辯論調書ニ掲クヘキコトヲ注意シタルニ止マリ若シ其事項中掲記セラレサルモノアルモ之カ爲メ辯論ノ效力ニ影響ヲ及ホスヘキモノニ非ス從テ其口頭辯論ヲ無效ナリト云フヲ得ス

○口頭辯論調書作成ノ日附ハ記載要件ニ非サルヲ以テ其有無若クハ誤脫ノ如キハ調書ノ效力ニ影響ヲ及ホスコトナシ　三六　七四一

○民事訴訟法第百二十九條第二項第一號ノ規定ニ於ケル事項ノ如キハ之ヲ欠缺スルモ其調書ヲ當然無效ト爲スヘキモノニ非ス　三七　一一一九

○口頭辯論調書ニ書記ノ出廷シタルコトノ明記ナキモ其調書ヲ作成シタル書記ノ署名捺印アル以上ハ當然出廷シタルモノト認ムルヲ得ヘシ　三六　一〇一九

○口頭辯論調書ニ列席書記ノ氏名掲記シアラサルトキハ書記ノ列席ナクシテ口頭辯論ヲ開キ以テ訴訟ノ審理ヲ爲シタルモノト看做ササルヲ得ス　三一　一九

○當事者ノ氏名ハ調書ニ記載シテ明確ニスヘキ事項ニ非ス且其記載ヲ遺脫スルモ判決ノ當否ニ付キ影響ナキヲ以テ上告ノ理由ト爲ラス　三五　四　三七

○訴訟代理人ノ氏名ハ調書ニ記載シテ明確ニスヘキ事項ニ非サレハ縱令之ヲ記載セサルモ其調書ハ全然無效ナリト云フヲ得ス　三八　一三七九

○裁判言渡ハ裁判所構成法第百五條ノ規定ニ基キ常ニ公行スルモノナレハ其判決言渡ノ調書ニ公開シタル旨ノ記載ナキノ故ヲ以テ其判決言渡ハ公行セサルモノト攻擊スルハ謂レナキモノトス　三四　五　七〇

（同主旨）

判決言渡ハ常ニ公行スヘキモノナルカ故ニ辯論調書ニ其公行ノコト記載ナキモ違法ニ非ス

○民事訴訟法第百二十九條第五號ハ判決ニ接著スル口頭辯論迄ヲ調書ニ記載スヘキ規定ニシテ判決言渡ノ場合ハ該規定中ニ包含セス　三〇　六　五

○受託判事カ證人訊問ヲ爲ス場合ニ於テハ其訊問調書ニ證人トシテ出頭シタル者ノ氏名受訴裁判所ノ事件番號等ヲ掲クルヲ以テ足リ訴訟物及ヒ當事者ノ氏名出頭シタル當事者等ノ氏名若クハ其闕席シタル旨ヲ掲クルコトヲ要セス殊ニ口頭辯論調書ニ非サルヲ以テ公ニ辯論ヲ爲シ又ハ公開ヲ禁シタルコトヲ掲クヘキモノニ非ス　三五　一　二〇

（第百三十條）

『第百三十條』

○當事者ノ辯論カ民事訴訟法第百三十條ニ規定セル調書ニ記載シテ明確　四一　一四一

ニスヘキ事項ニ非サルトキハ其辯論カ調書ニ記載ナケレハトテ之ニ據テ判決ヲ下スモ當事者ノ申立テサルモノト爲スヲ得ス　二六　二　二二七

○當事者カ辯論中下級裁判所ニ於ケル口頭辯論調書ノ記事ヲ援用スル旨ノ申立ノ如キハ調書ニ記載シテ明確ニスヘキ事項ニ非ス　三六　三四一

○證言ノ援用ハ辯論調書ニ記載シテ明確ニスヘキ事項ニ非サレハ其記載ナキコトヲ論據トシテ直ニ當事者カ之ヲ援用セサリシモノト云フヲ得ス　三七　一六〇八

（同至旨）

事實上ノ申述即チ其申立ハ調書ニ記載シテ明確ニスヘキ事項ニ屬セサルヲ以テ其記載ナキ爲メ之カ申立ナカリシモノト云フヲ得ス　三一　二　三

判決ノ事實摘示ニハ裁判所ニ於テ其判決ニ影響アリト認メタルト否トニ拘ハラス必要ト不必要トヲ區別セス當事者カ口頭辯論ニ基キ演述シタル一定ノ申立一定ノ原因證據申出證據ノ結果等ヲ盡ク載スヘキモノニシテ之ニ反シ法廷調書ニハ一一之ヲ記載スヘキモノニ非ス故ニ調書ニ記載ナキコトヲ論據トシテ其申述ナカリシモノト云フヲ得ス又隨テ事實摘示ニ記載アル事項ヲ以テ直ニ其記載ノミニ因リ心證判斷ノ標準ト爲リタルモノト云フヲ得ス　三二　五　六三

證據ヲ援用シタルヤ否ヤノ如キハ辯論調書ニ載セテ明確ニスヘキ事項ニ非サレハ其記載ナキヲ以テ當事者カ援用セサリシモノト云フヲ得ス　三四　一　六一

證言ノ援用ハ民事訴訟法第百三十條ニ謂フ口頭辯論調書ニ記載シテ明確ナラシムヘキ事項ニ非サレハ同調書ニ其明記ナキノ一事ヲ以テ直ニ其事實ナカリシモノト云フヘカラス　三六　六八二

○當事者ノ一方カ係爭地上ニ貸家ヲ新築シタリトノ事ハ縱令法廷調書ニ記載ナキモ之ヲ以テ法廷ニ提出セラレサルモノト云フヲ得ス　三八　五一二

○裁判所ノ合議ハ法廷調書ニ明記スヘキ事項ニ非サレハ單ニ其明記ナキ一事ヲ以テ直ニ合議ヲ爲ササリシモノト云フヲ得ス　三八　一七九〇

（同至旨）

口頭辯論調書中證據調ノ決定ニ付キ裁判所カ合議ヲ以テ之ヲ爲シタル旨ノ記載ナキモ合議裁判所ノ決定ハ固ヨリ合議ヲ以テ爲スヘキモノナレハ反對ノ事跡ノ存セサル上ハ合議ニ因リテ爲シタルモノト認ムヘキモノナリ　三一　一〇

合議裁判所ヲ組織スル判事カ裁判前豫メ評決ヲ爲シタル事實ハ必スシモ調書ニ之ヲ明確ニ記載スルコトヲ要セス故ニ縱令其旨調書ニ記載ナキモ反對ノ事跡記錄中ニ存セサル以上ハ裁判前其評決ヲ爲シタルモノト認ムルヲ相當トス　三八　一三四五

○書證ニ對シ當事者ヲシテ認否ノ申立ヲ爲サシメ若クハ之カ辯明ヲ爲サシメタル事實ノ如キハ法廷調書ニ依リ明確ニスヘキ事項ニ非サレハ縱令調書ニ其記載ナキモ之ヲ以テ直ニ裁判所カ正當ナル手續ヲ履踐セサリシモノト推斷スルコトヲ得ス　三九　八二八

（同至旨）

證書ノ調査及ヒ認否ハ口頭辯論調書ニ記載シテ明確ニ爲スヘキ事項ニ非ス　二九　九　八

證據ノ認否ハ調書ニ記載シテ明確ニスヘキ事項ニ非ス

○當事者カ第二審ニ於テ第一審ニ於ケル相手方ノ自白ヲ證據トシテ引用スル申立ノ如キハ調書ニ記載シテ明確ニスヘキ事項ニ非ス　三九

○立證ノ旨趣ハ調書ニ記載シテ明確ニスヘキ事項ニ屬セス　四一

○訴訟受繼ノ事實ハ調書ニ記載シテ明確ニスヘキ事項ニ屬セサレハ其調書ニ記載ナキ一事ヲ以テ訴訟手續ニ違背シタル不法アリト謂フヲ得ス　四二

○民事訴訟法第百三十條中ニ所謂要領ノ中ニハ一定ノ申立ヲ包含スト雖モ其申立ヲ書面ニ基キ爲シタル事ノ記載ヲ命スルモノニ非ス　二八　三五

○一定ノ申立ハ調書ニ記載シテ明確ニスヘキモノトス

（反對）

一定ノ申立ハ辯論調書ニ記載シテ明確ナラシムルノ規定ナシ故ニ書面ノ提出アル上ハ口頭ニテモ尙ホ之ヲ申立テタルモノト爲ササルヲ得ス　二八

○法廷調書中特ニ當事者カ一定ノ申立ヲ爲シタルコトノ記載ナキモ其末尾ニ當事者雙方カ事件全體ニ關スル辯論ヲ爲シタル旨ノ記載アリ且其一定ノ申立ヲ揭ケタル訴狀及ヒ答辯書之ニ添附シアル以上ハ當事者ハ孰レモ該書面ニ基キ一定ノ申立ヲ爲シタルモノト認ムルヲ當然トス　四一

○自白認諾拋棄及ヒ和解其他調書ニ記載シテ明確ニスヘキ諸件ヲ明確ニ

三二　九四
三九　一二三
四一　二七八
四二　一三三
二八　三　二六
三五　五　二七
二八　四　一〇三
四一　八九五

セサルトキハ判文中ニ其事ノ記載アルモ之ヲ以テ適法ニ陳述アリシモノト看做スコトヲ得ス　三四　四　七三

○强制執行上有價證券ノ換價價格ハ債權者ノ任意ニ定メ得ヘキモノニ非ス執達吏ニ於テ規則ニ依リ處分スヘキモノナルカ故ニ縱令債權者カ其換價價格ニ付キ執達吏ニ對シテ自己ニ不利益ナル申込ヲ爲スモ民事訴訟法ニ所謂自白ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス　三八　一三七一

○民事訴訟法第百三十條ニ依リ辯論調書ニ明確ニスヘキ自白ハ當事者ノ爲シタル明示ノ自白ニ限ルモノニシテ法律ノ推定シタル自白ヲ包含セサルモノトス　四五　一七六

（同主旨）

暗默ノ自白即チ明カニ爭ハス若クハ爭フノ意思顯ハレサルノ故ヲ以テ裁判所カ自白ト推定スル事實ノ如キハ之ヲ法廷調書ニ記載スヘキ限ニ在ラス　三七　二一三

○自白ハ調書ニ記載シテ明確ニスヘキ事項ナルカ故ニ調書ノ記載ト判決ノ摘示ト相容レサルトキハ調書ノ記載ニ依據セサルヘカラサルモノトス　二　七七九

○第二回ノ口頭辯論ニ際シ判事ニ變更アリ其變更後當事者カ更ニ第一回調書ニ記載アル如キ申立ヲ爲シタル事蹟存セサルトキハ第一回辯論ノ

際爲シタル申立ハ裁判所ニ於テ認メラルヘキ道理ナシ　三一　三　一九

○適法ニ調製セラレタル訴廷調書中縱令當事者ノ一方カ一旦爲シタル申立及ヒ陳述等ヲ取消ス旨記載アルモ之カ爲メ調書自體ヲ無效ニ歸セシムルコトナシ　三一　六　二四

○調書ニ記載シテ明確ニスヘキ規定アル申立及ヒ陳述若クハ自白又ハ證人及ヒ鑑定人ノ供述若クハ檢證ノ結果等ニシテ苟モ之ヲ明確ニシタル以上ハ爾後辯論數回ニ渉リ縱シヤ其間ニ於テ判事ニ交迭アルモ其交迭アル毎ニ右明確ニシタル事項ヲ更新スヘキモノニ非ス　三五　一一　一〇三

○民事訴訟法ニ依ル決定ニハ必スシモ理由ヲ付スルノ要ナク又書面ニ作リ調書ニ添附セサル決定ハ之ヲ調書ニ記載シテ明確ニスルヲ以テ足レリトス　四一　二三七

○裁判ノ言渡ハ調書ニ於テ明確ニ爲スヘキモノナリト雖モ單ニ之ヲ言渡シタリトノコトヲ記載スレハ足リ裁判ノ結果マテモ記載スルヲ要スルモノニ非ス　三一　三　四三

○判決ノ言渡ニ關スル事項ヲ其前回ニ於ケル口頭辯論調書ノ末尾ニ續テ記載シタル場合ニ於テハ特ニ其部ニ記載セサルモノハ總テ前回ノ辯論ト同一ノ方式ヲ履行シタルモノト推定スヘシ　三五　一〇　一五九

○判決ノ言渡ハ其前回ノ口頭辯論調書ノ末尾ニ之ヲ附記スルモ敢テ法律ノ禁スル所ニ非サレハ其適法ナルヤ勿論ナリ而シテ斯ル場合ニ於テハ言渡調書ハ之ニ記載シアル日時及ヒ場所ニ於テ作成セラレタルモノト認メサルヘカラス　三六　六八二

（第百三十一條）

『第百三十一條』

○口頭辯論調書ニ於テ明確ニスルノ必要ナキ事項ハ當事者ニ讀聞カセ又ハ閲覽セシムルヲ要セス　二八　三　二六

（刑）○民事訴訟法第百三十一條ノ規定ニ違フト雖モ其調書ハ無效ニ非ス故ニ之ヲ斷罪ノ資料ニ供スルモ不法ナリトセス　二九　一　三四

○調書ニ記載シテ明確ニスヘキ證人ノ供述ヲ關係人ニ讀聞カセ又ハ閲覽セシムルノ手續ヲ缺クモ之カ爲メ口頭辯論調書ハ全然無效ト爲ルヘキモノニ非ス　三〇　四　五六

（同三七四）

民事訴訟法第百三十一條ノ規定ニ於テ特ニ調書ヲ關係人ニ讀聞カセ又ハ閲覽セシムヘキモノヲ讀聞カセス又ハ閲覽セシメサル場合其關係人ヨリ異議ノ申立アルトキト雖モ其部分ニ限リ證據力ヲ失フコトアルヘキノミニシテ之カ爲メ調書全部ノ無效ヲ惹起スヘキ筋ナシ故ニ調書ハ之ヲ讀聞カセサルモ之ヲ示ササルモ無效タルヘキモノニ非ス　二七　五七七

○口頭辯論調書ニ民事訴訟法第百三十條第二項第一號乃至第四號ノ事項ヲ掲ケサル場合ニ於テハ必スシモ之ヲ當事者ニ讀聞ケ又ハ閲覽セシムルコトヲ要セス　三一　一一　四八

（同三七目）

口頭辯論調書中自白其他調書ニ記載シテ明確ニスヘキ事項記載ナキトキハ當事者ニ之ヲ讀聞カセル等ノ手續ヲ爲スヲ要セス從テ其手續ノ有無ヲ記載スルノ要ナシ　二八　四　六五

口頭辯論調書中自白認諾其他調書ニ記載シテ明確ニスヘキ諸件記載ナキトキハ之ヲ關係人ニ讀聞カセタル手續ヲ記セサルモ判決ノ當否ニ影響ヲ及ホスヘキモノニ非ス　二八　五　二八

口頭辯論調書ハ民事訴訟法第百三十條第一號乃至第四號ニ關スル部分ノ外必スシモ當事者ニ讀聞ケ又ハ閲覽セシムルヲ要セス　二九　九　一三

口頭辯論調書ハ民事訴訟法第百三十條第一號乃至第四號ノ事項ヲ掲ケサル場合ニ於テハ必スシモ之ヲ當事者ニ讀聞カセ又ハ閲覽セシムルヲ要セス　三一　五　三

○證人ノ訊問調書ヲ關係人ニ讀聞カセ又ハ閲覽セシメサルトキハ違法タルヲ免レスト雖モ此等ノ手續ハ當事者ニ於テ有效ニ抛棄シ得ルモノナルヲ以テ若シ當事者ニ於テ證人訊問ニ立會シ居ルニ拘ハラス之ニ對シ異議ヲ申立テサルトキハ責問權ヲ抛棄シタルモノト看做ス　三五　一　九三

（刑）○民事訴訟法第百三十一條第二項ハ同第百三十條第一號乃至第四號ニ掲ケタル調書ノ部分ハ法廷ニ於テ之ヲ關係人ニ讀聞カセ又ハ閲覽ノ爲メ之ヲ關係人ニ示シタルコト及ヒ諾否ノ理由ヲ附記スルヲ可トスルノ法意ニシテ之カ附記ヲ爲ササルモ無效ト云フヘカラス　二八　一二

○臨檢調書ニ關係人ニ讀聞カセ若クハ閲覽セシメタルコト及ヒ其手續ヲ履ミタルコト等ノ記載ナキハ違法ナリト雖モ上告人カ之ニ關シ原審ニ於テ異議ヲ留ムルニ非サレハ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス　三三　六　五四

（第百三十二條）

『第百三十二條』

○口頭辯論調書ハ裁判長及ヒ書記ノ署名捺印ヲ數日ノ後ニ爲スモ其調書タルノ效力ヲ失ハス　二九　四　三三

○口頭辯論調書ニ於ケル裁判長ノ署名ハ書記ノ署名ト同時ニ爲スヲ要セス從テ署名ノ日時裁判長差支アルトキハ他ノ判事之ニ代リテ署名スルモ可ナリ　二九　六　三〇

○口頭辯論各期日ニ作成セル數箇ノ辯論調書ニ通シ單ニ一回ノミ裁判長及ヒ裁判所書記ニ於テ署名捺印スルモ其調書ヲ無效ナリト云フヲ得ス　二九　一〇　四六

○二次以上口頭辯論ヲ開キタルトキ最初ノ調書ニハ裁判官書記ノ署名捺印ナク最終ノ調書ニノミ其署名捺印アルハ調書作成ニ關シ相當ノ手續ヲ欠キタルモノナルモ其記載事項ハ通シテ認證セラレタルモノニシテ且之カ爲メ調書ヲ無效タラシムル制裁ナキニ依リ調書ナクシテ裁判ヲ